

平成25年度

柏市学力・学習状況調査結果報告書

**『次の手を見いだすために…』**

平成25年7月

柏市教育委員会



## 平成25年度 柏市学力・学習状況調査結果分析資料目次

◆巻頭言 「一人一人の学びに沿った授業改善を」	1
■柏市学力・学習状況調査概要	2
□柏市学力調査事項	
□生活・学習意識調査事項	
□学力調査分析内容について	
□生活・学習意識調査について	3
■各学級・学校における分析について	
□基礎力と活用力の相関関係から学力状況を把握する	
□経年変化から子どもたちの状況と指導効果を把握する	
■小学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	4
■小学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	6
■小学校【第4学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	8
■小学校【第5学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	10
■小学校【第6学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	12
■中学校【第1学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	14
■中学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	16
■中学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	18
■中学校【第2学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	20
■中学校【第3学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	22
■小学校【第2学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	24
■小学校【第3学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	26
■小学校【第4学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	28
■小学校【第5学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	30
■小学校【第6学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	32
■中学校【第1学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	34
■中学校【第2学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	36
■中学校【第3学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	38
■中学校【第2学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	40
■中学校【第3学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	42
■中学校【第2学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	44
■中学校【第3学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	46
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	
□学習が好きは学ぶ意欲のバロメーターこれは学習時間と内容と関係する	48
□子どもの変化に合わせた、小学校から中学校への緩やかな接続が必要	49
□柏市の児童生徒に読書活動は定着しつつある	50
□学校図書館の活用は、児童・生徒の学力向上に結びつく	51
□これからの学校図書館の役割、高学年以上は学習情報センターとして	52
□ICT活用で学力は向上する	54
■分析用エクセルシートの使用法	56



## 一人一人の学びに沿った授業改善を

柏市教育委員会

教育長 河原 健

平成24年度より柏市独自に学力学習状況調査を実施し、2回目の結果分析を終えました。

柏市の子どもたちの学力状況は、全国平均をやや上回るという結果を2年連続で得ることができました。この結果をどのように受け止めて、次の指導に生かすかが、学力テストを実施する目的です。

柏市教育委員会としましては、平成23年度に策定した柏市教育振興計画に基づき、子どもたちに豊かな学びを育むために実施している教育施策の効果と課題を、この調査結果をもとに分析し、今後の施策展開に生かして参りたいと考えております。本報告書を発行するだけでなく、さらに詳細な分析を行い、学校のニーズに応え、子どもたちの成長につながる施策につなげていきたいと考えております。

柏市の学力状況が全国平均値をやや上回るという結果は、約27,000人の子どもたち一人一人の足跡です。この学びを支えているのは、先生方一人一人の授業であり、先生方の日々の努力がここに結実していると思います。

さらに子どもたちに力をつけていくためには、この調査結果から、一人一人の学力状況を把握し、これからの1年どのような指導改善を図っていくかを見いだすことが大切です。そして、次年度の調査結果をもって指導の成果を確認していくこととなります。今年度から、全国学力・学習状況調査も小学校6年と中学校3年の全児童生徒に行われるようになりましたが、柏市は独自の学力調査を当該学年でも行うと判断したのは、単に調査をするのではなく、一人一人の学びの状況に合わせた指導改善を図るためだからです。

柏市教育委員会だけでなく、各学校、各学年、各学級、各家庭、子どもたちに関わる全ての人々が当事者意識を持って調査結果を分析し、一人一人の子どもたちの学ぶ意欲に響き、生きる力につながる「次の手」を見いだしてくださることを期待しております。

## 柏市学力・学習状況調査の概要について

実施日 平成25年4月（各学校が設定した日）

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 20校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,442人	国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	3年	3,562人	
	4年	3,544人	
	5年	3,566人	
	6年	3,633人	
中学校	1年	3,262人	国語及び数学（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	2年	3,240人	国語，数学，社会，理科，英語（5教科）
	3年	3,200人	生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）

### 柏市学力・学習状況調査について

#### 【学力調査事項】

- ・ 児童生徒の前年度の履修内容を調査
- ・ 出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題
- ・ 基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題
- ・ 国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題
- ・ 記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題

#### 【生活・学習意識調査事項】

- ・ 学習意欲，学習習慣，生活習慣，学校図書館やICTの活用等に関するアンケート調査

#### 【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示してあります。

まず、当該学年教科について、全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、レーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにしました。

次に、経年変化として、本年度の当該学年教科の平均正答率と、同一児童生徒の1年前のものとの比較、前年度同学年の児童生徒のものとの比較を、レーダーチャート図にまとめております。子どもたち自身の成長を把握すると同時に、前年度の子どもたちとの比較をし、経年変化を2側面から分析しました。

調査結果から把握できる、子どもたちの良さ（強み）と課題を示し、良さを伸ばしつつ、課題を克服していくための授業改善について、改善の方向性や具体的指導例を示しました。

各学校においては、指導例を参考に指導改善に生かしてください。また、正答率に課題

が残った設問については、フォローアップ問題が入ったCDより類似問題利用し、確実な定着にご活用ください。

#### 【生活・学習意識調査について】

昨年度は、生活・学習状況調査結果と学力との相関分析を行っていましたが、今年度は相関分析を行っていません。

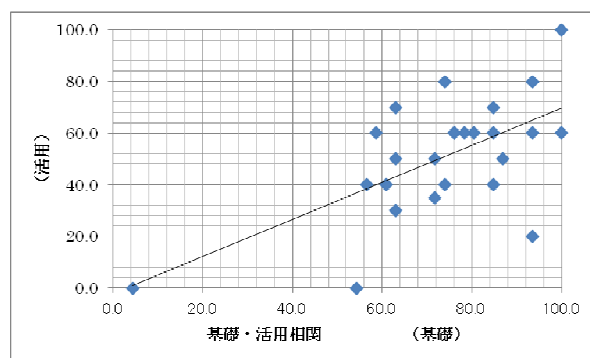
学ぶ意欲、学校図書館活用、ICT活用の度合いと、学習状況との比較を行い、よりよい授業改善に資する内容を記載しました。

### 各学級・学校における分析について

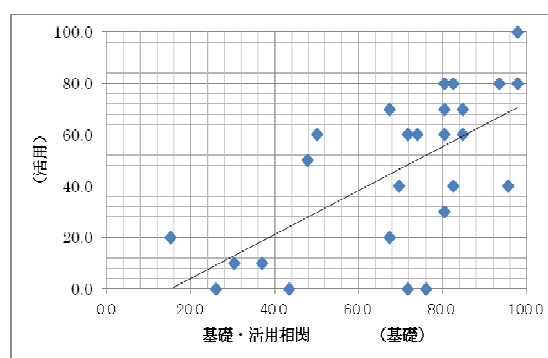
#### 【基礎力と活用力の相関関係から学力状況を把握する】

各学校には、子ども一人一人の状況から学級・学年の状況が把握できるよう、東京書籍より詳細なデータが送られています。

教育委員会では、それらのデータを生かし、平均正答率や得点分布では把握できない、学級内における一人一人の子どもたちの状況を把握するための分析シート（エクセル版）を作成して配付いたします。（使用説明 本書 P57）



サンプル例 1



サンプル例

上の2つの学級の平均正答率は、ほぼ同じですが、一人一人の子どもたちの分布状況には違いがあります。従って指導改善方策も異なってくるのがわかります。

このように、一人一人の子どもたちをプロットすることにより、基礎力はあるが活用力に課題がある子ども、またその反対の傾向が見られる子等、子どもたち一人一人に対する指導方針も異なってくるが見とれます。

学力調査は、一人一人の指導改善に資することが目的です。この分析シートを活用することによって、各学校における子どもたち一人一人の状況把握に有効な手立てとなります。

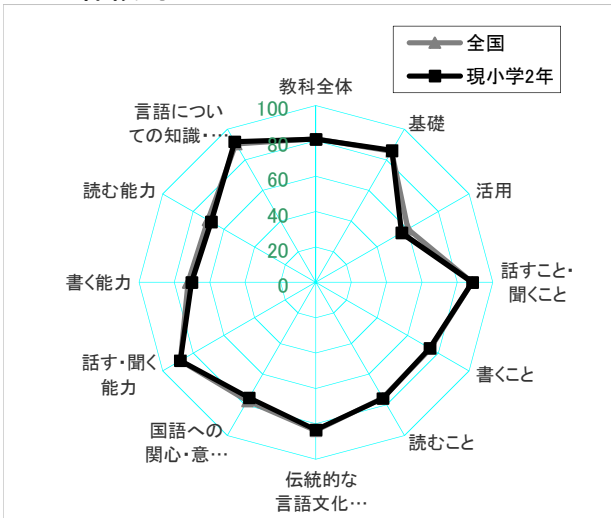
#### 【経年変化から子どもたちの状況と指導効果を把握する】

教育委員会が作成した分析シートに、昨年度のデータ（1年前の子どもたちのデータ）と本年度のデータを入力することにより、1年間の子どもの変化を読み取ることができます。

本報告書の作成に利用しているレーダーチャート作成用ワークシート（使用説明 本書 P56）を活用することにより、各学年・教科毎の経年変化の様子をレーダーチャートで確認し、多角的な分析により、子どもたちの実態に沿った指導改善策につなげることができます。

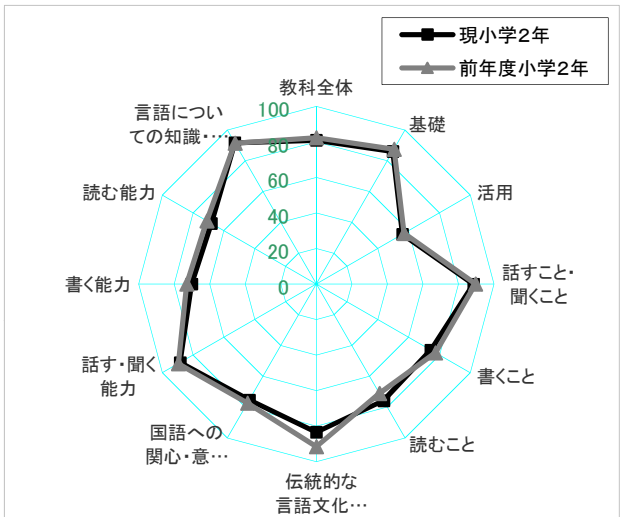
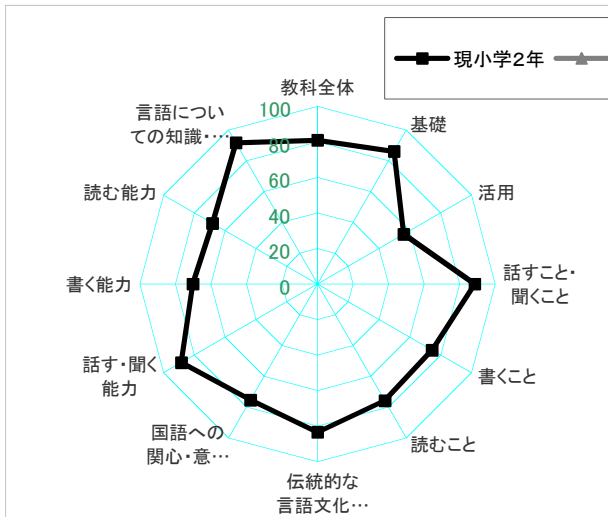
# 小学 2年 国語

## 1. 全体傾向



・概ね全国正答率と同等もしくは少し下回る結果が出ている。その中でも、活用が4ポイント下回っている。  
 ・「読むこと」は全体では全国正答率を上回っているが、文章の要旨と内容を読み取る力を養うことが必要である。

## 2. 経年変化



・昨年の傾向とほぼ一致しているが、「読むこと」に関して4ポイント上回っている。「書くこと」に関して昨年を約3ポイント下回っている。設問のきき方や、問題文を読み取る力にも左右されていると考えられる。

## 3. 強みと弱み

- ・正答率の高い問題は、読むことの「場面の様子を読み取ることができる」「時間的な順序、事柄の順序を考えながら、場面の様子を読み取ることができる」である。
- ・正答率の高い「読むこと」の力を更に伸ばすためには、読書活動の中に、読んだ本の内容を記録させたり発表させたりする指導を継続的に取り入れていくことが効果的であると考えられる。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に弱点が見られる。この課題に関しては、言葉遊びを通して語彙を増やす取り組みを積極的に行っていくことが肝要である。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

説明文全体に書かれている内容を  
読み取る

読み書きの土台となる音韻意識  
を高める

単元での指導

言語活動の日常化

##### ★「きつつき」(読む)教育出版2年下

- ①文章全体に書かれていることをつかむ。  
題名を「きつつきの 」に変えてみる。
- ②単元を貫く学習問題をつくる。  
「よく動くきつつきを作ろう」  
・よく動くきつつきを作るために、本文を読み、よく動くための秘密を見つける。
- ③きつつきの作り方のコツを本文から見つける。  
・順序をわかりやすく示すための番号  
・写真の活用(書かれていないけど見ればわかること)  
・読み手に話しかけるような書き方, 文体。
- ④よく動くきつつきを作りながら, 本文に書き足そう。○○さん流のコツを書き加えよう。
- ⑤よく動くきつつき発表会をしよう。  
(作り方のコツを説明することを中心に)  
<発展・活用に向けて>  
図工に広げて, 自分なりの動くおもちゃづくりと作り方の説明書を書く活動。  
・スキルを活用する。  
・教科書P.83の「書き方」を参考にして書く
- ⑦説明書を作品集にして友達や家の人におもちゃづくりを楽しんでもらう。

##### ★言葉遊びで言葉感覚を高めよう

###### ①「言葉をチェンジ」

「こたえ」の 最後を「つ」にする	→	「こたつ」
「かかし」の 最後を「と」にする	→	「かかと」

###### ②「言葉をチェンジⅡ」

もち(餅) く(栗)	→	もり(森) くち(口)
はな(花) ふ(ね)	→	はね(羽) ふな(鮒)
くま(熊) や(ぎ)	→	くぎ(釘) やま(山)

###### ③3音でも!

まんが は(い)く	→	まいく は(ん)が
--------------	---	--------------

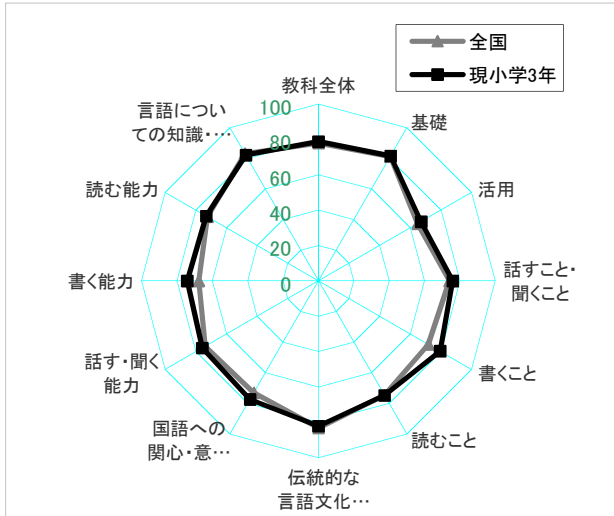
★授業中の短い時間を使って  
楽しく, 繰り返し身につける!

★最初は先生が出題者になり  
リズムカルに→子ども同士で

★メモはとらない 耳から

# 小学 3年 国語

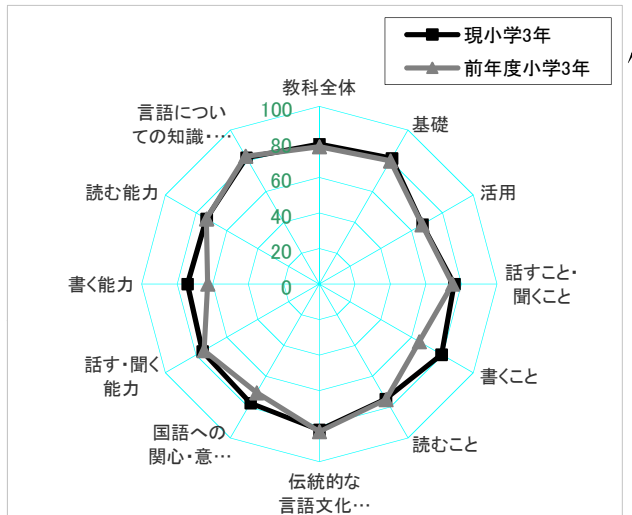
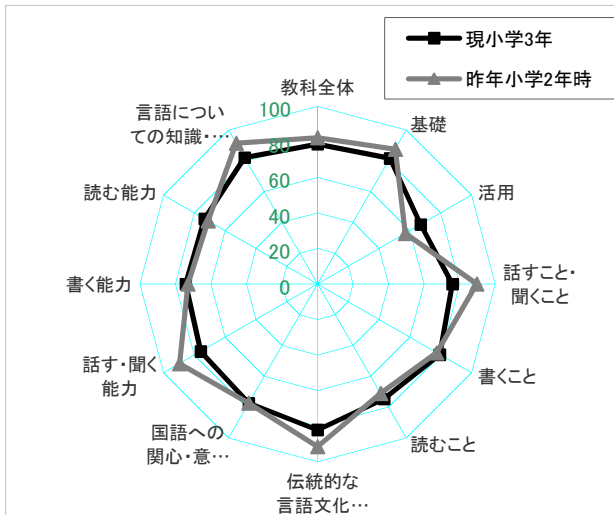
## 1. 全体傾向



概ね全国正答率と同等もしくは上回る結果が出ている。その中でも、「書くこと・書く能力」において、全国正答率を上回っている。また、各領域の力もバランスがとれている。

反面、言語についての問題でやや全国正答率を下回っていることがわかる。これは、第2学年の配当漢字を書く問題である。

## 2. 経年変化



昨年2年時には、どの領域、観点ともに、全国の平均正答率を上回っていた。特に「読むこと」は約6ポイント上回っていた。今年度は、2年時より全体的に正答率は下がっているが、活用が昨年を上回り、全国の平均正答率を2.3ポイント上回っている。「言語についての知識・理解・技能」で全国の平均正答率を下回っている。

昨年の傾向とほぼ一致しているが、「書くこと」に関して昨 years を約2ポイント上回っている。

## 3. 強みと弱み

2年連続で正答率の高い問題は、読むことの「カードに書かれている事柄の順序を読み取ることができる」である。

一方、2年連続で正答率の低い問題は、言語事項の「第2学年の配当漢字を読むことができる・書くことができる」である。1学年から2学年では漢字配当が増えるため、デジタルコンテンツ等を利用した、楽しく興味を持たせた反復練習等で確実に身につけさせたい。聞くことの「話題に沿った質問をすることができる」という問題も課題が見られる。聞き取りの内容が「おとなになったら何になりたいか」という内容であり、自らの経験則と照らし合わせて聞くことが難しかったと考えられる。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き, ねらいを明確にして質問をする力をつける

言語活動の日常化

☆(1分間)スピーチの改善

①自分の経験則に基づいて聞くスピーチ  
↓ ↑

②話し手の気持ちを想像しながら聞くスピーチ

「大切なこと秘密スピーチ  
～○○はなんでしょう」

どちらも大切

(例)私のたからもの

・「私のたからものについて話します。」

・たからものについて3～4文話す。

(大きさや使う時・いつからのたからものか等観点は与えてもよい)

・「私のたからものはなんでしょう。」

・質問を受ける。

(話し手の気持ちや話の内容を考えながら, 答えにつながる質問をする。)

・聞き手に答えを言わせる。

・話し手が答えを言う。

\*慣れるまでは, 教師が流れを作る。特に答えにつながる質問は, 効果的な内容を教師が提示するとよい。

☆スピーチの発表形態の工夫

・全員の前で ・3～4人の中で ・ペアで

\*クラス全員の前では, 大人でも緊張をする。3年生のコミュニケーション距離として適切なのは, 3～4人の前で話すこと。

単元での指導

☆「目的に合わせて発表する」

(話す・聞く)教育出版3年下

①学習のゴールを示す。

学習の見通しを持たせ、学ぶ意欲を高める。

「○○探検隊になって、○○町のいいところを家族に発表しよう」

(発表相手は、地域の方・他学年・同学年 等実態に合わせて)

②調べたいこと・方法を定める

③スキルを身につける

教科書の「インタビューの工夫」

④調べる(インタビューする)

⑤発表の工夫について考える。

図・絵・写真・動画・音声の使い方

発表原稿

聞き取りメモ・質問メモの活用

⑥同学年・クラスで発表し合う

・話し手の工夫とともに聞き手の工夫にポイントをおく。

・話し手の説明のよかったところに気づく工夫をする。(聞く観点設定)

・話し手(発表者・グループ)に、「ベスト質問賞」を決めさせる。

・選んだ理由を発表させる。

⑦家族に発表する。

・総合的な学習の時間とリンクさせても効果的。

漢字の反復練習を工夫して

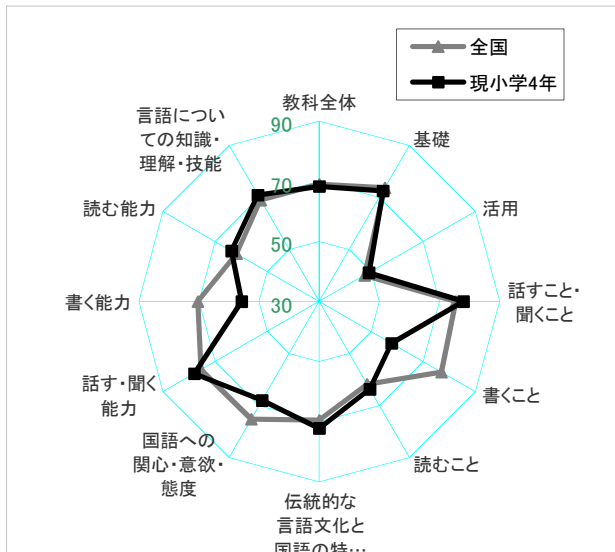
おすすめです!

☆ITさんによる自作学習コンテンツ

柏市ITアドバイザーオンライン

# 小学 4年 国語

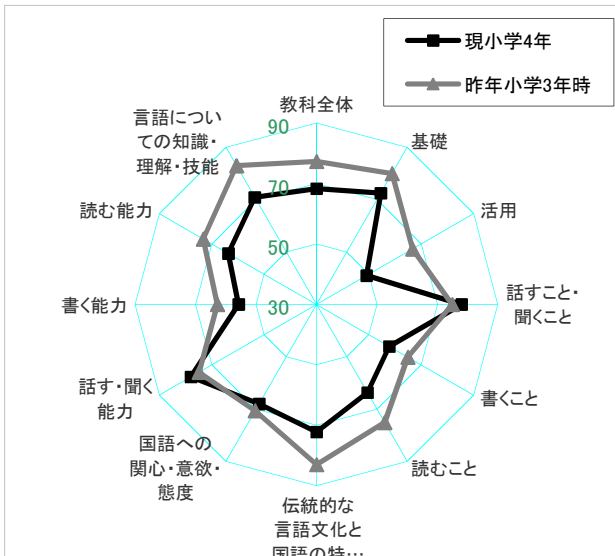
## 1. 全体傾向



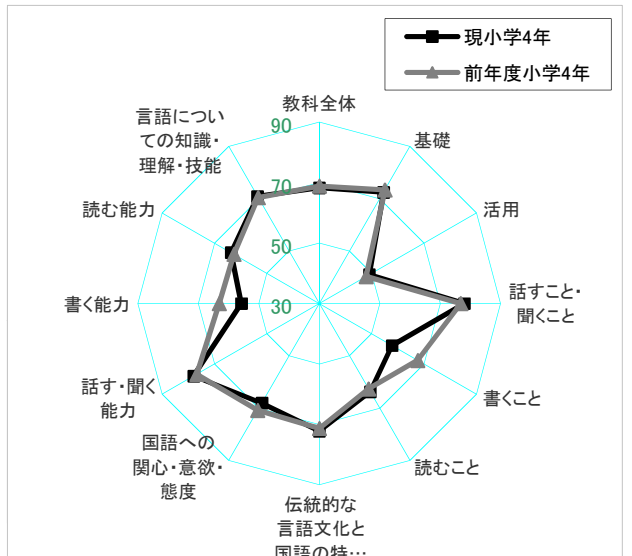
「書く能力」を除き概ね全国正答率に近い結果となっている。その中でも、「話す・聞く能力」については、話し手の意図をしっかりと理解し、要点をつかめていることがうかがえる。

反面、「書く能力」「国語への関心・意欲・態度」で全国正答率を下回っている。おそらく生活作文などの文章を書くことには抵抗がなくても、段落の数やそれぞれの段落に表現する内容を制限されてしまうと、どう表現すればよいかわからなくなってしまうと考えられる。また、言語・読むこと・話す聞くこと等、現時点では全国正答率を上回っているものの「関心・意欲・態度」の低い状況を改善していくことが、今後の学力向上に結びつくと考える。

## 2. 経年変化



全体的に3年時を下回っている。中でも「言語についての知識・理解・技能」は10ポイント以上も下回り、新出漢字の読み書きに加え、ローマ字の読み書きにつまずいている児童が多く見られる。話すこと・聞くことへの力や関心意欲は前年度同等である。日常会話的な話し合い活動を活発にして、今後も維持していきたい。



基礎・活用ともほぼ前年度の4年生と同じ傾向を示している。「活用」については全国正答率をやや上回ってはいるものの、活用していく力が十分とは言えない数値を示している。このことから、恒常的に言語活動を意識させていくことが必要であろう。この学年は、書くことへの力が3年次より劣っており、前年度4年生と比較しても劣っていることから、この学年特有の現象である。原因について究明をしていきたい。

## 3. 強みと弱み

身近な話題について、話し合いの場面で発表者の意見から根拠となる部分をとらえながら聞くことができる力が強みである。

しかし、書こうとする内容について原因や理由を挙げたり、伝えやすくするための事例を挙げたりしながら書くことが苦手である。書くことについては、力がついていない原因の究明を各学校ごとに行い、柏市として、対応を考えていかなければならない。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

### 書くことの力を伸ばすために

#### 日常の授業で

<目的をはっきりさせて書く>  
何のために書くのか, 対象や目的を意識して  
た上で書くことが, 文章力を鍛える近道です。

例えば・・・

- 伝達するために書く  
誰に対して, 何を伝えるかを明確に
  - 報告するために書く  
見学, 調査, 研究等を誰に知らせるために
  - 説明するために書く  
事実, 事象について誰に説明するために
  - 感想や意見を述べるために書く  
感じたことや考えを誰に伝えるために
  - 創作するために書く  
詩・童話・物語などを誰に向けて作るか  
・・・など
- \* 教師の評価は, 目的に合った表現になっているかを評価していくことが大切。

<書くために語彙を増やす>

- 伝える言葉の例示をする  
→ 教室掲示・プリントなどで
- (例) 推薦する表現  
親しみがわく・魅力的・わかりやすい・  
生き生きと描かれている・元気が出る  
心が温まる・夢中にさせる・心が落ち着く 等
- ことばの宝箱  
読んだ本や友だちの作文などから, よい表  
現を見つけたら, その都度書きとめてストックしていく。(学びづくりプロジェクト校で実践中)



#### 短時間で効果的指導

デジタルコンテンツの活用  
～1分, 2分を活用しよう～

漢字の習熟には漢字練習やミニテストの積み重ね  
が大切なことは言うまでもありません。  
こんなコンテンツを利用して, 授業中のわずかな  
時間を使って, 子どもたちが興味を持つ形で漢字  
やことばに楽しくふれることで, 学習活動に対する  
ハードルが下がり意欲的に取り組めることでしょう。

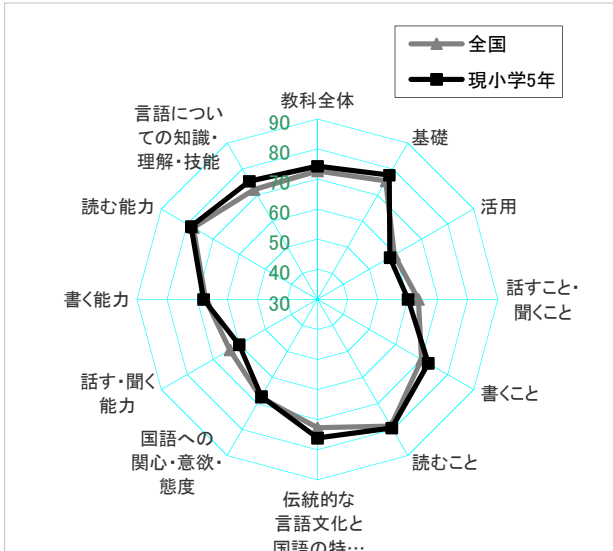
\* インターネットホームページの  
小学生の学習メニュー → こくごの学習

- 5分ドリル  
漢字編 ・ ことば編 ・ 文の組み立て編
- 漢字フラッシュカード
- 漢字教室  
学年別力試し
- 漢字ハウス  
書き取り練習コース  
かいとうねこぴー  
漢字書き取り ・ 今日の問題  
漢字ゲーム



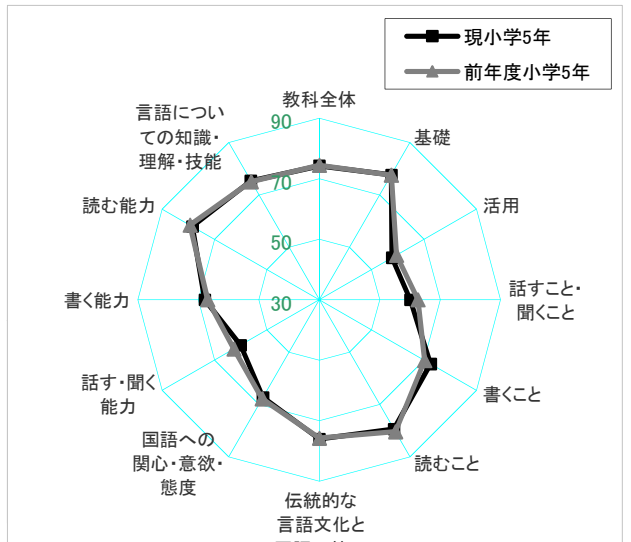
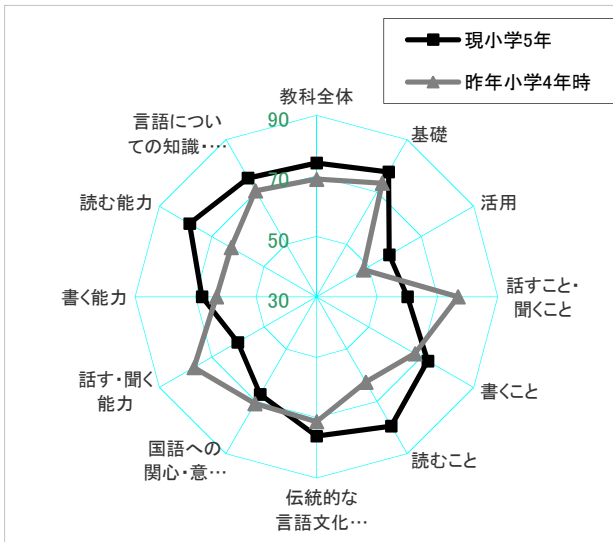
# 小学 5年 国語

## 1. 全体傾向



概ね全国正答率を上回る結果となっている。その中でも、「言語についての知識・理解・技能」については、しっかりと定着している様子が見える。反面、「話す・聞く能力」で全国正答率を下回っている。これは、聞いたことをメモをとりながら自分で必要な情報を整理していく問題で、話し手の意図や要点を的確につかむためにも、自分の表現したい場面を文に構築していける力が必要だろう。ふだんの言語活動で意図的に経験させながらしっかりと身につけさせたい力である。

## 2. 経年変化



現5年児童の4年時結果と比較すると、全体的に国語の力は伸びている。中でも『読む能力』については、心情・情景・筆者の思い等を読み取るためのキーワードを的確につかめていると推測する。反対に『話す・聞く能力』については、16ポイントのダウンと大きく後退した。身近な話題についてはイメージを持って聞けるが、やや抽象的な内容になると要旨をとらえられないことから、今後指導改善の必要性が感じられる。

基礎・活用ともほぼ前年度の5年生と同じ傾向を示している。中でも「基礎」については全国正答率をやや上回っている。このことから、きちんと定着している基礎力をいかに活用力へ伸ばしていけるかが大きな課題である。日常的に言語活動の場を仕組み、実践的な国語力を培うことが必要である。

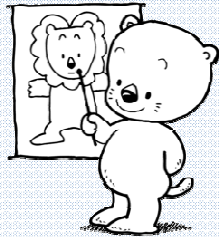
## 3. 強みと弱み

「段落に分ける」ということを理解して、話題の切り替わる場所を意識しながら必要な段落に分けた文章を書くことができ、強みである。反対に、話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比較して考えをまとめていくことは弱みである。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

話すこと・聞くこと

授業の中で



「世界遺産 白神山地からの提言  
～意見文を書こう～」実践例

身につけさせたい力

- \* 話し手の意図を考えながら聞き, 自分の意見と比較して考えまとめていく力

この単元を活用して...

\* 様々な資料をもとにして自分の意見を表現する意見文を書くことを目的とします。書きたい内容を伝えるために, どう構成すればよいか, どう書き表せばよいかを情報交換する中で, 話す力聞く力を育てます。話し合う目的が明確であることにより, 話の要旨を的確に捉える力がつき, 聞き取る力も育成されます。

単元の見通し

はじめ	資料を比較しながら意見文を読む
なか	・教科書の資料をもとに意見文を書く。(練習学習) ・身近なことについて調べ, 集めた資料をもとに意見文を書く。情報交換をしながら進め, 書くために話し, 話す力をつける。
まとめ	書いた意見文の発表を通して互いの考えの違いや, 多様な意見があることに気づく。

日常の中で

スピーチの工夫

～朝の会・帰りの会などのスピーチにひと工夫～

<話し手のドリル>

- \* スピーチのテーマをアレンジしよう

今がんばっていること・最近嬉しかったこと  
最近驚いたこと・思わず笑っちゃったこと  
家族の紹介・冬休みにやりたいこと  
もしも10万円を1日で使うなら?  
願いが1つかなうなら ...など

○はじめは先生がテーマを1つ予告して, スピーチメモをもとに話す。

少し慣れてきたら3～4テーマの中から自分で選んで話してみよう。

もっと慣れてきたらスピーチメモなしに挑戦!

とっても慣れてきたらテーマを予告しないでさいころトークン!!

<聞き手のドリル>

- \* 聞き手に聞く必要性をもたせて聞かせよう。

(例)

「穴のある一分間スピーチ」

話し手は一番話したいことを言わずにスピーチをします。スピーチ終了時に「何かご質問はございませんか」と問います。

一番話したいことを質問された場合は...

「よくぞ聞いてくださいました...」と前置きをして一番話したい内容をスピーチします。

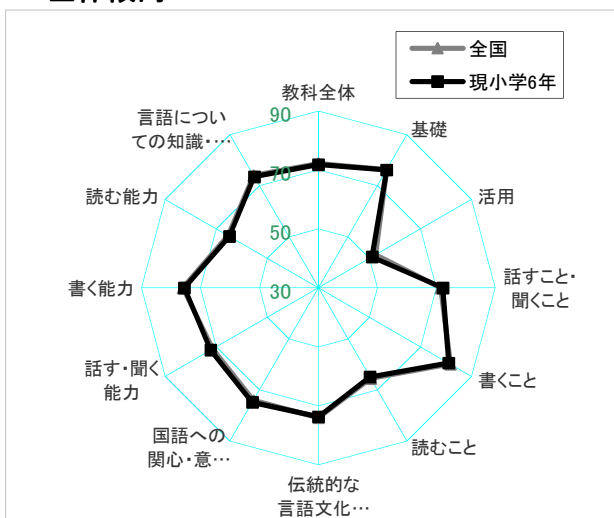
一番話したい内容ではないことを質問された場合は, 「予定にはございませんが...」と前置きをしてスピーチします。

コミュニケーションの基礎は一往復半のやりとりです。



# 小学 6年 国語

## 1. 全体傾向

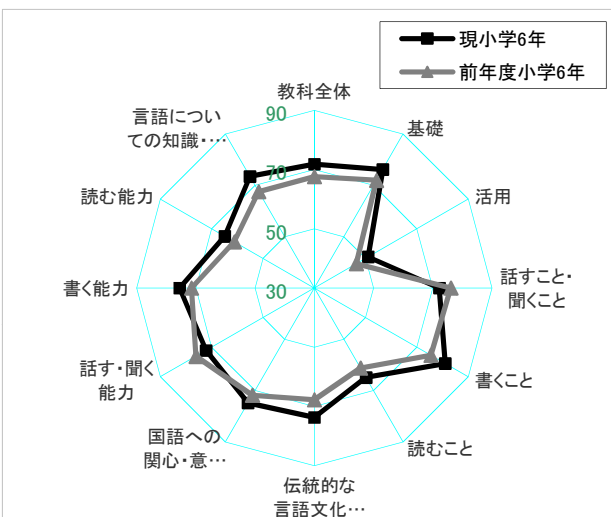
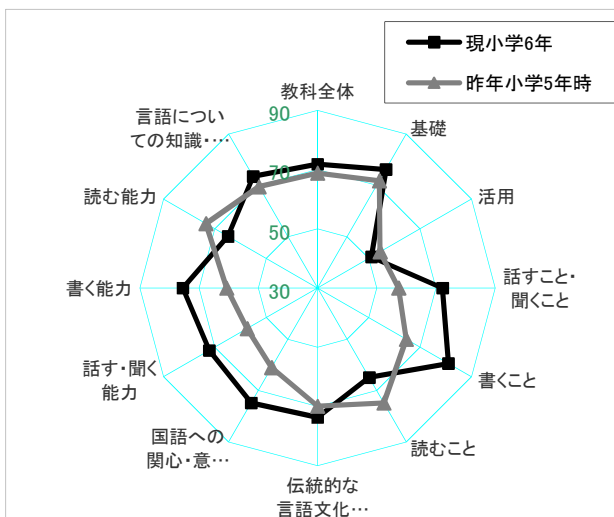


全体的に、概ね全国正答率と同等の結果である。相対的に見ると、「活用」に課題があることがわかる。

全国平均との比較では、活用の問題でやや下回っていることがわかる。

問題別に分析すると、  
 ・文の構成(述語)を理解する  
 ・文章の内容を的確に押さえながら読み取る  
 という内容の問題について、全国正答率を下回っていた。

## 2. 経年変化



「関心・意欲・態度」について、昨年5年時より6ポイント近く上回ったことは、特筆すべきところである。「書くこと」に関しても昨年5年時を大きく上回っているが、全国の正答率をやや下回っている。

さらに、活用と「読むこと」の領域で昨年5年時の正答率を下回っている。特に「文章の内容を的確に押さえながら読む」問題の正答率が低くなっている。ここが課題と考えられる。

前年度と今年度の小学6年生を比較してみると、ほぼ同等の傾向が見られる。

相対的に見て、2年連続で「活用」に課題が見られる。それでも昨年度は、全国の平均正答率を3ポイント上回っていたが、今年度は、1.4ポイント下回っている。問題別に見ると、特に「活動報告」と「話し合い内容」という、複数の資料から正しく読み取る問題で、全国正答率を下回っている。

## 3. 強みと弱み

全体の傾向から見て、ほぼ良好な状態といえるであろう。

2年連続で正答率の高い問題から考える。「話すこと・聞くこと」における内容の聞きとりと、「読むこと」の登場人物の心情を読みとり、「書くこと」の意見と理由を区別して書くことに関しては、概ね力をつけていると言える。

一方、「読むこと」の、文章の内容を的確に押さえる問題や、日常の言語活動に直結する問題(指示語が何を示しているかを思考する問題や、文の構成(述語)についての問題)などに課題が見られる。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

☆国語への関心・意欲・態度を高める。＝学ぶ意欲を高めるために

- ①子ども自身に「学びのゴール」を示す。
- ②課題解決的な言語活動を設定する。
- ③この単元で「つけたい力」にぴったりの言語活動をもとに単元を構想する。

(1) 説明的文章を扱う単元の効果的な指導例

二 多様な見方をもとに考えを深める ぼくの世界 きみの世界(教育出版 6年下)  
「自分」についての意見文を書こう

1 本単元でつけたい力を見極める

- ・意見文を書くために、文章の内容を的確におさえて要旨をとらえたり、筆者の考えや具体例の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたたりする力(「C 読むこと」ウ)
- ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える力(「B 書くこと」ア)

2 つけたい力に最適な言語活動

- ・論説文を読んで自分の考えを持ち、論説文を書く。

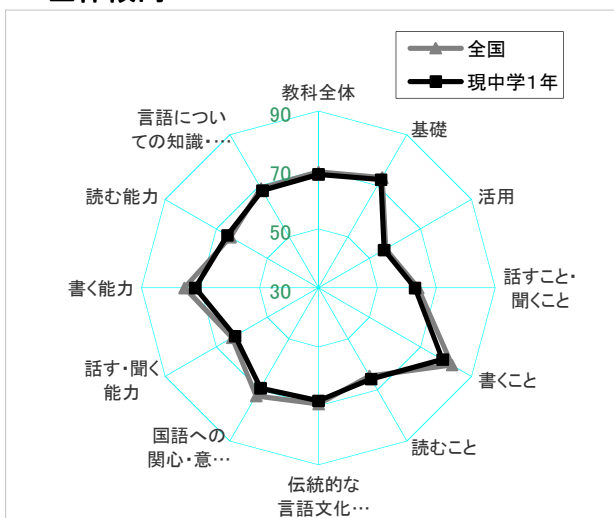
「ぼくの世界, きみの世界」から考えを分かりやすく伝える工夫を学び, 自分の論説文を書こう  
～ぼくの世界 きみの世界 ○○の世界～

3 単元の構想・・・自分が論説文を書くために, 教材文を読むと言う目的意識を持たせる。

学習活動	
第一次 (つかむ)	<p>◎<b>学習の見通しをもつ</b>            道徳の時間に「自分のよさ」「自分の特徴」「自分と他人との違い」について考える。            (資料・・・「ドラえもんの声」(学研)を使用して話し合う。)            「自分」についての論説文をかくための学習であるという見通しを持つ。            (テーマの例・・・「自分と他人との違い」「友達とは」など)</p>
第二次 (しらべる) (ふかめる)	<p>◎<b>自分の視点をもって論説文を読む</b>            1. 自分が論説文を書くために, 「ぼくの世界, きみの世界」の内容を理解し, 自分の考えを明確にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の論について, 気になる文はどれか。</li> <li>○筆者の挙げた具体例について, 似た経験はあるか。</li> <li>○筆者の主張について, 自分はどう思うか。</li> </ul> </div> <p>2. 自分が論説文を書くために, 「ぼくの世界 きみの世界」の構成を学ぶ。            段落のつながりがわかるように, 線や矢印でつないで, 文章構造図に表す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>文章構造図作成の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「筆者の意見」「具体例」「問いかけ」に分類する。</li> <li>○「例えば」「しかし」などの言葉に着目しながら段落のつながりを自分なりの文章構造図にする。</li> <li>○筆者の主張について, 自分はどう思うか。</li> </ul> </div>
第三次 (まとめあげる)	<p>◎<b>論説文を書く</b>            自分の考えを効果的に伝える文章構成図を書く。            論説文を書く。            作品集にして, 保護者に読んでもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・教材文を読みながら, 筆者と同じような具体例を自分の経験から探しておく。            ・教材文の構造図を参考にする。</p> </div>

# 中学 1年 国語

## 1. 全体傾向



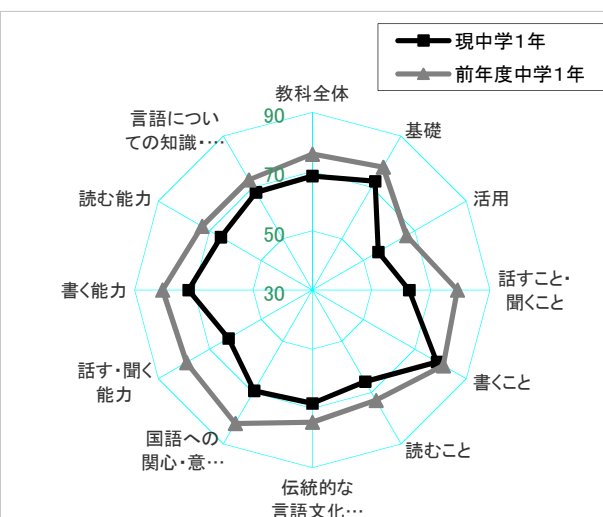
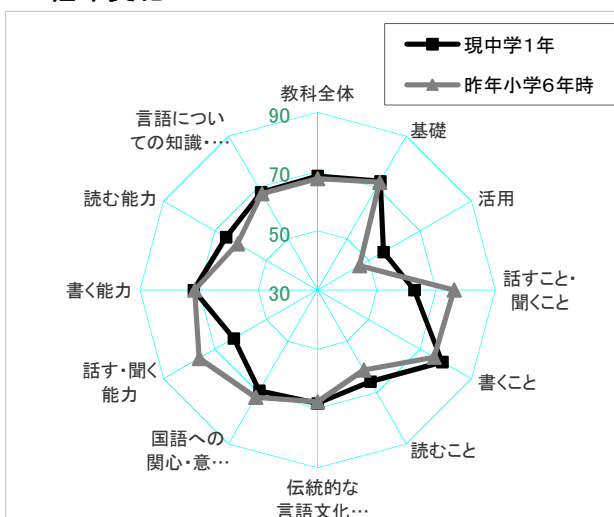
全体的に見ると、全国の平均正答率と同等か、やや低い結果となっている。

相対的に見ると、活用がやや低い結果となっている。

全国平均との比較では、上回っているのが「読むこと」であり、逆に全国よりも3ポイント以上下回っているのは、「書くこと」である。

- 問題別にみると、
- ・目的や意図に応じて話の内容を正確に聞き取り、活用する。
  - ・文章の構成や展開をとらえることができる。
  - ・指定された文字数で書くことができる。
- という問題で、課題が見られた。

## 2. 経年変化



全体の傾向として、昨年と同様の結果が出ている。その中では、「活用」に関して、9ポイント、「読むこと」に関しては、4ポイント上回った。

反面、「話すこと・聞くこと」で昨年度より10ポイント近く下回っている。問題を見ると、「目的や意図に応じて話の内容を正確に聞き取り、活用すること」が課題と考えられる。

全体的には、昨年度を下回っているが、「書くこと」は、昨年度と同様の結果となっている。また、「読むこと」は、昨年度より7ポイント下回っているものの、全国正答率を上回っている。

「話すこと・聞くこと」は、16ポイント下回っており、特に「聞き取った内容を活用して話す」問題での正答率が低くなっている。

また、「関心・意欲・態度」が10ポイント以上下回っていることも特筆すべきところである。

## 3. 強みと弱み

2年連続で正答率の高い問題から考えると、「言語事項」では、熟語の構成に関して、よく理解しているといえる。また、「読むこと」でも、概ね良好な状態であるといえる。

一方、2年連続で正答率の低い問題は、「話すこと・聞くこと」の「目的や意図に応じて話の内容を正確に聞き取り、活用すること」と、言語事項の「修飾語について理解すること」であり、課題があると言える。

また、書く能力を問う問題では、段落を構成したり、指定された文字数で文章を書いたりすることに課題が見られた。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

☆「話すこと・聞くこと」の指導効果を高めるために

- ① 日常の場面を利用する。
- ② 「話すこと・聞くこと」単元で学習した力を, 他の領域に関する学習場面でも意識して活用させる。

(1) 日常の場面を利用する

☆H. Rでの「テーマ別リレースピーチ」☆  
 ・全員が一人ずつ, 同じテーマでスピーチを行う。  
 ・一巡するまでは, 同じテーマで続ける。  
 ・聞き手は, メモをとりながら聞く。  
 (書くことは, 実態に応じてワークシート化)  
 ・スピーチの終わりに, 質問タイムを設ける。(時間によって) 次回スピーチする人は, 必ず質問する。  
 ・スピーチは, 前日の内容を受けて, 話し始めるようにする。  
 ・メモを見て話す。原稿不可(実態に応じて)  
 ・一巡したら, テーマを変える。  
 (始めや終わりに担任がやることも効果あり)

★メモの一例

質問事項	キーワード	内容一言で	話者

(1) 「話すこと・聞くこと」単元の効果的な指導

☆聞き方入門☆(教育出版 1年)

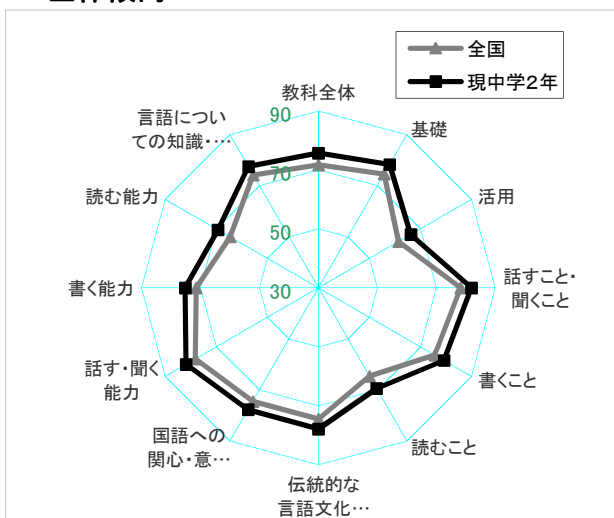
- ① 学習の見通しを持たせる。  
 「聞き方名人」になり, 期末テストの情報をゲットしよう。
  - ② 相手が話す内容を正確に聞きとり, 学級に伝えるには, どんなことが必要かを話し合う。
  - ③ 必要なスキルを身に付ける。  
 ・教科書にある「やってみよう」
  - ④ 聞く相手を設定し, メモをとる項目を考える。  
 ・教科担任の先生へ  
 ・先輩へ  
 ・塾の先生へ  
 ・兄・姉へ
  - ⑤ 実際に取材する。
  - ⑥ 取材メモを活用して, 学級のみんなに伝える。
  - ⑦ 聞き手はメモをとり, 必要事項を相互に確認する。
- ★教師の支援★  
 ・あらかじめ, 取材対象となる方々に協力依頼をしておく。  
 ・質問が有効であることに気付かせる。  
 ・授業における学習を日常生活に生かす場面であることを意識しましょう。

#### 4 指導のポイント

- ・学習が, 日常生活に直結しているような言語活動を設定することを心がける。
- ・多くの師範, 見本に出会わせることが大切。聞き手の見本は教師であることを意識する。

# 中学 2年 国語

## 1. 全体傾向

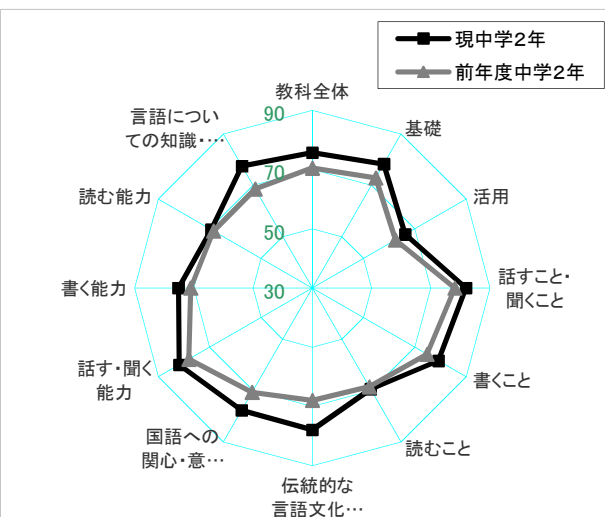
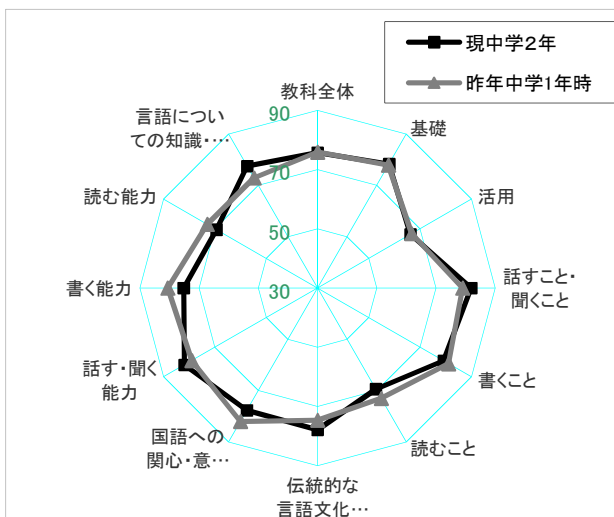


全体的に見ると、全項目で全国平均を上回っており、良好な状況にあると言える。

相対的に見ると、「活用」と「読むこと・読む能力」の2項目の正答率が60%台となっている。

問題別に見ると、「活用」の問題としては、新聞記事の内容を正確にとらえ、必要な情報を集める問題の正答率が最も低かった。また、「読むこと・読む能力」に関しては、物語文よりも説明文の内容を読み取る問題の方が、正答率が低かった。

## 2. 経年変化



現中学2年生は、昨年度と比較すると、「言語事項・言語文化」に関する項目は上回っているが、「国語への関心・意欲・態度」「読むこと・読む能力」「書く能力」の正答率が低下していることがわかる。

中学1年の1年間で「国語への関心・意欲・態度」が下がっていることには注目しなくてはならないだろう。

また、2年連続で正答率の低かった問題に、3段落構成で作文を書く問題がある。1年時よりも改善されているが、継続した指導が望まれる。

現中学2年生は、昨年度の2年生と比較すると、全項目上回っている。10ポイント近く向上している項目も複数ある。

2年連続で高い正答率を示しているのは、「話すこと・聞くこと、話す・聞く能力」である。

逆に、「活用」と「読むこと・読む能力」は2年連続で正答率60%台である。

## 3. 強みと弱み

現中学2年生は全体的に良好と言える。「言語事項・言語文化」が昨年度より伸びていて、「話すこと・聞くこと」が2年連続で高い正答率を示している。このことは、語彙も含めコミュニケーションの基礎が備わってきていることの表れであり、良い傾向(強み)と言えるだろう。

反面、次の点が課題(弱み)と考えられる。

①「国語への関心・意欲・態度」が下がっていること。

②「活用」する力、「読むこと・読む能力」、「作文」を書く力の育成

また、学校によって正答率に開きが大きかった項目として、「漢字の書き」「文法・語句」「作文」「書く能力」が挙げられる。よって、③全体的に「書く」力を育てていく必要性もあると考えられる。

#### 4. 授業改善の方向、効果的指導例

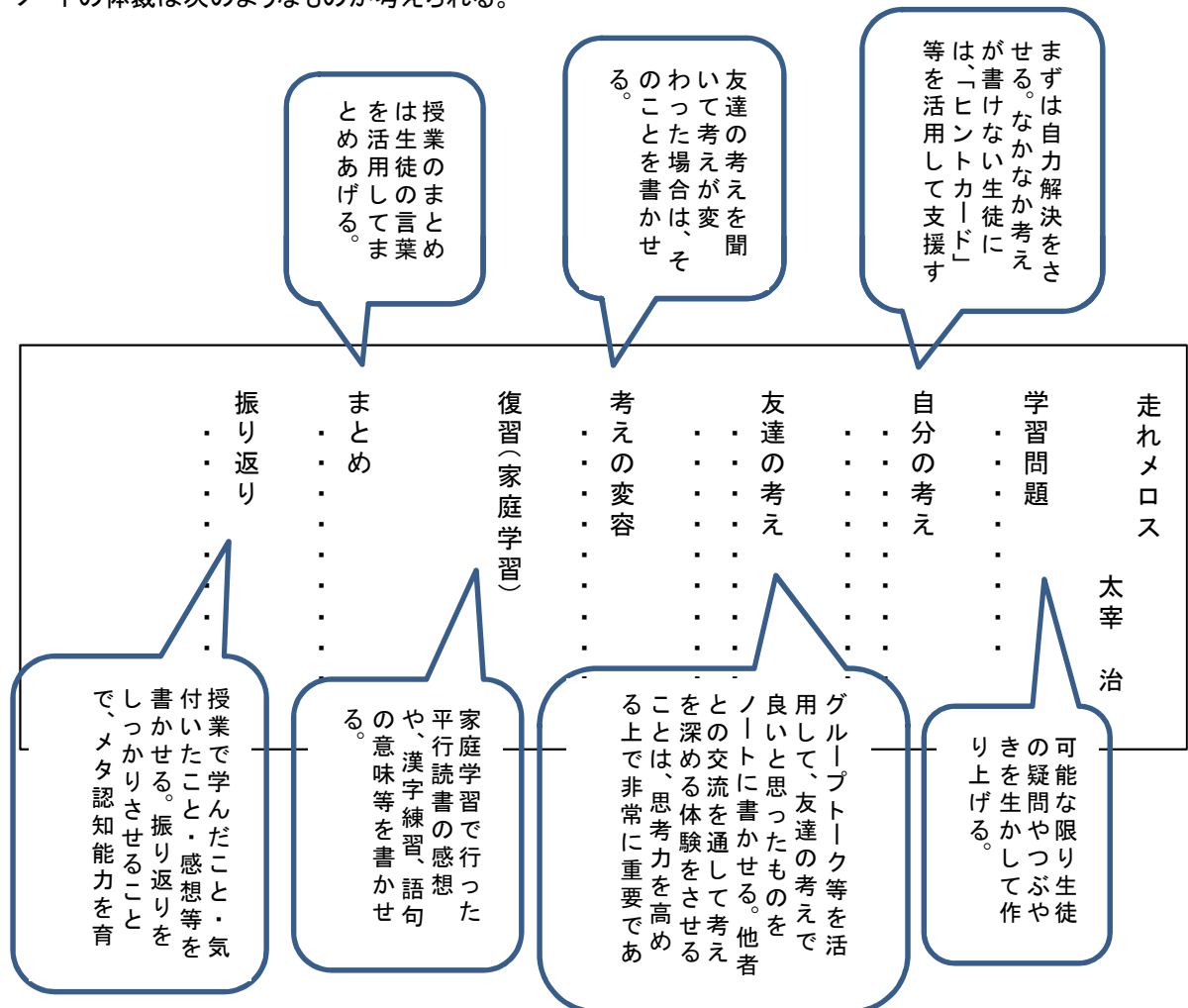
##### (1)「読み・書き」の絶対量を増やすこと

教科書を用いて、年間に数編の物語や説明文等をいくら読み込んでも、なかなか「言葉の力」は高まっていかない。「量の中に質の向上がある」と考え、「読み・書き」の絶対量を増やすことが必要である。現在さかんに言われている「単元を貫く言語活動」の柱の1つである「平行読書」等を通して、自ら本を手取る生徒を育てることが、「読み・書き」の力や「活用」する力を高めていこう。よって、今後の指導の方向として以下の3つを提案したい。

- |                                                                                                    |                                                       |                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| <p>①『走れメロス』を扱う時に、廊下に「太宰治コーナー」を設けて、太宰の他の作品にも触れさせる。また、「作者調べ」や「登場人物の特徴調べ」など、テーマを決めて作者研究や作品研究等を行う。</p> | <p>②家庭学習または授業の最初の5分を利用して、「名詩・名文」に出会わせる(音読・視写・暗唱)。</p> | <p>③「新聞の投書欄に対する意見文を書く」の単元だけでなく、家庭学習を利用して「新聞記事」に対する意見文をたくさん書かせる。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|

##### (2)思考の過程がわかるノート指導

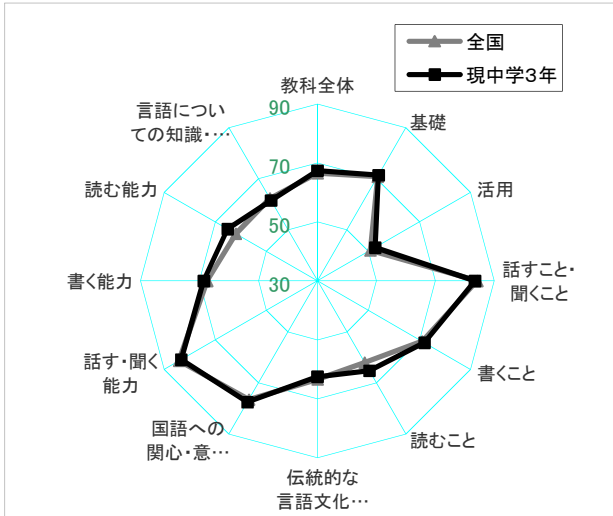
授業展開や思考の過程が一目でわかるノートを作らせたい。このことによって、自分の考えを表現する力、他者の考えを活用し自分の考えを深める力等を高めていきたい。ノートの体裁は次のようなものが考えられる。



「書く良さを実感できるノート指導」を地道に行うことで、生徒が思考・判断・表現する機会を確保し、「読み・書き」「活用」の力を高めていきたい。

# 中学 3年 国語

## 1. 全体傾向



全体的に見ると、全国平均と類似した傾向となっている。

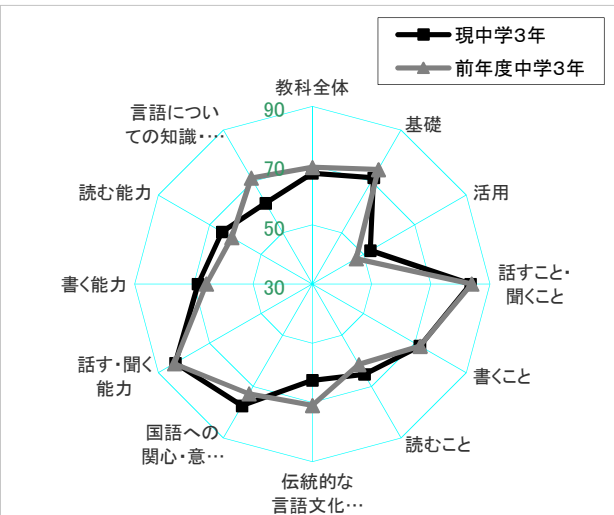
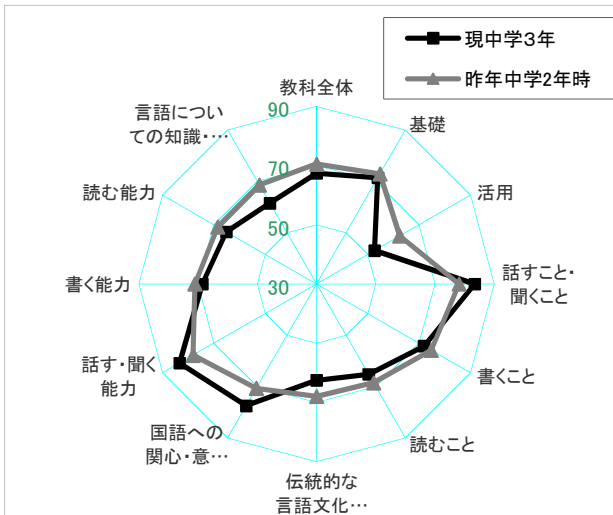
相対的に見ると、「活用」が最も落ち込んでおり、「活用」する力を高める取り組みが必要であろう。

全国平均との比較では、「読むこと・読む能力」が若干上回っていることがわかる。

問題別に見ると、「活用」の問題で正答率が低かったのは、以下の4問である。

- ・ポスターの漢字の間違いを直す問題
- ・例として挙げられているものの具体を考える問題
- ・手紙の書き方の工夫を読み取る問題
- ・手紙の表現について、不適切なものを指摘する問題

## 2. 経年変化



この1年間で、伸びた項目は、「話すこと・聞くこと、話す・聞く能力」「国語への関心・意欲・態度」の2項目である。

この1年間で大きく正答率が下がった項目は、「活用」と「言語事項・言語文化」に関する項目である。

なお、「読み」の問題に関しては、「文学作品」の正答率が78.7%であるのに対し、「説明文」は60.2%である。「説明文」の読み取りも課題と言えよう。

昨年度の3年生との比較においては、上回っている項目もあるが、「言語事項」「言語文化」に関する項目の落ち込みが大きいのが目立つ。

また、2年連続で「活用」が芳しくないことも明らかである。

## 3. 強みと弱み

「国語への関心・意欲・態度」が2年生の時より向上しているのは、非常に好ましい傾向であり、強みと言って良いだろう。また、「話すこと・聞くこと、話す・聞く能力」が1年時より伸びていることも強みと言えよう。

課題(弱み)は、「活用」する力をいかに高めていくかであろう。また、「言語事項・言語文化」に関する知識・理解・技能を高めることも必須の課題と言える。さらに、説明文の読み取りも課題の一つである。

また、学校によって正答率に開きが大きかった項目として、「作文」「書くこと・書く能力」が挙げられる。

以上のことから、

- ①情報を活用して書く力
- ②説明文を読み取る力
- ③語彙力

を高める取り組みが必要と考えられる。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

##### (1)「情報を活用して書く力」を育てる

「二つの投書を比較して, 自分の意見を書く」学習では, 以下に述べるような取り組みを行うことで, 情報を活用して書く力を育てたい。

まず, 教科書の例題をもとに, 引用の仕方について学ばせる。その後, 最新の投書について意見文を書かせたい。

##### ①文章を引用して意見文を書く。

リアルタイムで話題となっている新聞の投書を題材に意見文を書かせる。その際に, 自分の意見に説得力や根拠を持たせるために, 記事の一部を引用させる。

本単元は, 教科書では2頁扱いたが, 生徒の思考を広げたり深めたりする上で有効な学習となり得る。特に, 自分の考えとは逆の立場で意見文を書かせることが有効である。その際に, 根拠を持って書くために, 引用を上手に使うように指導したい。

##### ②是か非かについて両方の立場で意見文を書かせる。

あえて自分の意見とは異なる立場での意見を持たせることで, 生徒に思考の広がりや深まりを促したい。反対の立場に立って思考することで, 思考の広がりを持たせることができる。また, このような活動の積み重ねが, 「思考・判断・表現」する力の向上にも寄与すると思われる。

単元の導入でこのことを生徒に伝え, 意欲的に取り組めるよう支援したい。

##### ③実際に新聞に投書してみる。

学んだことが社会とつながっていることを実感する機会として, 書いた意見文を投書する活動を行いたい。公的に情報を発信する際の文体やわかりやすい構成, 根拠の示し方等について学習させ, 社会に出てから役立つ力を身につけさせたい。

この学習を通して, 「書く」ために新聞を読む体験をさせたい。新聞を読むことで語彙を増やすことができ, かつ, 根拠をもとに書く活動が説明文の構成の理解にもつながると考えられる。

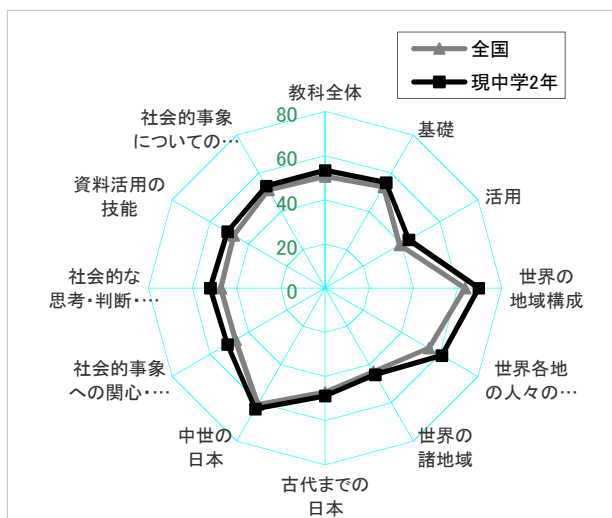
##### (2) 思考の過程がわかるノート指導を行う。

板書を写すだけでなく, 話し合ったメモや感想等, 学習や思考の過程がわかるノート指導を行いたい。詳細については, 第2学年「国語」の指導例を参照されたい。

「まとめ」で, その日の授業でやったことについて小見出しをつけてまとめたり, 「振り返り」でもっと知りたいこと・調べたいことや, 疑問に感じたことなども書かせたりしたい。

# 中学 2年 社会

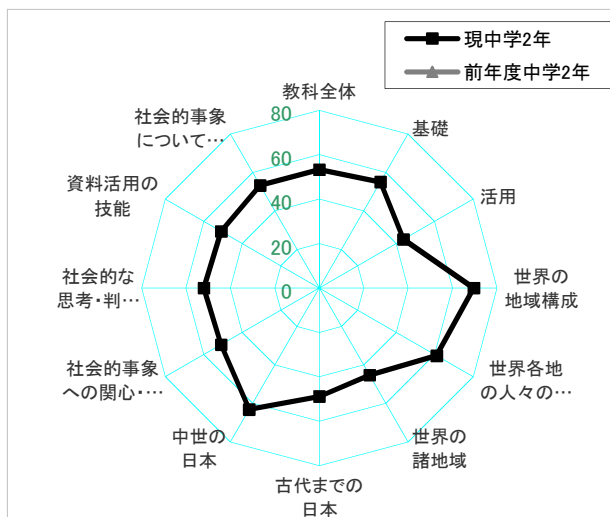
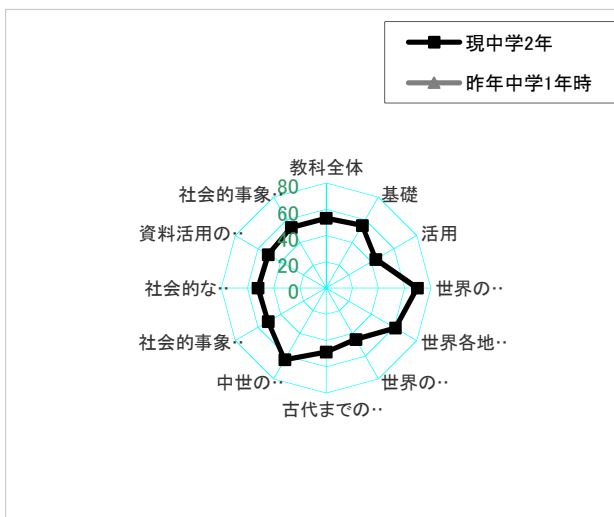
## 1. 全体傾向



### コメント

- ・基礎・活用ともに全国平均を上回っている。
- ・全国的な傾向として、活用の問題に課題がある。
- ・学習を継続して、定着を図れるとよい。
- ・語句を知識として覚えるのではなく、概念化することで、説明等の言語活動ができるようになる。
- ・社会的な事象に対する考察や、理由の説明等、文章を書く機会を増やしたい。

## 2. 経年変化



### コメント

社会科では、基礎・基本といわれる知識の方が、抽象的だったり難解だったりすることも少なくない。用語を覚えても、その概念を理解しているとは限らないケースが多く見られる。語句の概念が理解できていなければ、それを活用して表現することは難しい。小中で連携した継続的なノート指導を行い、自分の意見をまとめ、説明し、相手を説得するなどの言語活動を繰り返し行うことが求められる。

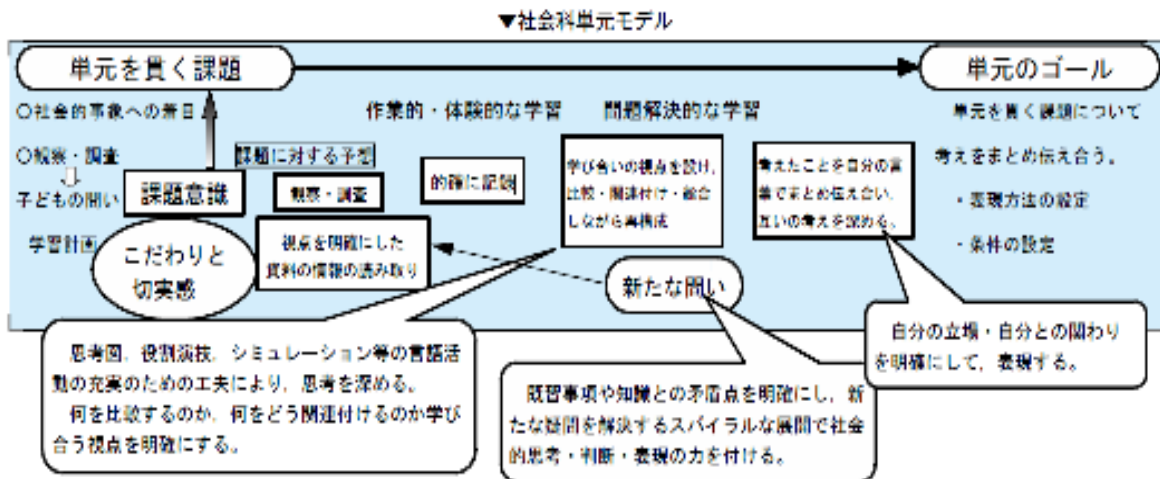
## 3. 強みと弱み

地理学習では経済のグローバル化に伴い、産業の発達する条件である資源・労働力・技術力が国境を越えて移動し、市場を形成する動きを多国籍企業の活動を元に、概念的に理解させたい。

歴史学習では、時代区分をはっきりと理解することが大前提であり、その上でおこなう比較検証等の学習活動が有効になる。しかし古代のうち奈良時代と平安時代を混同している生徒が多い。平城京と平安京の地図上の位置をはじめ、桓武天皇の平安遷都の理由や、それに伴う都の特徴などを理解させたい。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例



基礎的・基本的な知識，概念や技能を確実に習得させるためには，繰り返して学習することが必要である。単に用語を覚えるだけでなく，その概念を確実に理解し，書くことができなければ，それを活用して論理的な文章を組み立てることは不可能である。生徒が語句の概念を習得するうえで，ノートをしっかりと書くことは重要である。系統的，構造的な板書計画とノート指導の見直しを推進したい。

また，読解力を問われる記述式問題に対応するためには，日ごろから，書くことに慣れていなければならない。単元ごとに，学習内容を文章でまとめたり，テーマをもとにグループで話し合うなど，課題を継続し，言語活動を充実させ，思考力・判断力・表現力を身につける必要がある。

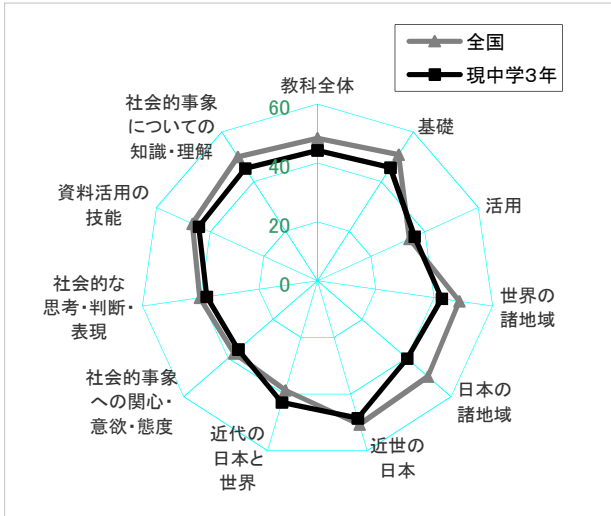
「活用」に関する力を向上させるために，単元で身に付けさせたい力，つまり単元を貫く課題を明確にした上で，効果的な言語活動を計画的に位置付けるなど，指導の改善を一層進めていく必要がある。

#### ※言語活動の具体例

- ・帰納・類推，演繹などの推論を用いて，説明し伝え合う活動を行う。
- ・日常生活の中で気付いた問題について，自分の意見をまとめ説得力ある発表をする。
- ・社会生活の中から話題を決め，それぞれの視点や考えを明らかにし，資料などを活用して話し合う。
- ・グループで協同的に問題を解決するため，学習の見通しを立てたり，調査や観察等の結果を分析し

# 中学 3年 社会

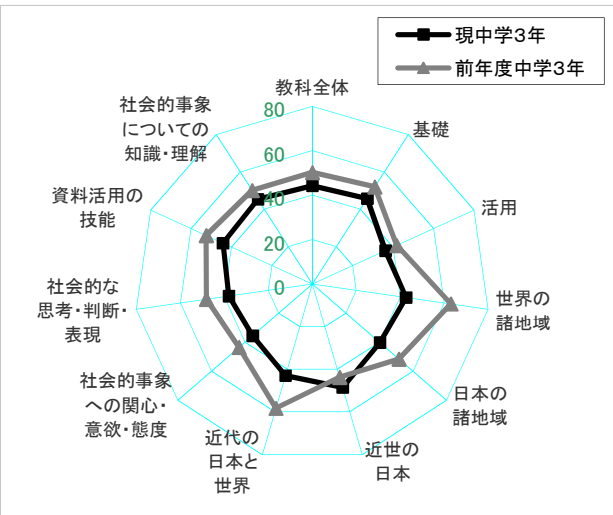
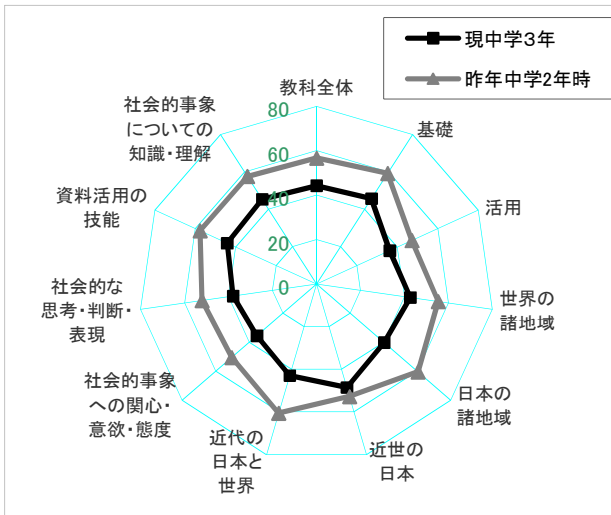
## 1. 全体傾向



### コメント

・活用の問題は全国平均を若干上回るものの、全国平均にそのものが高くない。一方で基礎が平均を下回り課題が大きい。  
 ・目標値を大きく下回る領域・観点が多いが、これは、継続した学習がなされていないため既習事項が定着していないことに課題がある。  
 ・記述問題の漢字の誤標記や、文章による説明等、書く活動の見直しが必要である。  
 ・領域では、「世界の諸地域(ヨーロッパ)」と「日本の諸地域(自然環境)」に課題があるといえる。

## 2. 経年変化



### コメント

基礎で目標値を大きく下回っており、領域でも「世界と日本の地域構成」が目標値から3.5ポイント下回っている。昨年度、今年度とも全国とほぼ同程度だったことから考えると、全国的に社会科の学習は、国語、数学、英語に比べると学習量が不足していることが課題と言える。

### コメント

単純比較はできないが、学習指導要領移行措置の昨年度の学年との差がはっきりと出ている。教科書が変わり、学習内容が多くなったことの影響もうかがえる。学習の継続により、定着を図る必要がある。

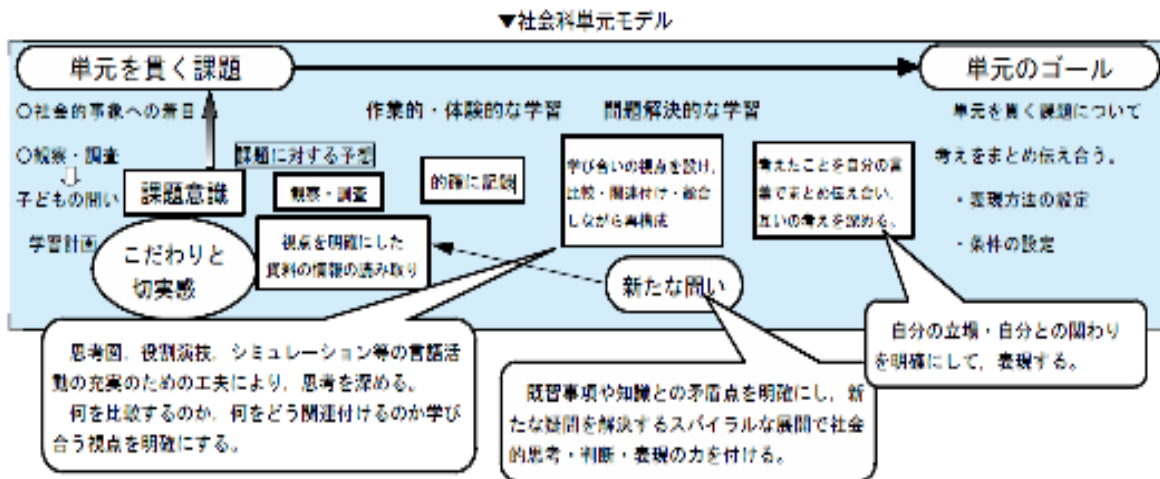
## 3. 強みと弱み

記述式の問題での漢字の誤表記が多いこと、また資料から読み取った内容を文章化したり、理由を文章で答える問題が弱い。

地理的分野では資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて、多面的・多角的に考察し、公正に判断する態度を身につけさせたい。四大工業地帯を理解した上で、日本の産業構造の変化とそれに伴う工業の変化、つまり基礎素材型から加工組立型へ成長し、やがて先端技術産業へと発展する一方、国内では産業空洞化が進む状況を、理解させたい。

歴史的分野では扱われる資料の対象や目的について概念的に理解し、表現することが必要である。社会科は学習への取り組み自体を後回しにする傾向が強い。日々の授業改善を行い、活用型の学力を身につけさせたい。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例



基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させるためには、繰り返して学習することが必要であるが、単に用語を覚えるだけでなく、その概念を確実に理解し、書くことができなければ、それを活用して論理的に考えを組み立てることは不可能である。

生徒が語句の概念を習得するうえで、ノートをしっかり書くことは重要である。系統的、構造的な板書計画とノート指導の見直しを推進したい。

また、読解力を問われる記述式問題に対応するためには、日ごろから、書くことに慣れていなければならない。単元ごとに、学習内容を文章でまとめたり、テーマをもとにグループで話し合うなど課題を継続し、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を身につけることが必要である。

「活用」に関する力を向上させるために、単元で身に付けさせたい力、つまり単元を貫く課題を明確にした上で、効果的な言語活動を計画的に位置付けるなど、指導の改善を一層進めていく必要がある。

#### ※言語活動の具体例

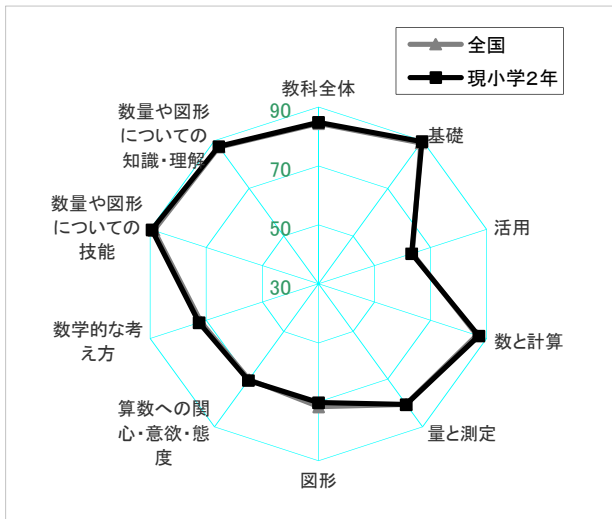
○ 地理的分野においては、地図の読図や作図などの学習を通して、思考力や表現力等の育成を図るとともに、世界の様々な地域の調査や身近な地域の調査において、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実する。

○ 歴史的分野においては、学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動や、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習などを通じて、歴史的事象について考察・判断し、その成果を自分の言葉で表現するなどの学習活動を充実する。

○ 公民的分野においては、習得した知識、概念や技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりするなどの学習活動を充実する。

# 小学 2年 算数

## 1. 全体傾向

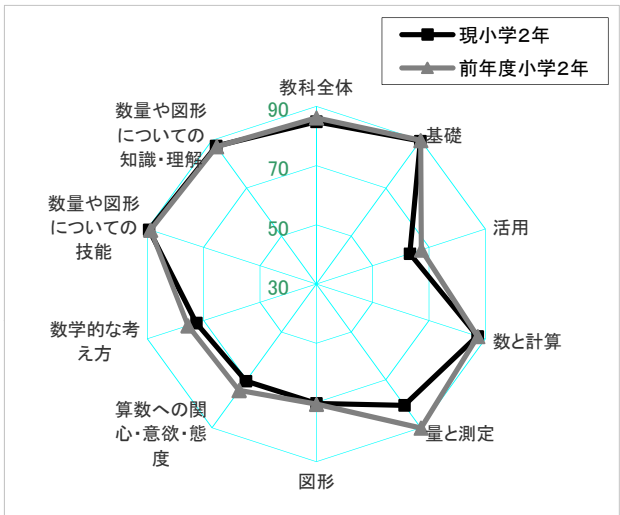
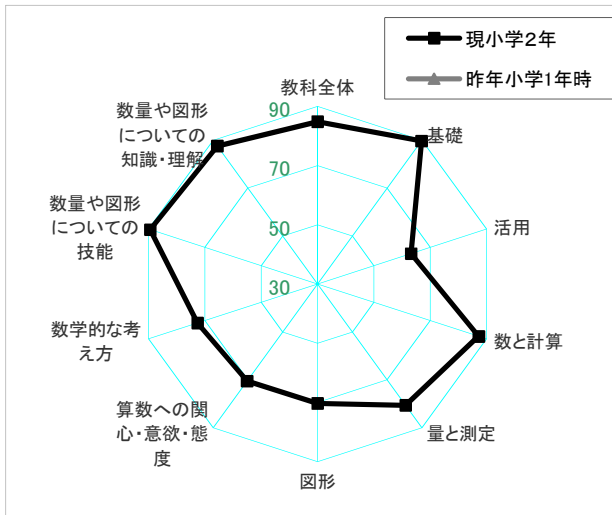


・観点で見ると、全国と同程度の結果となっており、平均的な学力を有していると考えられる。

・正答数が8割を超える範囲に、全体の9割程度の児童がいる。

・問題別の正答率を見ると、「繰り上がりのある足し算の考え方を理解している」や「絵の中の時計を読み取り、条件を満たす場合を考えることができる」の問題が全国との差で4ポイント以上、下回っている。この点に課題があると考えられる。

## 2. 経年変化



・昨年度の小学2年生と比べると、ほとんどの項目が同程度の数値で、「量と測定」と「活用」、「算数への関心・意欲・態度」において、下回っている。

・「基礎」と「数量や図形についての知識・理解」「数量や図形についての技能」は、2年連続で90%の正答率であり、指導の成果が表れている。

## 3. 強みと弱み

○児童の平均正答率が84.8%であり、今回出題された学習内容についてはおおむね身に付いていると考えられる。

- 課題のある問題を見ると、次の3点の対策が考えられる。
  - ・絵や図、ブロックなどを使い、算数的活動を充実させること。
  - ・時計の見方、位置関係など算数の時間だけでなく、日常生活においても使う機会を多くする。
  - ・情報過多の問題から必要な情報を取り出すことができるように、文章を読み取る力をつける。

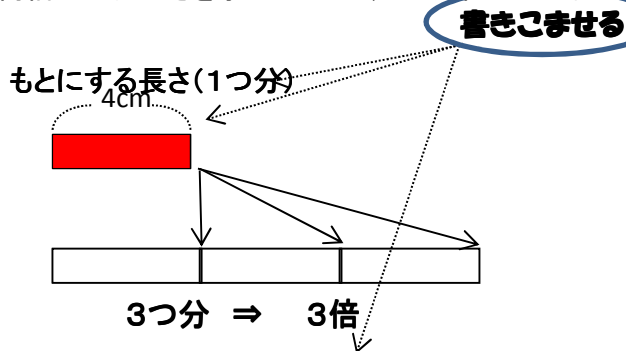
#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

### かけ算のもんだい

テープ図を活用し, 問題の意味を視覚でもとらえさせましょう

☆ 指導上の留意点 ☆

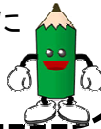
- (1)もとにする長さが「1つ分の長さ」であることを, テープ図を用いて, 視覚的に押さえる。
- (2)もとにするテープの長さで「〇つ分」の長さのことを, 「もとの長さの〇倍」であることを理解させる。
- (3)いくつか用意したテープの長さを「〇倍」という言い方になるか調べさせ, 表現に慣れさせる。
- (4)何倍かの大きさを求めるときも, かけ算の式になることを, テープ図から気づかせる。



もとにする長さの3倍だから  
 $4 \times 3 = 12$       答え 12cm

### 《ワンポイントアドバイス》

～ 板書を大切に!! ～  
 子どもが, ノートに自分で学習のまとめができるようにしたいですね。すっきりとまとめられた先生の板書は, その手本にもなります。



### 時間と時刻

段階的指導と日常生活の中での継続的な活用を!

☆ 指導上の留意点 ☆

～ 第1学年 ～

- 5分とびの読み方を理解し, 身に付ける。
- 時計の仕組みを理解し, 1分単位の時刻の読み方, 表し方を身に付ける。

～ 第2学年 ～

- 指導段階① 時刻と時間の意味を理解する。
- 指導段階② 時刻や時間を求める方法(ステップ1～4)を理解する。

日常生活で活用

- ステップ1** 時計を利用する方法  
(模型時計を動かしたり, 時計の絵の目盛りを使って求める。)
- ステップ2** 数直線を利用する方法  
(時刻を表した数直線に時間を矢印で示し, 目盛りを使って求める。)
- ステップ3** 計算で求める方法  
(時計の針の動きや数直線上の時間の増減から計算で求める。)
- ステップ4** 「もし～」と考える方法  
(「もし～時間後だったら」「もし～時だったら」と考えて求める。)

指導段階③ ドリルの活用により時刻や時間を求める方法を身に付ける。

指導段階④ 時刻や時間調べなど生活に活用し, 求め方の定着を図る。

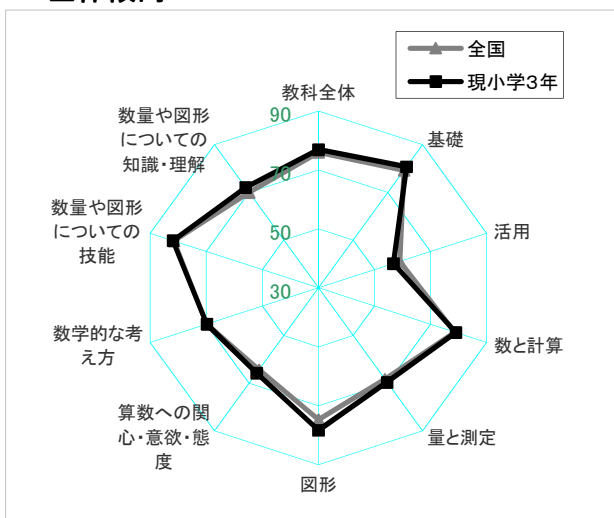
☆参考資料 ☆ <http://www.kec.kagawa-edu.jp/curriculum/houkoku/hiraku/h17/2005s002-001.pdf>



資料: 熊本市教育センター

# 小学 3年 算数

## 1. 全体傾向

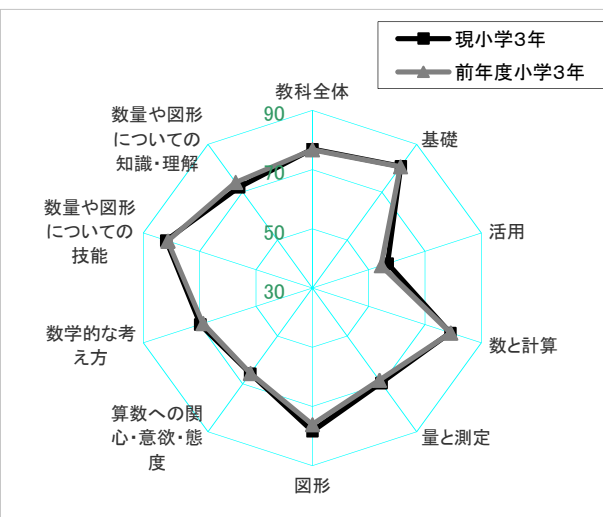
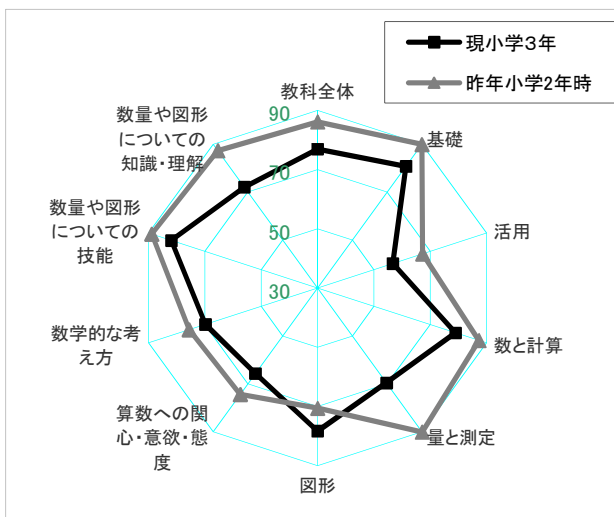


・観点別では、全国とほぼ同程度の結果となっており、平均的な学力を有していると考えられる。

・正答数が7割を超える範囲に全体の85%程度の児童がいる。

・問題別の正答率をでは、「文章から必要な情報を読み取って、時間を求めることができる」が10ポイント以上、「減法の文章問題を表した図を理解している」の問題が全国との差で5ポイント以上、下回っている。この点に課題があると考えられる。

## 2. 経年変化



・昨年度と比べると、全体的に正答率が10ポイント近く下がっているが、昨年度と今年度の全国平均を比較しても同様な状態であるため、学年があがったことによる正答率の低下と同等であり、特に問題ではない。

・その中で、「図形」は前年度を上回っており、指

・昨年度の小学3年生と比べると、ほとんどの項目において同程度の数値であり、「活用」が低くなっている。

・「基礎」と「数量や図形についての技能」は、2年連続で90%の正答率であり、指導の成果が表れている。

## 3. 強みと弱み

○児童の平均正答率が76.9%であり、今回出題された学習内容についてはおおむね身に付いていると考えられる。

●正答率が5割以下の児童は、小学2年で1.7%、小学3年で8.2%と増えており、学び直しの機会が必要な児童ととらえ、各学校において必要な指導を行う必要がある。

●課題のある問題を見ると、次の3点の対策が考えられる。

- ・時間と時刻については、これからも継続的に指導していく。(現小学2年でも時計が課題)
- ・具体的な操作活動を多く取り入れ、実感を伴った指導をしていく。
- ・答えの理由を明確に説明することができるように、言語活動の充実を図る。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

### 小数と分数の大きさ比べ

図や数直線をもとに, 小数と分数を関連づけましょう

0.8, 1,  $\frac{6}{10}$  を大きい順に並べましょう。

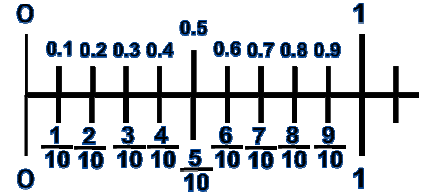
#### ☆ 指導上の留意点 ☆

- (1) 分数と小数は分けて指導される。そのため, 子ども達にとって分数と小数は別の数だと誤解されやすい。
- (2) 比べ方を教えるのではなく, どうしたら比べられるのかを問いかけ, 図や数直線を使って自分の言葉で表したり関連づけさせたりする。
- (3) 大きさ比べゲームなどを行い, 楽しく反復練習をすることで, 小数と分数を, 1より小さい値を表す数として同じ性質を持っていることを, 少しずつ認識することができる。

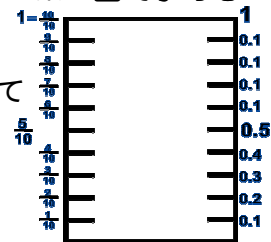
※ 単位で求める

- ① 0.1と $\frac{1}{10}$  は同じ大きさ
- ② 0.8は, 0.1 ( $\frac{1}{10}$ ) が8個
- ③ 1は, 0.1 ( $\frac{1}{10}$ ) が10個
- ④  $\frac{6}{10}$  は, 0.1 ( $\frac{1}{10}$ ) が6個
- ⑤ だから大きい順に1, 0.8,  $\frac{6}{10}$  となる。

※ 数直線で求める



※ 図で求める



☆ 資料 ☆ <http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/es/sansuu.htm>



### 間の数に目をつけて

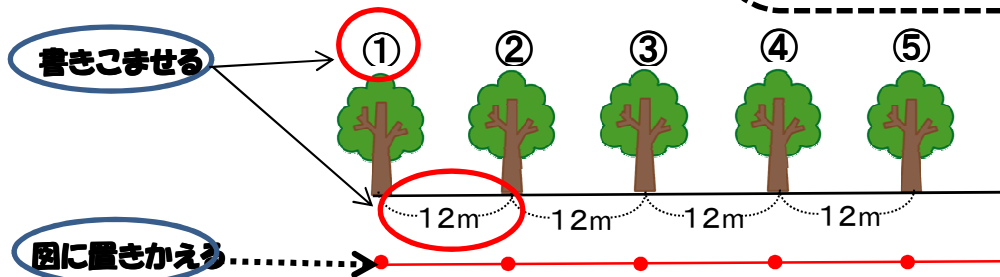
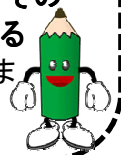
図の活用の仕方を身に付けさせましょう

#### ☆ 指導上の留意点 ☆

- (1) 問題文から分かることを, 図に書き込ませる。
  - ・「木に番号をふりましょう。」
- (2) 木の本数を少なくして考えさせる。
  - ・「はじめに, 3本めまで考えてみましょう。」
  - ・「一つ分の長さは → 木と木の間の12m」
  - ・「12mがいくつ分 → 2つ分 12×2で24m」
  - (実態に応じて間の長さを小さな数字にしてもよい。)

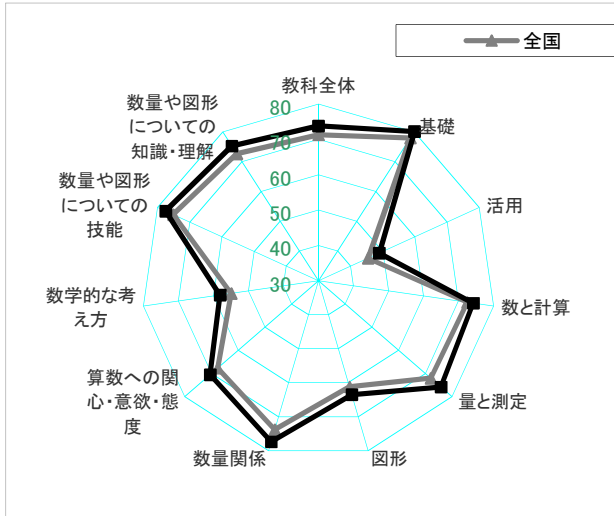
#### 《ワンポイントアドバイス》

いろいろな情報が混在している問題では, その答えの理由を明確に説明させることが大切です。日頃から, 答えが合っている, 合っていないだけではなく, **その答えにした理由を説明させる活動を多く取り入れてい**きましょう。



# 小学 4年 算数

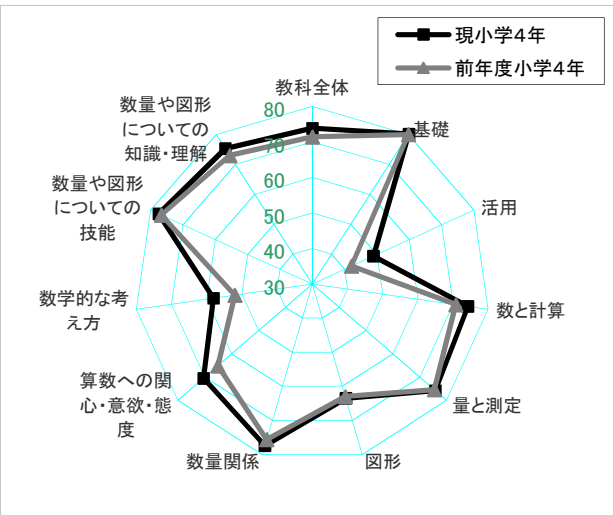
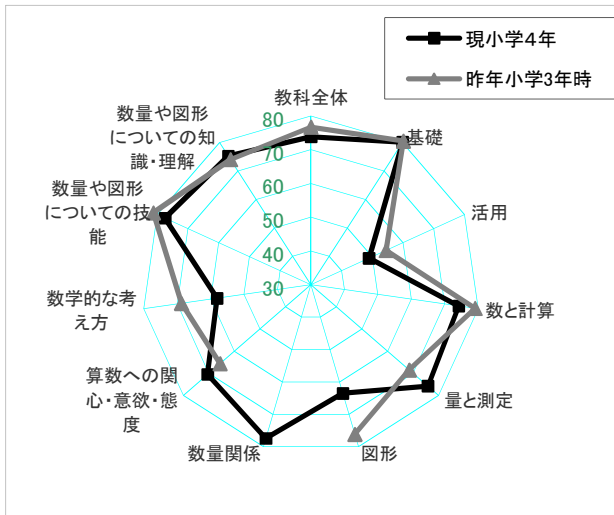
## 1. 全体傾向



### コメント

- ・現小学4年はカテゴリ別正答率のすべてにおいて全国平均を上回っている。
- ・基礎は8割以上の正答率である。
- ・全国的な傾向と同様に、数と計算のかけ算の応用問題と、図形の正三角形の性質を使った適用問題の正答率が低い。

## 2. 経年変化



### コメント

- ・向上したところは、「量と測定、算数への関心・意欲・態度、数量や図形についての知識・理解」である。
- ・低下したところは「教科全体、基礎、活用、数と計算、図形、数学的な考え方、数量や図形についての技能」である。

### コメント

- ・現小学4年はカテゴリ別正答率のすべてにおいて前年度小学4年を上回っている。

## 3. 強みと弱み

- 数と計算の技能面は得点が高い。
- 量と測定の知識理解と技能面に優れている。
- 数量関係はほぼ全ての領域で点数が上回った。
- 数と計算のかけ算の応用問題には課題が多い。
- 図形の正三角形や二等辺三角形の定義等、知識理解を強める必要がある。
- 量と測定において身近にあるものの重さを推測することができるような実経験を積む必要がある。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

平成24年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書 より

### 算数科(第4学年)単元名:「広さを調べよう[面積のはかり方と表し方]」

指導のねらい 面積の大きさの検討を付けることができるようにする。

問題の概要 身近なもののおよその面積の求め方を考える。



- ① 机の面積は、約何cm<sup>2</sup>ですか。面積の見当を付けるには、どうしたらよいでしょうか？  
 <自力解決>
- ・ 机を面積が求められる長方形として捉え、面積を求めるために、どこの長さが分かればよいか考える
  - ・ 手の長さなど、知っている長さを基準にして、机の辺の長さの見当を付けることに気付く



- ②教科書の表紙のおよその面積を求めましょう。  
 <自力解決>
- ・ 面積の見当を付ける
  - ・ 正確に面積を求め、面積の見当を付けた結果と比較する。

#### 留意点

- 図や表に印などを付け、それぞれを対応させることによって、図、表、児童の説明の3つを相互に関連付けられるようにする。
- 量の大きさについての感覚を豊かにするために、様々な具体物についての大きさを調べたり、確かめたりする作業的・体験的な活動を取り入れる。

### 算数科(第4学年)単元名:「四角形をつくろう[垂直平行と四角形]」

マスターコース(=少人数指導の基礎コース)の授業

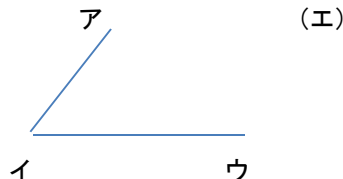
<http://www.n-masugata-es.gsn.ed.jp/kensyuu/kiyou1.pdf>

沼田市立升形小学校

本時のねらい: 平行四辺形の定義や性質を用いて作図方法を考えることができる。

#### <自力解決>

形も大きさも同じ平行四辺形のかき方を考え、ワークシートに図の続きをかきましょう。また、どのような方法でかいたか説明を書きましょう。



手立て: 算数的活動を通して、児童一人一人が自分なりの解決方法を考えられるように、学習状況に応じた支援を行った。

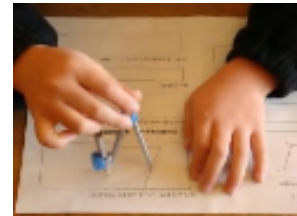
☆方法1→向かい合った辺が平行になるようにかく。

三角定規2本



☆方法2→向かい合った辺の長さが等しくなるようにかく。

コンパス



☆方法3→隣り合った角の和が180度になるようにかく。

分度器



#### 導入時

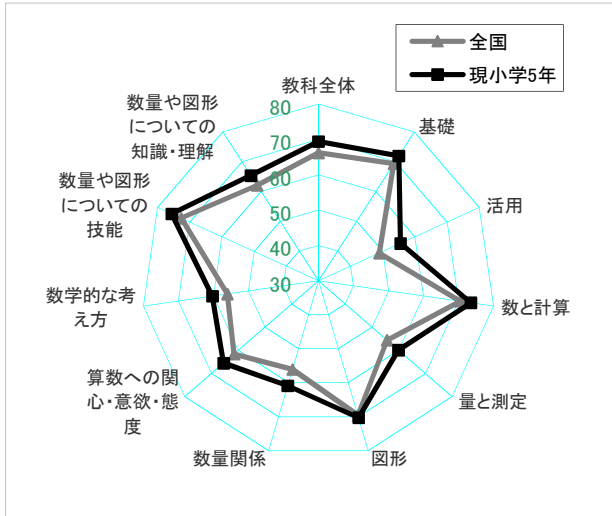
#### 手立て

このロケットの図を完成させていくことを、単元全体にかかわる課題とした。単元全体にかかわる課題を設定することにより、児童は学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができる。



# 小学 5年 算数

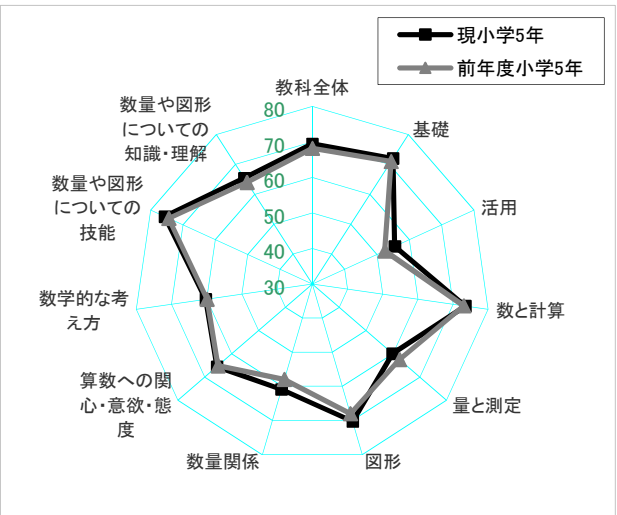
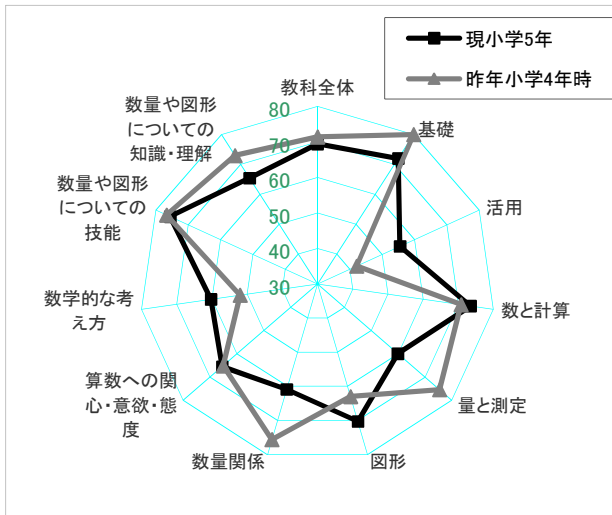
## 1. 全体傾向



### コメント

・現小学5年はカテゴリ別正答率のすべてにおいて、全国平均を上回っている。  
 ・全国的な傾向であるが、量と測定において身近にあるものの面積を推察する問題、図形の四角形の対角線の性質の知識理解、数量関係の伴って変わる2つの数量の関係の応用問題に対する正答率が低い。

## 2. 経年変化



### コメント

・向上したところは「活用、数と計算、図形、数学的な考え方、算数への関心・意欲・態度、数量や図形についての技能」である。  
 ・低下したところは「教科全体、基礎、量と測定、数量関係、数量や図形についての知識・理解」である。

### コメント

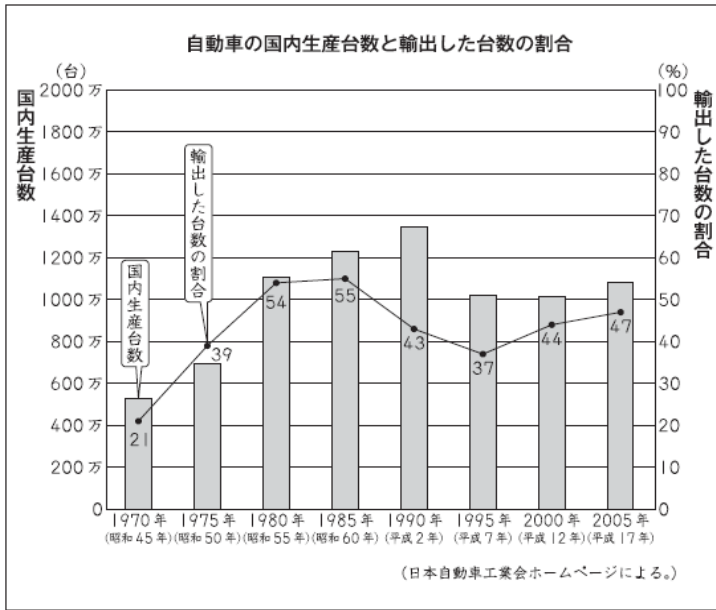
・現小学5年のカテゴリ別正答率をみると、「量と測定」を除いては、前年度小学5年を上回っている。

## 3. 強みと弱み

- 「数と計算」の技能の得点は高い。
- 「量と測定」の角の大きさの読み取り等、技能面は強い。
- 「図形」のいろいろな形の知識理解、ひし形の性質を利用した作図等の応用問題が若干弱い。
- 「数と計算」の億と兆・がい数の表し方の知識理解を深める必要がある。
- 「数量関係」の知識を活用した適用問題が弱い。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) ねらい 問題の場面から, 基準料と比較量の関係を捉え, 比較量の大小の判断ができる  
平成23年度全国学力学習状況調査問題より作成



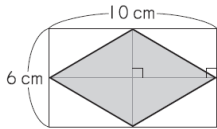
**指導のポイント**  
グラフから全体的な数量や傾向を読み取ったり, 数値の意味を考えたりする活動をとおして, グラフに何が表されているのかを読み取らせる。

**問題**  
左のグラフの1995年と2000年のところを比較すると, 2000年に輸出した台数と, 1995年に輸出した台数は, どちらが多いか。

- ① 1995年と2000年の国内生産台数はほぼ同じ
- ② 輸出した台数の割合が2000年のほうが大きい
- ③ ①②から, 輸出した台数は2000年の方が多いと考える

(2) ねらい 面積が等しい直角三角形を基に筋道を立てて考え, 面積の関係を言葉や記号を用いて説明できる

平成24年度全国学力学習状況調査問題より作成



**問題** 左の図で, 長方形に内接するひし形の面積を求めよう。

- ① 面積が等しい直角三角形に分けることができる
- ② ひし形の面積は, もとの長方形の面積の半分になる

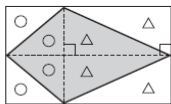


図1

**問題** 左の図で, 長方形に内接するいろいろな四角形の面積は, 長方形の面積の半分になるだろうか。

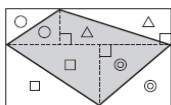


図2

- ① 図1と図2  
もとの長方形を面積が等しい直角三角形2つを組み合わせた形に分けることができる  
長方形の面積:  $2\bigcirc + 2\triangle + 2\square + 2\odot$   
四角形の面積は, もとの長方形の面積の半分になる  
四角形の面積:  $\bigcirc + \triangle + \square + \odot$   
長方形の面積:  $2(\bigcirc + \triangle + \square + \odot)$

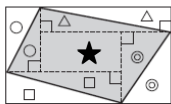


図3

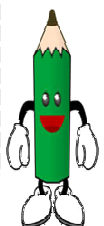
- ② 図3  
もとの長方形を, 面積が等しい直角三角形を2つ組み合わせた形だけでは分けきれない(★が残る)から, 半分にならない

#### 《ワンポイントアドバイス》

「この問題は, 今後の児童にとってどのように発展していくのか?」を中学校まで見通した上で指導に当たることが大切です。

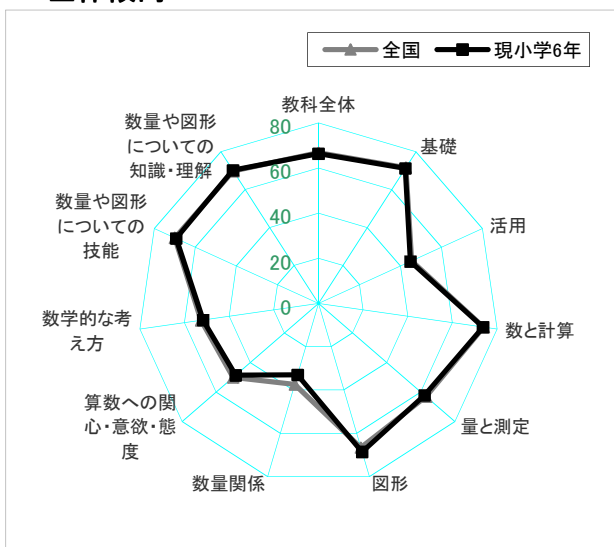
それにより「この内容は次年度でこのように扱われ, 中学校ではこのように発展していくのだから, 今の段階ではこのように指導しよう」という授業を行うことができます。

中学校では… 文字式の活用・文字式を使った説明 図形の性質の調べ方(論証)



# 小学 6年 算数

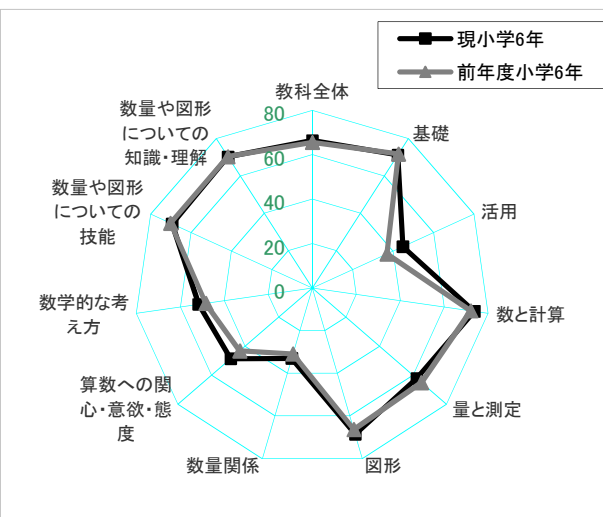
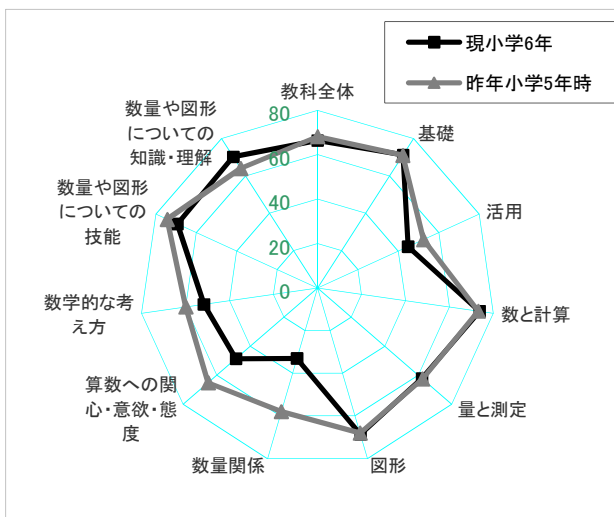
## 1. 全体傾向



### コメント

- ・ 全体的には、全国と同程度の結果となっており、平均的な学力を有していると考えられる。
- ・ 図形において、合同・立体についての問題の正答率が全国平均を6ポイント以上上回っている
- ・ 一方数と計算において、分数の計算問題の正答率が全国平均を3ポイント程度下回っており課題がある。
- ・ また、数量関係において、全国平均を約4ポイント下回っている。特に百分率に関する問題の正答率が低い。昨年度からこの傾向が続いており、課題がある。
- ・ 関心・意欲・態度の値が低く、課題がある。
- ・ 記述式の問題2問の正答率が、全国平均をそれぞれ約8ポイント・4ポイント下回っており課題がある。

## 2. 経年変化



### コメント

- ・ 全体的に昨年度よりも正答率が低下しているだけでなく、全国平均と比較しても、5年時では全領域・観点で2ポイント以上上回っていたのに対し、6年時は同程度となっている。
- この間、児童の大幅な出入りはく、全国平均と比較しての低下であることから、この原因を精査する必要がある。

### コメント

- ・ 出題問題は3割程度が異なるため単純な比較はできないが、前年度も今年度も全国とほぼ同程度の傾向が続いている。
- ・ このなかで、数量関係については、昨年度に引き続き全国平均を約4ポイント下回っており課題がある。

## 3. 強みと弱み

○ 全体的には、今回出題された内容については、概ね身につけていると考えられる。

○ 整数同士の乗除、小数の乗除といった基本的な計算問題や、図形の知識を用いて解く問題の正答率が高い。

● 分数の計算問題や、百分率の問題の正答率が低い。特に乗法よりも除法に関する問題の正答率が低い。

● 柏市の学力向上策のベースである関心・意欲・態度が低下している。

● 自分がどう理解し、どう考えたかを説明する力に課題がある。

## 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

### 1 授業改善の方向

#### 教えて考えさせる授業の推進

児童が、既習の知識・技能や考え方を活用して学習できるよう、教える内容と考えさせる内容をバランスよく計画する。

#### (1) 教える内容

課題を解決していくために必要な基礎的・基本的な知識・技能、考え方を教える。

#### (2) 考えさせる内容【応用的な内容】

新たに得た知識・技能、考え方をを使って、類似問題や、少し難易度が高い課題の解決に取り組みさせる。

#### (3) 考えを深めさせる内容【活用的な内容】

習得した知識・技能、考え方を活用して課題に取り組み、話し合い・教え合い活動により、考えを深めさせる。

### 2 指導例 いずれも平成24年度全国学力・学習状況調査問題より作成

#### 【数量関係】

ねらい 表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて説明・記述する。

19) えりかさんは、学校の男子と女子ではどちらのほうが乗れる人数が多いか  
調べてみよう。思い、どのような男女別の表によりました。

	乗れる	乗れない	合計
男子	9	5	5
女子	17	8	25

① 左の表から、どのようなことがいえるか。

- 女子のほうが一輪車に乗れる人数が多い
- 女子は人数が多いから、乗れる人数も多い

※ 男女別人数に極端な差がある別な例を示す。

- 乗れる人数を単純に比較できない
- 割合を使って比べるとよい

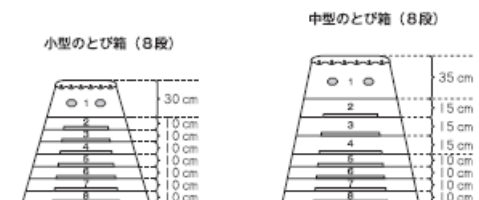
② 割合を求めて比較しよう。

- 割合を求める
- わかったことを説明する

#### 【数量関係】

ねらい 示された図を観察し、必要な情報を用いて、判断の理由を数学的に表現する。

ゆかりさんの学校には、小型と中型の2種類のとび箱があります。  
小型のとび箱の1段ごとの高さは、1段目が30cm、2段目から8段目までがそれぞれ10cmです。  
中型のとび箱の1段ごとの高さは、1段目が35cm、2段目から4段目までがそれぞれ15cm、5段目から8段目までがそれぞれ10cmです。



① 小型の跳び箱を70cmの高さにして準備した。中型の跳び箱も同じ高さにできるか。

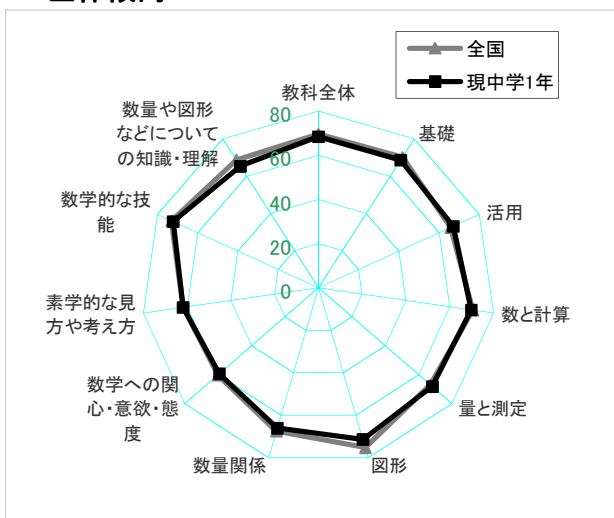
- 中型の跳び箱の3段目までで65cmだからできない
- 中型の跳び箱でできる高さが、50cm、65cm、80cmの順だからできない

② 同じ高さにできるのはそれぞれ何cmのときか。

- 段数を1段・2段と増やした結果を表や式で表現する
- わかったことを説明する

# 中学 1年 数学

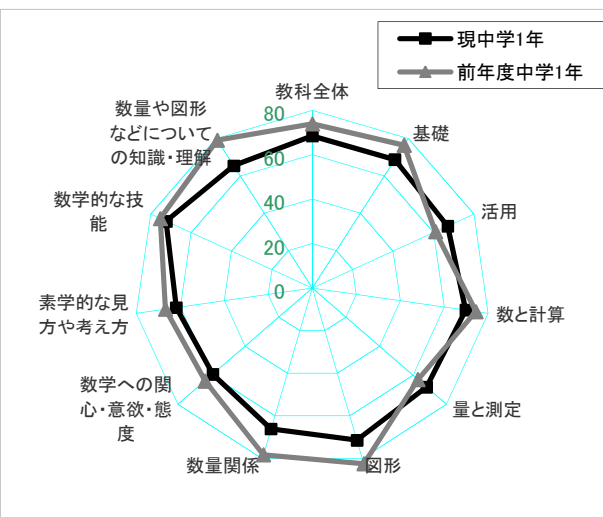
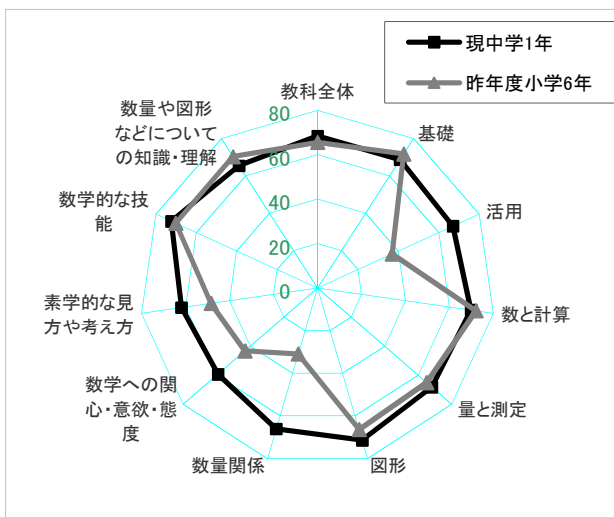
## 1. 全体傾向



### コメント

- ・基礎は全国平均をやや下回ったものの、活用は上回っており、全体的には全国とほぼ同等の結果である。
- ・数量関係において、場合の数を求める問題の正答率が高い。
- ・数と計算において、分数や小数の計算が定着していることもあり、図形における拡大図の辺の長さを求める問題や、量と測定における単位量あたりの大きさを問う問題の正答率が高い。
- ・一方では、図形において合同な図形を全て選ぶ問題や、数量関係において反比例する事象を選ぶ問題の正答率が低いなど、事象から一般性を抽出したり、定義を拠り所として判断したりすることに課題がある。

## 2. 経年変化



### コメント

・都市部の特徴として、中学校進学時に生徒数が7.5%減少(多くは私立中学校に進学)しているため単純な比較はできないが、昨年度正答率が全国平均を下回った領域(量と測定, 数量関係)及び観点(関心・意欲・態度, 数学的な考え方)に改善が見られる。小学校5・6年での習得段階で改善したのか、あるいは中学校での指導によって改善したのかについて検証する必要がある。

### コメント

・問題が異なるため単純な比較はできないが、前年度は領域別・観点別の全ての項目で全国平均を上回ったが、今年度は全国とほぼ同等であった。小学校6年での習得段階で発生した差なのか、あるいは中学校での指導によって発生した差なのかについて検証する必要がある。

## 3. 強みと弱み

- 全体的には、今回出題された内容については、概ね身につけていると考えられる。
- 基本的な計算問題や、場合の数を求める問題、図形の知識を用いて解く問題の正答率が高い。
- 事象から一般性を抽出したり、知識を拠り所として判断する問題の正答率が低く、課題がある。
- 柏市の学力向上策のベースである関心・意欲・態度が低下している。

## 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

### 1 授業改善の方向

計算や図形の定義・定理等の指導にあたっては、形式的に覚えさせるのではなく、具体的な場面に応じて、生徒が既習事項を活用しながら工夫して考え出したり、説明したりできるようにする必要がある。

### 2 指導例 いずれも平成24年度全国学力・学習状況調査問題より作成

#### 【資料の活用】

ねらい 与えられたヒストグラムから必要な情報を適切に選択し、処理する。

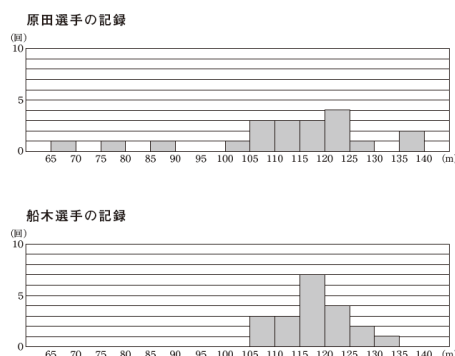
1998年生まれの美咲さんは、この年に行われた長野オリンピックで日本チームが金メダルをとったスキージャンプ競技に興味をもちました。

この競技では、飛んだ距離の大きさと姿勢の美しさを競います。

美咲さんは、このときの日本チームの原田雅彦選手と船木和喜選手の飛んだ距離の記録について調べました。

右の2つのヒストグラムは、1998年シーズンの長野オリンピックまでのいくつかの国際大会で、二人が飛んだ距離の記録をまとめたものです。

たとえば、このヒストグラムから、二人とも105m以上110m未満の距離を3回飛んだことが分かります。



- ① もしもこの二人がもう1回ずつ飛んだら、どちらの選手がより遠くまで飛ぶだろうか。
  - ・ 原田選手だと考える：最高記録を見ると、より遠くまで飛んでいるから
  - ・ 船木選手だと考える：安定しているから
- ② わかったことを、ヒストグラムの特徴や数学の用語を使って表現できないか。
  - ・ 原田選手だと考える：130m以上の累積度数が大きいから
  - ・ 船木選手だと考える：全ての記録が105m以上で、階級の中央の値が大きいところに記録が集中しているから

#### 【図形】

ねらい 複数の事象を統一的に捉え、筋道を立てて考え、証明する。

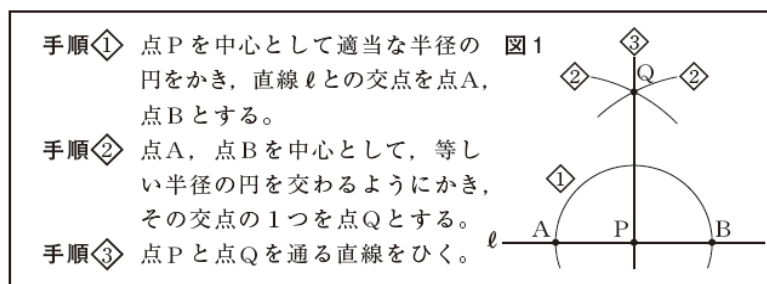
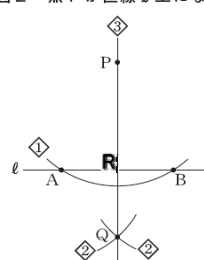


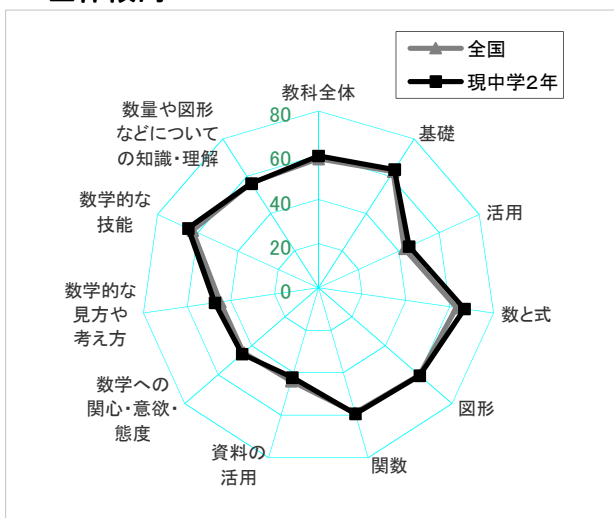
図2 点Pが直線ℓ上でない



- ① 図1で、直線ℓ上の点Pを通る直線ℓの垂線が、手順1～3で作図できる理由を説明しよう。
    - ・  $PQ \perp AB$ を証明するためには  $\triangle QAP \equiv \triangle QBP$  を証明すればよい
  - ② 図2で、点Pが直線ℓ上でない場合も、手順1～3で作図できるか。
    - ・  $PQ \perp AB$ を証明するためには  $\triangle PAQ \equiv \triangle PBQ$  を証明すればよい
  - ③ ①②から気づいたことは何か。
    - ・ 点Pが直線ℓ上にある場合もない場合も、同じ手順で線対称な三角形を作図することで、直線ℓの垂線を引くことができる
- ※ 後に、角の二等分線の作図と統一的に考えさせることもできる

# 中学 2年 数学

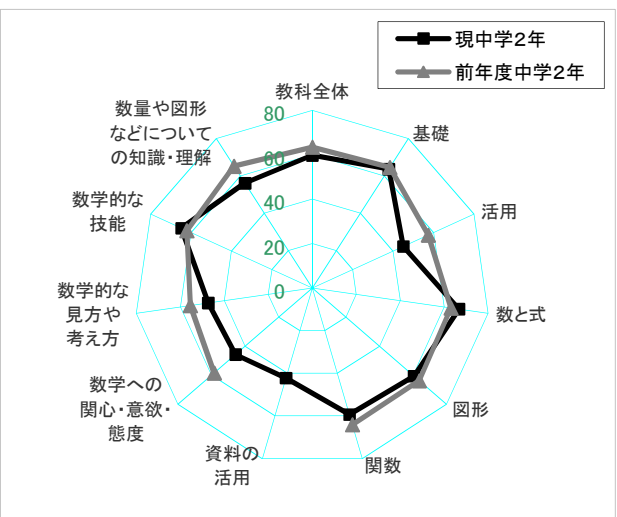
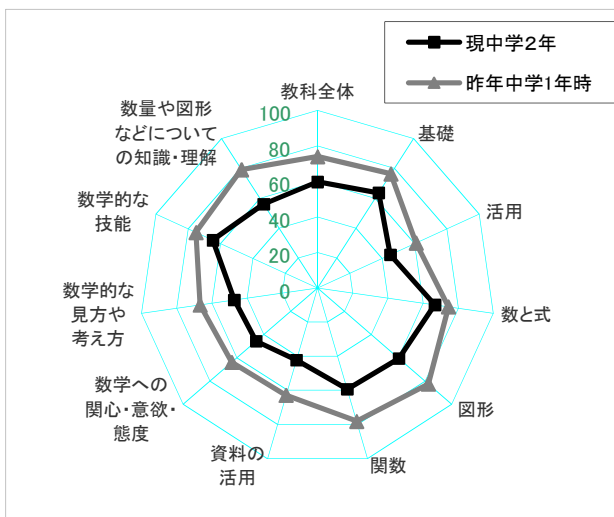
## 1. 全体傾向



### コメント

- ・領域・観点ともほぼ全国平均と同一の点数である。
- ・「数と式」の領域では、全体的に正答率が高いが、かっこを含む1次方程式の誤答は目立っている。
- ・「関数」の領域でも比例反比例のグラフを書いたり、読み取る基本的な問題で誤答が多い。
- ・「図形」の球の体積を求める式を選ぶ問題で誤答が多い。
- ・「資料の活用」領域の有効数字についての理解を求める問題は全国的に低得点であるが、さらに低い点数である。

## 2. 経年変化



### コメント

- ・小学校と中学校の領域が異なるのでそのまま比較はできない。
- ・この学年は、基礎問題より活用問題の方が全国平均を上回っていて、これは、昨年の1年時でも言える。
- ・1年時の観点別では、知識理解が全国より大幅に上回っていたが、2年になって数学的な見方・考え方の方が高くなった。

### コメント

- ・問題が異なるので、そのまま比較はできないが、領域では「数と式」と基礎問題が高得点であることに関連して観点別の数学的な技能が昨年度を上回っている。
- ・活用問題の得点が下がっていることで、観点別の知識・理解に加えて、数学への関心・意欲、考え方が昨年より下回った。

## 3. 強みと弱み

○小学校の復習を含めて、正・負の数、文字式、1次方程式、図形の移動の技能問題で正答率が高い。

○数学的な見方や考え方を問う、1次方程式の応用問題と比例・反比例の活用問題も全国平均を上回っている。

●「数と式」の領域では、1次方程式の移項やかっこつきの計算と大小関係の問題(負の分数と負の整数の比較)で誤答が多い。

●「関数」領域では、グラフを書くこと、読むことの問題で誤答が特に多い。

●「図形」領域の空間図形では、特に球の体積を求める式を選択する問題の点数が低い。

●「資料の活用」領域は、全国的にも低い点数であるが、有効数字の用語等知識理解に課題がある。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

##### 図形

##### 1 改善の方向

・平行四辺形の性質は、ただ言葉で覚えるだけでなく、記号で表す力も必要である。まずは、身近な道具を使って視覚的に性質を理解することも必要である。

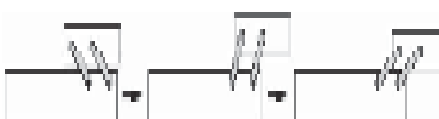
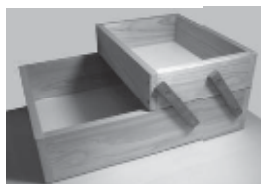
##### 2 指導例

[http://www.nier.go.jp/10chousakekkahoukoku/22\\_chuu\\_jugyou\\_idea\\_houkoku.pdf](http://www.nier.go.jp/10chousakekkahoukoku/22_chuu_jugyou_idea_houkoku.pdf)

※文部科学省 平成22年度全国学力・学習状況調査中学校の結果を踏まえた「授業アイデア例」より

##### 平行四辺形の性質

身の回りで水平を保つものの仕組みを考えよう。写真のような道具箱には、どのような仕組みがあるだろうか。



- 1 道具箱の上の段を動かしたときの様子を観察する。
- 2 アームの取り付け方を読んで、どのようにアームを取り付ければ平行になるか、模型を作り、確認する。身の回りで水平を保つものの仕組みを考えよう。写真のような道具箱には、どのような仕組みがあるだろうか。
- 3 アームを取り付けた部分を平行四辺形とみなして、平行四辺形になるための条件を調べる。
- 4 平行四辺形になるための条件を用いて説明する。
- 5 他の例をあげ、水平が作りだされている仕組みを確認する。

##### <留意点>

アームを取り付けた部分を平行四辺形ととらえる過程と平行四辺形になるための条件をアームの取り付け方から見いだす過程を大切にする

##### 関数

##### 1 改善の方向

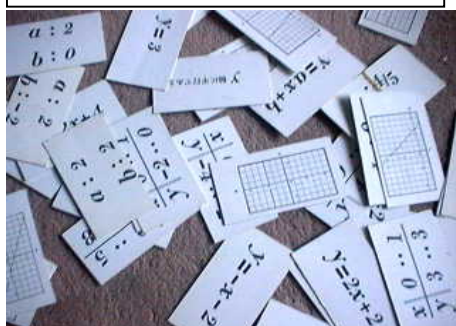
・1年生と同様に関数の領域は、全国的にみても苦手意識を持ちやすい単元のため、入念に指導に当たることが要求される。常に表とグラフと式を関連付けて具体的な作業を通して身につけさせるようにしたい。

##### 2 指導例

『ちょっと真面目な中学校教員【数学のとびら】』より

##### 一次関数のまとめ

<http://www2.nkansai.ne.jp/users/yoshioka/index.htm>



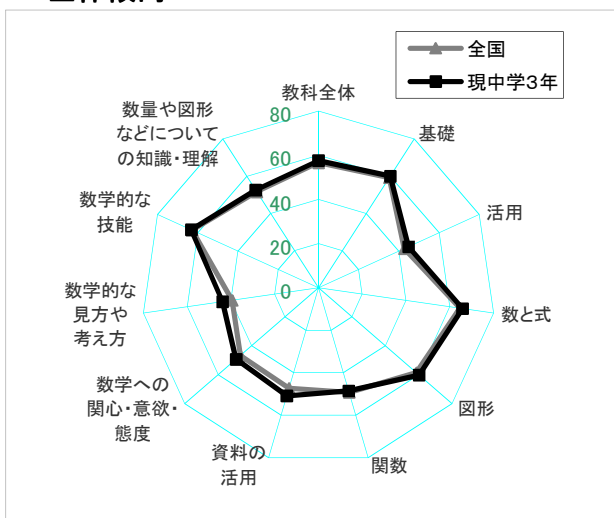
カードは全部で $4 \times 13 = 52$ 枚で1組になる。グラフ、式、表、切片と傾き、の4種類あり同じ関数を示すものを見つけさせる。

ババぬきや神経衰弱などのゲームをして、遊びながら学ぶ。時には授業に遊びも取り入れたい。

視覚的に表とグラフと式に慣れ親しむことを

# 中学 3年 数学

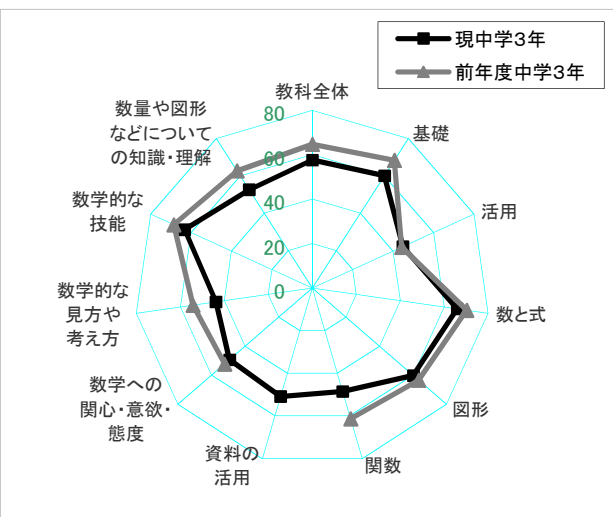
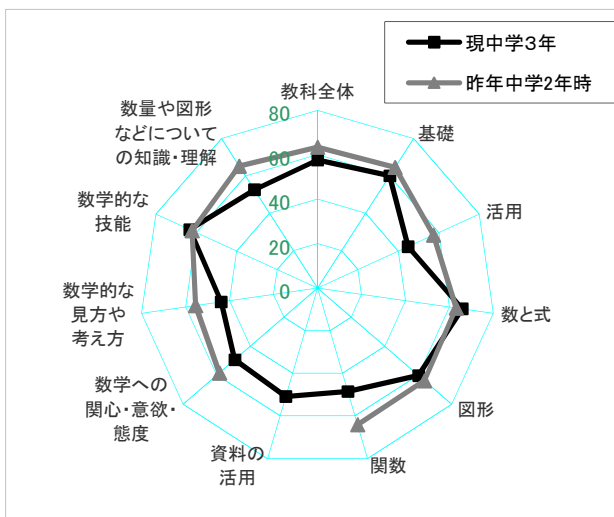
## 1. 全体傾向



**コメント**

- ・概ね全国平均と同等の点数を取っている。
- ・「数と式」の領域では、基本的な計算と応用問題も全国平均を上回っているが、分数を含む式の計算とカッコつき方程式の計算に誤答が多い。
- ・「関数」の領域では、グラフの読み取りが低く、応用問題は全国的な傾向であるが、柏市も正答率が低い。
- ・「図形」の領域では、図形の性質の知識理解と数学的な見方に課題がある。

## 2. 経年変化



**コメント**

- ・昨年2年時の点数はまんべんなく全国平均を全て2～4点正答率が上回っていた学年である。
- ・特に基礎よりも活用問題で全国平均を大幅に上回っている力があった。
- ・観点別では、3年時が下がって見えるが、全国よりは上回る点数は取っている。

**コメント**

- ・領域が3領域から4領域に変わり、観点も3番目の文言が変わっている。
- ・昨年今年もすべて全国平均を上回っているが、基礎問題と観点の知識理解、技能の今年の点数が昨年より全国平均との差が少ない。

## 3. 強みと弱み

- 応用力を示す「数学への関心・意欲・態度」と「数学的な見方や考え方」は全国平均も低いところであるが、点数的に上回っている。
- 「数と式」の領域の定着度は高く、基本的な計算と特に連立方程式の技能や応用問題にも強いと言える。
- 「図形」の領域も、技能面では強い傾向があり、記述式証明問題も全国平均を上回っている。
- 「数と式」の技能面で、分数を含む式の計算とカッコつきの1次方程式の正答率が低い。
- 「関数」の領域の正答率が低く、特に1次関数のグラフの読み取りや図形的な見方が問われる応用問題で点数がとれていない。
- 「図形」の領域で平行四辺形になるための条件を記号を使って答える問題で誤答が目立った。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

##### 図形

##### 1 改善の方向

・技能は定着しているが、知識理解においてやや劣っている面がある。今回の図形の性質を定着させるためには、観察・操作などの具体的な活動をする等、実感を伴った理解を図ることが望ましい。

##### 2 指導例 [http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h24/04%20chu\\_suugaku/index.html](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h24/04%20chu_suugaku/index.html)

参考 佐賀県教育センタープロジェクト研究 中学校数学科教育研究委員会

## すぐに役立つ！授業力UP！ 数学科学習指導のためのアイデア

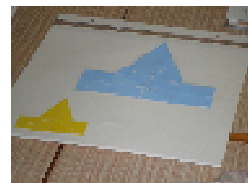
##### 1 単元名 図形と相似

- ・グループで黄色の直角三角形のピース6枚を使って、いろいろな図形を作る。
- ・グループで決めた図形を台紙に貼る。形は同じで大きさが違う図形について学ぼう

形は同じで大きさが違う図形について学ぼう

##### 【数学的活動】

- ア 成り立つ事柄を予想する活動
- イ 観察、操作などの具体的な活動
- ウ 自分の考えを人に伝える活動
  - ・人の考えを理解する活動



##### 関数

##### 1 改善の方向

・関数の領域は、全国的にみても苦手意識を持ちやすい単元のため、入念に指導に当たることが要求される。常に表とグラフと式を関連付けて具体的な作業を通して身につけさせるようにしたい。

##### 2 指導例 <http://www.nipec.nein.ed.jp/sidouan/02cyuu/03suugaku/index.html>

新潟県立教育センター 指導案&実践記録集(中学校 数学)

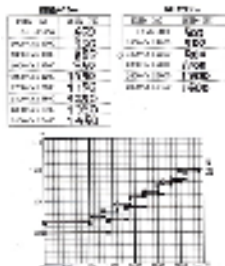
##### 【いろいろな関数】

ねらい

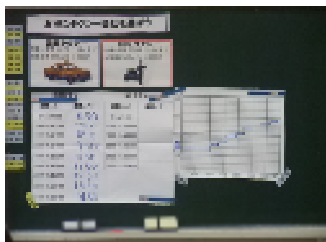
- ・表やグラフを用いた説明のよさに気付く。
- ・表やグラフを用いて運賃を比較し、お得なタクシー会社を選び、その理由を説明することができる。

展開の構想

##### ① タクシー会社の料金設定



##### ② 表とグラフを書かせる指導



##### ③ 説明し合う活動の設定



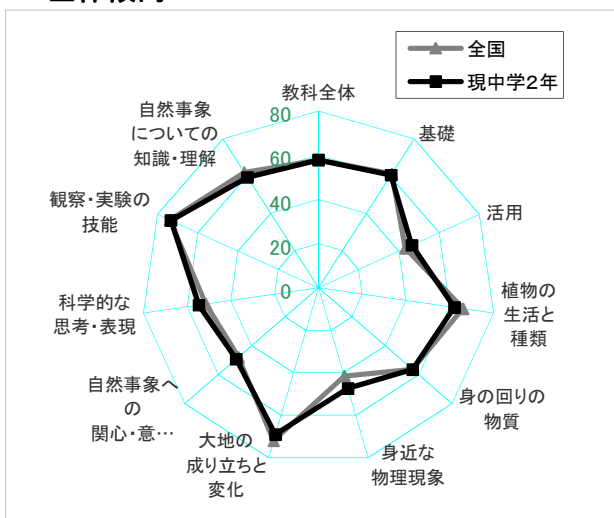
図1 2社の料金設定の表とグラフ

写真1 本時の板書の様子

写真2 説明し合う活動の様

# 中学 2年 理科

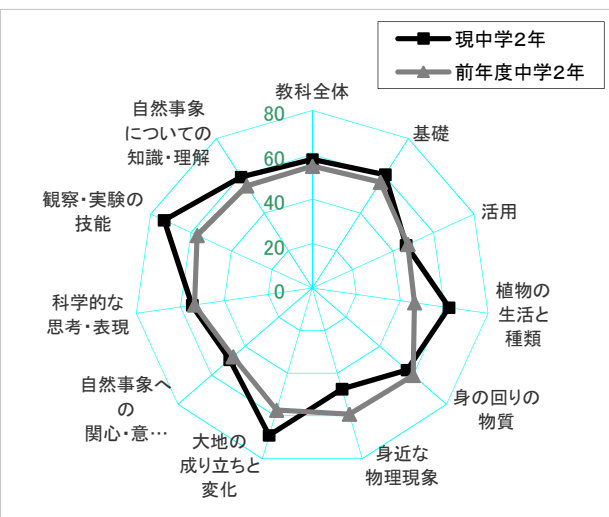
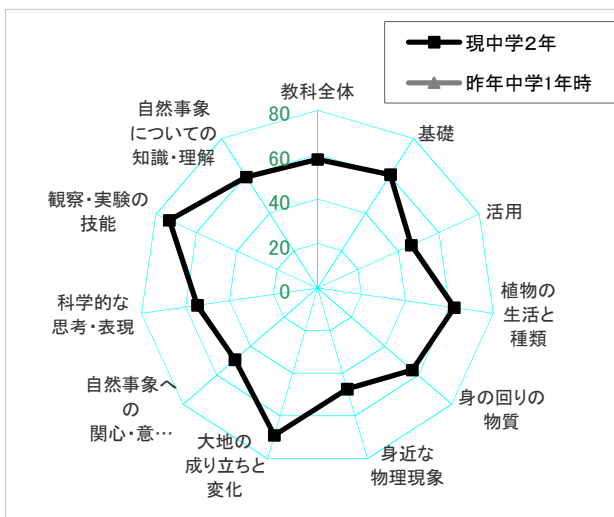
## 1. 全体傾向



### コメント

・今回の調査では、  
 ①植物の水の通り道  
 ②火山岩の組織(斑状組織・等粒状組織)  
 ③メスシリンダーの読み方  
 ④コケ・シダ類の増え方(孢子)  
 ⑤身近な蒸留の例(蒸留とは)  
 ⑥光の性質について  
 ⑦地震のP波・S波について  
 についての問いの正解率が良くない。  
 ・反対に、「浮力」や「光合成」については、記述での解答であるが、良くできている。

## 2. 経年変化



コメント(1年時、理科の調査を行っていない。)  
 改善策に、小学校からの指導系統について明記してある。中学校の結果は、小学校段階から継続された結果と捉えることが大切である。つまり、興味関心を引き出した上での観察や、実験結果に基づいてさらに課題を見いだすといった経験が小学校から必要である

コメント  
 ・この学年は、現3年生が2年生のときより学力が高いことが言える。実験や観察に関連付けておぼえる、知識理解的要素を含む単元や観点(植物・大地・実験観察の技能)について、開きがある。

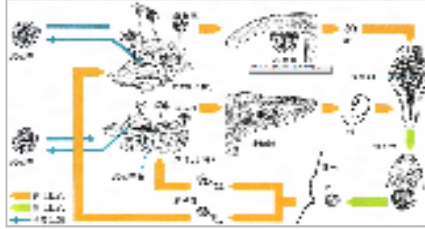
## 3. 強みと弱み

- ①興味は強く持っており、科学的な思考・表現も全国平均をわずかではあるが超えているので、継続したい。しかし、実験技能や知識理解は平均をやや下回っている。
- ②表現力が優れていると、文章による解答が特異な傾向がある。学力的にも上昇しやすい学年であると言える。
- ③化学や物理(旧第1分野)はある程度力はあるが、生物・地学(旧第2分野)の力が、弱い傾向にある。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

A. 「植物のからだのつくりとはたらき」は、あらためて系統立てて！  
 ・1年1学期の学習した、植物の水分の流れについての定着が低いので、  
 単子葉類・双子葉類に分け、根・茎・葉の作りを確認。道管・師管(維管束)  
 を確認する。

・孢子植物, シダ植物についての定着が低いので、特に孢子の増え方の確認を行う。  
 ⇒(孢子のでき方～動き発生までの動画で確認して、ワークシート等で書かせて、定着を図る)



	双子葉類	単子葉類
葉のつくり	葉脈は網目状 (網状脈)	葉脈は平行状 (平行脈)
種子のつくり	輪生	螺旋
根のつくり	主根と側根	ひげ根
葉のつくり	2枚	1枚
花のつくり	1つだけの花弁が多い	1つだけの花弁が多い
おしり	バナナ、アボカド	バナナ、アボカド

A<小学校からのつながり>  
 小3: 2植物をそだてよう  
 小4: 1季節と生き物  
 小5: 2生命のつながり(1), 3生命のつながり(2), 6生命のつながり(5)  
 小6: 3植物の成長と日光や水とのかかわり  
 中1: 単元1 植物の生活と種類

B. 「大地の成り立ちと変化」は、絵や写真が効果的！地震は、波形が一番！  
 ・火山の噴火によって、どのような岩石ができるかが、わからないため、その岩石の内部構造(組織)がわからない。  
 ⇒(火成岩には、浅い所で(急冷)できるため、結晶の小さな組織(等粒状組織)でできている火山岩と、深い所で(緩冷)できるため、結晶の大きな組織と小さな組織(斑状組織)でできている深成岩があることを系統立てて、表現する。写真や岩石の断面を示し印象付ける。)  
 ・地震波については、P波(早い速度で進む縦波)(初期微動), S波(P波の約半分の速さで進む)(主要動)があることを確認する。  
 ⇒(地震波の波形を確認することで、定着を図る。※初期微動(継続時間)は憶えている傾向にあるが、主要動は、忘れやすいようである。それぞれの平均的な速さを表現して、表にすると良いのではないのでしょうか)

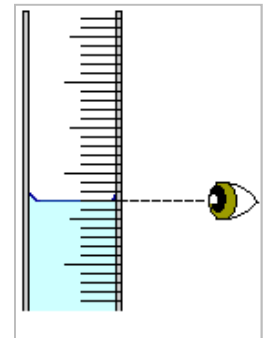
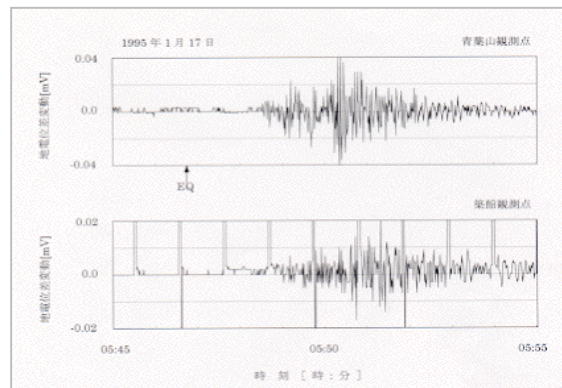
種類	つくり	特徴など
火成岩	斑晶 石基 斑状組織	地表や地表に近いところできる マグマが急に冷えて固まったもの 斑状組織 (石基の中に斑晶が混ざっている) 石基…急に冷やされたため、結晶になりそこなった ガラス質や小さな結晶の集まり 斑晶…比較的大きな結晶 流紋岩・安山岩・玄武岩
	等粒状組織	地下の深いところできる マグマがゆっくり冷えて固まったもの 等粒状組織 (同じような大きさの結晶が集まっている) ゆっくり冷えたため、大きな結晶ができます。 花こう岩・せん緑岩・斑れい岩

C. その他の單元では・・・  
 (身の回りの物質とその性質)  
 (どんなメモリも1/10を読む癖をつける！)

メスシリンダーの目盛の読み方  
 ⇒(実物で、しっかり検証しなければならぬが、目盛と目盛の間を目分量で10等分することを定着させること、小数についての学習が必要である。  
 (光と音の性質)...実物で確認する方がいいですね。自宅の姿見で、家族の協力を得ながら！)  
 ⇒(光の直進と鏡の反射が、同じ考え方であることを定着させる。)(鏡がからだの半分の長さ(高さ)がないと全身が見えない。)

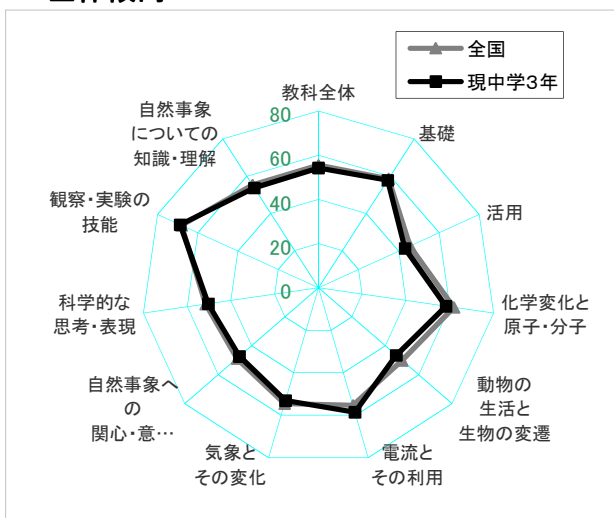
C<小学校からのつながり>  
 小3: 7光のはたらきをしらべよう  
 中1: 単元3身近な物理現象

B<小学校からのつながり>  
 小5: 7流れる水のはたらき  
 小6: 6土地のつくりと変化  
 中1: 単元4 大地の変化



# 中学 3年 理科

## 1. 全体傾向



### コメント

今回の調査では、

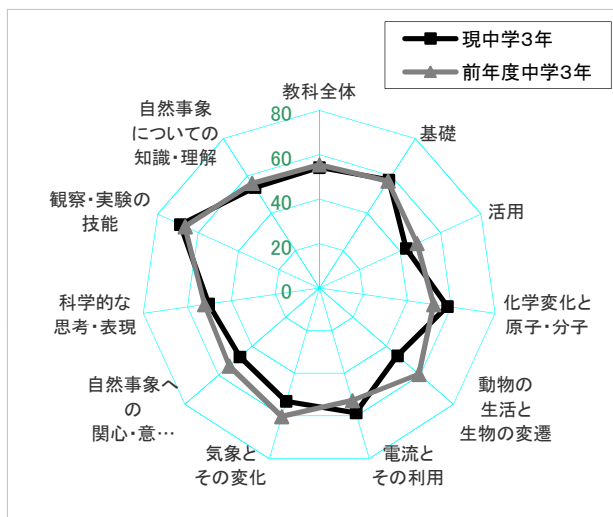
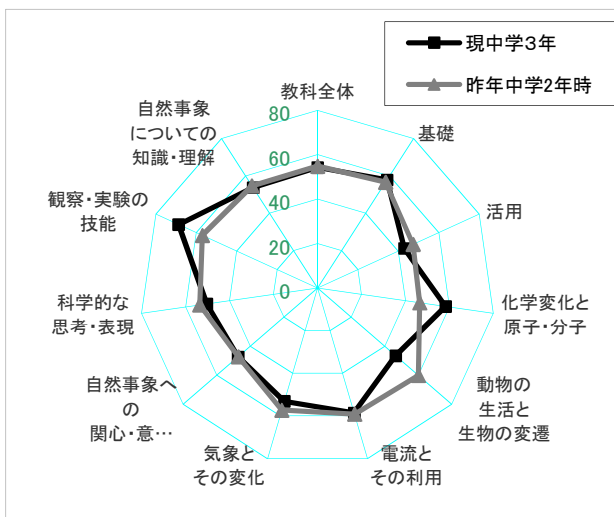
- ①地球上の、海・陸上・地下の水の割合
- ②酸化還元反応
- ③化学変化と分解の違い
- ④動物の分類

についての正解率が良くありませんでした。

・反対に、

- ①「電流と磁界」の単元では、電磁誘導などの定着が図られている結果となっています。
- ・全体を通して、記述・短答・選択という解答方式があるが、記述が苦手である。

## 2. 経年変化



### コメント

・市内では、中2から中3で、理科を嫌う生徒が増えるという残念な結果が出ている。今後、魅力的な授業を求めなければならないが、「基礎」が2年時より若干ではあるが上回っているところから、学習を怠っているのではないようである。生物・地学の分野について、力が付いていない。これは憶える部分が多いからであると推察する。反対に、化学分野の力が伸びている結果が出た。実験の技能が高まっていることに関連があると思われる。

### コメント

・昨年度の3年生に比べて、憶えることの多い生物分野や地学分野が劣っているようである。しかし若干高い実験や観察の技能の影響で化学分野や物理分野(化学変化・電流)の力が高いことがうかがえる。実験や観察を更に充実させること、憶えることに対しての工夫で、能力が高められると考えられる。

## 3. 強みと弱み

- ① 興味は強く持っており、科学的な思考・表現も全国平均をわずかではあるが超えているので、継続したい。しかし、実験技能や知識理解は平均をやや下回っている。

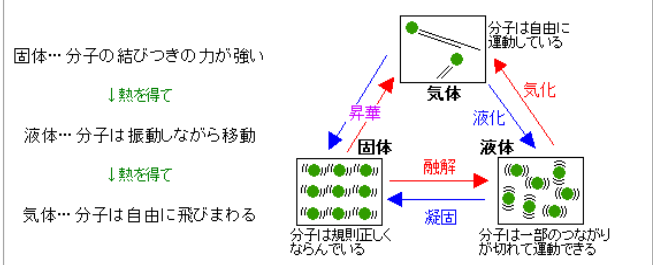
#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

1	11	21	31	41	51	61	71	81	91
2	12	22	32	42	52	62	72	82	92
3	13	23	33			63	73	83	93
4	14	24	34			64	74	84	94
5	15	25	35			65	75	85	95
6	16	26	36			66	76	86	96
7	17	27	37			67	77	87	97
8	18	28	38	48	58	68	78	88	
9	19	29	39	49	59	69	79	89	淡水
10	20	30	40	50	60	70	80	90	

A. 「雲のでき方と水蒸気」(知識として, 教えることと・・・ビジュアル!)  
 ・おそらく, 地球上で海と陸との割合と錯覚している事が予想される。  
 ⇒(「海:陸=7:3」だが, 問いは, 「海水:淡水」であり, 陸にある淡水の量を考えなければならない。定着させるには, 決められた水溶液を色分けして, 見せるなどの方法で, 印象付けることが大切である。1リットルの水の970mlが海水で30mlが淡水)

A<小学校からのつながり>  
 小3: 6太陽の動きと地面の様子を調べよう  
 小4: 2天気と気温・12自然の中の水  
 小5: 7流れる水のはたらき・1天気と情報(1)(2)  
 中2: 単元4 気象のしくみと天気の変化

B. 「物質の成り立ち」・・・化学変化と状態変化の違いを確認!  
 ⇒(物質が, 見えないほど細くなる場合と, 酸素が付いて別の物質に変化する(化合)の違いを確認する必要がある。)

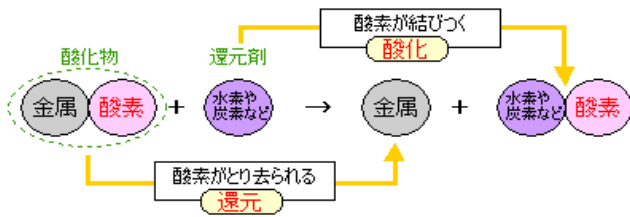


C. 「化学変化」・・・アルミニウムは, 新しい金属である。金・銀・銅は馴染みがあり漢字です!  
 ・金, 銀, 銅よりアルミニウムが利用が遅れた理由。  
 ⇒(単体・化合物についての知識, 更に酸化や還元についての理解を深める)

#### 酸化還元反応

還元…酸素がとり去られる化学変化

酸化物に炭素を加えて加熱すると酸化物の酸素が炭素にうばわれて, 炭素が代わりに酸化します。



酸化・還元が同時に起きるので, 「酸化還元反応」と呼ばれます。

B・C<小学校からのつながり>  
 中1: 単元2 物質のすがた  
 中2: 単元1 化学変化と原子・分子

D. 「動物の分類・生物の変遷と進化」・・・分類はある程度憶える必要がある!  
 ⇒(系統立てて, 説明することが大切です。さらに, 動物の写真を加えると, 印象に残る。)

	心え方	生活場所	呼吸	体温	例
ホニユウ類	胎生 子としてうむ			恒温動物 気温が変化しても 体温は一定	ヒト, ネコ, イヌ, ウマ, クジラなど
鳥類	卵 からのある卵を陸上にうむ	おもに陸上	肺呼吸	変温動物 気温が変化すると 体温も変化	ハト, スズメ, ニワトリ, ペンギンなど
ハチュウ類	生 からは乾燥をふせぐ				ヘビ, トカゲ, ワニ, カメ, ヤモリなど
両生類	卵をうむ	親…水辺	肺呼吸・皮膚呼吸		カエル, サンショウウオ, イモリなど
魚類	からのない卵を水中にうむ	子…水中	えら呼吸		フナ, タイ, サメ, エイ, ウナギなど



カミツキガメ(ハチュウ類)

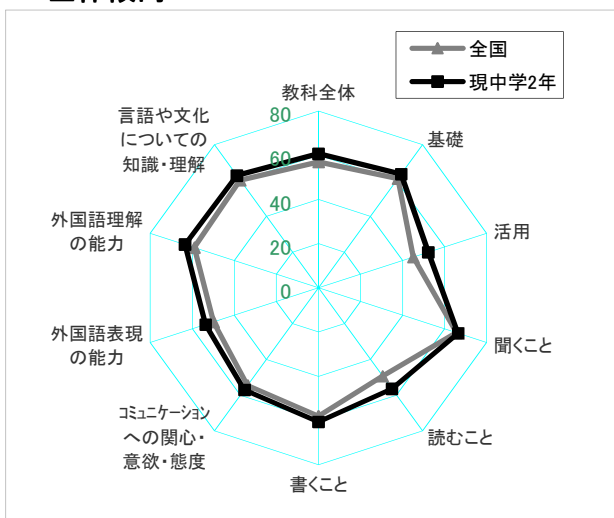


ザトウクジラ(ホニユウ類)

D<小学校からのつながり>  
 小3: 3昆虫をそだてよう  
 小4: 1季節と生き物  
 中1: ※身近な生物の観察  
 中2: 単元2 動物の生活と生物の進化

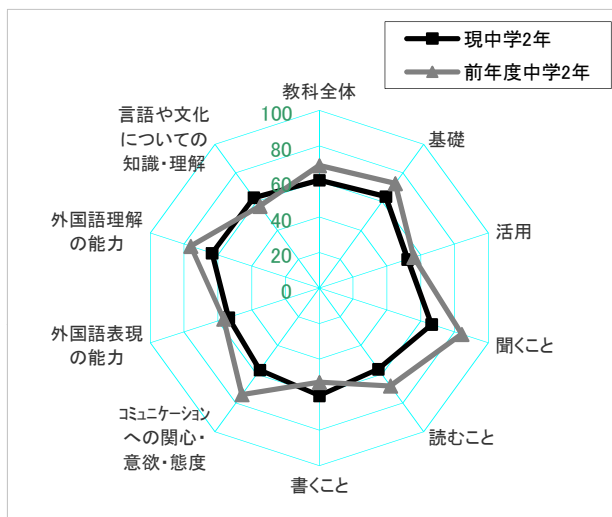
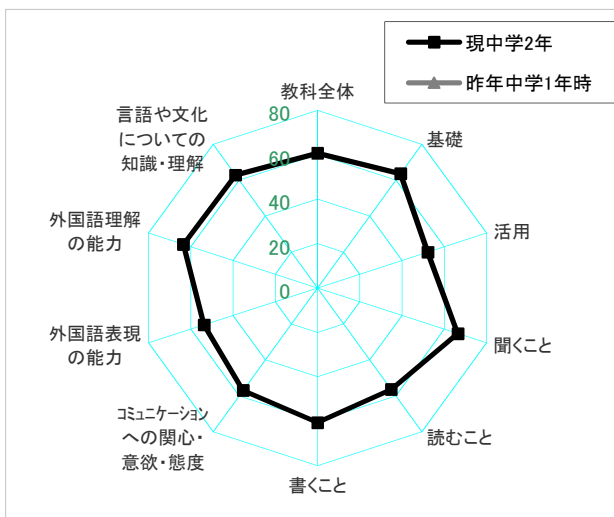
# 中学 2年 英語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・どの項目も全国正答率を上回っているが、相対的に見ると「活用」がやや劣り気味である。  
 ・リスニングで劣る点が見られる。9問出題されたうち、5問は全国正答率を下回っている。

## 2. 経年変化



**コメント**(経年変化ではなく、1年時の指導について記述)  
 ・3学年の傾向である、「活用」と「外国語表現の能力」において弱い点が現れ始めている。  
 ・3年間で身につけさせたい力を見越しながら、新しい構文等を学ぶ際に、パターンプラクティスや自己表現を多く取り入れるよう意識した授業内容にしていくとよいと思われる。

**コメント**  
 ・前年度:市平均正答率 73.7 / 目標値 69.7  
 今年度:市平均正答率 60.7 / 目標値 56.4  
 問題の内容や目標値が大きく異なるため、比較することは難しい。  
 ・前年度中学2年の傾向は、現中学3年の傾向と比べると、ほぼ変わっていないことが分かる(強みと弱みが変わっていない)。

## 3. 強みと弱み

・「読むこと」は、90%の学校が全国正答率を上回っているという結果が出ている。  
 ・問題別にみると、リスニング(英文を聞いて、適切な絵を選ぶ・対話の内容を聞き取り、適切に応答する)の正答率が悪く、目標値との差が0.3と最も低い。また、英作文(3文以上の英文を書く)の問題は、全国平均正答率を上回っている学校が40パーセントに止まっている。



#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

・弱い点を補う継続的なトレーニング

##### 例1) 英作文

① テーマを決めて2文の英作文を作る(慣れてきたら3文)。



Q: Who is this man?

A: He is Honda Keisuke. He plays soccer very well.  
(I like him very much. He is very popular. など)

・5分間ぐらいで行う。  
・慣れてきたら, NGワードを決めたりして, 条件を付ける。

② 出だしの表現だけ設定して, 2文の英作文を作る(慣れてきたら3文)

● I can ~

I can play baseball. Baseball is very exciting. など

● I like ~

I like summer. Because I can swim in the sea. など

● I have ~

I have two dogs. They are cute. など

・採点をして記録を取り, 評価をする。⇒意欲付けにつながる。  
・定期試験にも組み込み, 成果を確認する。

##### 例2) リスニング

###### 5分リスニング

(台本) There are three students, Ken, Hanako and Taro. Ken is 14 years old. Hanako is older than Ken. Taro is as old as Hanako.

質問: 3人の中で1番年が若いのはケンである。

答え: ○

・最初は○×で答え

・生徒同士で活動させる資料 (PROGRAM 5-1 「There is(are) ~.」)

① 生徒に資料1と資料2を配付する。資料2は何種類か別の文を準備する。

例) There is an apple in the box. There are two bananas on the table. など





② 資料1の[fruits]の欄に2つの果物のうち1つを, [place]の欄にboxかtableを選んで書く。

③ 相手を見つけてジャンケンをする。負けた方は, 自分が持っている資料2の英文を言う。

勝った方は, 自分が選んだ果物と場所が一致していればその個数だけマークすることができる。

④ 5個すべてマークできたら終了。(先生がサインをしたりシールをあげたりするとよい)

資料1

fruit	1	2	3	4	5	place
 banana						 table
 apple						 box

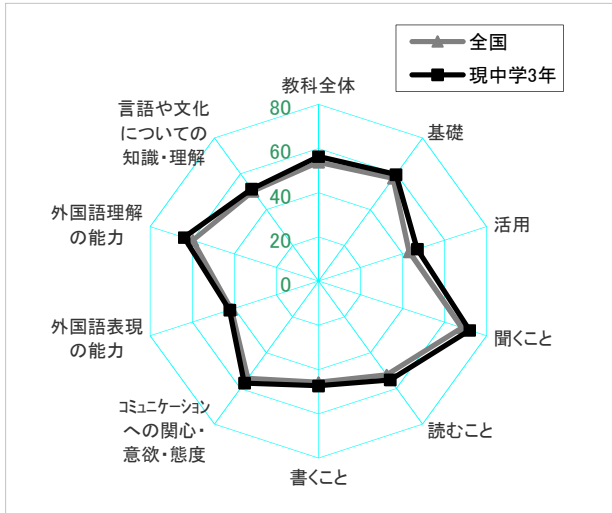
資料2

There is an apple in the box.

There are two bananas on the table.

# 中学 3年 英語

## 1. 全体傾向

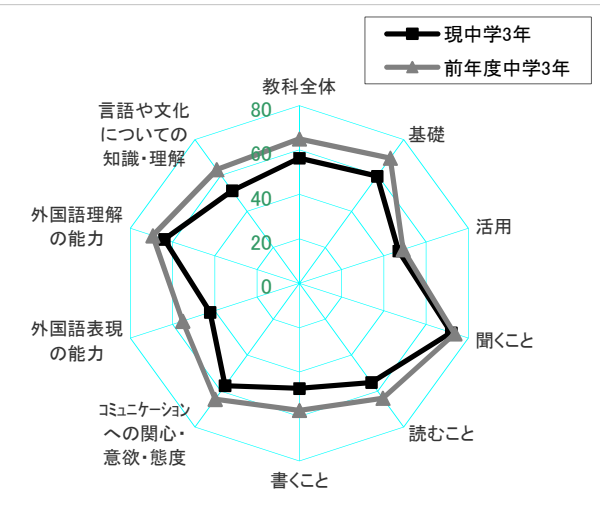
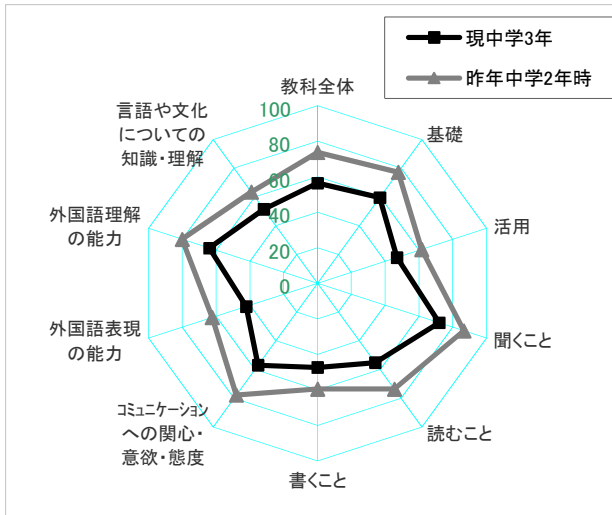


### コメント

・柏市の傾向は全国のものと同様である。「活用」と「外国語表現の能力」が他と比べて弱いが、ここを強化するためには、授業の形態を見直す必要がある。

・どの項目においても、柏市の正答率は全国のものを上回っている点は評価できる。しかし、「言語や文化の知識理解」と「外国語表現の能力」は、目標値との差がそれぞれ0.6と0.4とわずかであり、半数の学校が全国正答率を下回っているため、授業改善を図り力をつけさせていきたい。

## 2. 経年変化



### コメント

・全体的に2年時よりも低い結果になっているが、これは2年生から3年生にかけて習う文法や構文の難易度が急に上がることが原因の一つと考えられる。

・2年時に、しっかりと基本的事項を身につけさせ、授業についてこれない生徒が出ないように、丁寧な授業をしていきたい。

### コメント

・前年度の問題は、今年度のものよりも目標値も高く設定されている内容であるため、このような結果になっていると思われる。

・昨年度と同様傾向は似ているが、「外国語表現の能力」については弱いことが分かる。

## 3. 強みと弱み

・「読むこと」は強いというデータが出ており、7割の学校が全国正答率または目標値を上回っている。しかし、問題の内容はそれほど高いレベルとは言えない。

・弱い点の1つ目は、1で述べたとおり「外国語表現の能力」と「書くこと」である。問題の内容で言うと、  
形式＝記述・短答  
内容＝場面に応じて英作、本文の内容についての質問に英語で答える、テーマに沿った英作

・弱い点の2つ目は、「言語や文化についての知識・理解」の問題である(12問中6問が目標値以下、また4問が全国正答率以下)。目標値を上回っているのは3割の学校である。  
形式＝選択・短答  
内容＝語形・語法の知識理解(動名詞・過去進行形・助動詞の後の原形・比較級をそれぞれ見分けて選択できるか)、語彙の知識理解(単語を書けるか)  
語形・語法の知識理解を問う問題では、全国正答率を上回っている学校は7校にとどまっている。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

・弱点としてあがっている, 選択形式で「語形・語法の知識理解」を問う問題は, 口頭表現で覚えていれば得点することができる。つまり, 授業では導入の際に, 説明の場面と, 使い方の例をあげたり自己表現をさせたりしながら, たくさん発言させる(アウトプット)場面を作りたい。  
 ⇒生徒は, どのように活用するかを自分で考えるようになる。※IT(パワーポイント等)を用いた活動

・「外国語表現の能力」を問う, 「書くこと」の領域に関する問題は, 2年生の結果(1年生の内容)からはそれほど弱くはないことがわかる。1年生の後半から2年生において, 習う文法や文の構成の難易度が急に上がることが分かる。そのため, 1年生のうちから, 「書くこと」を苦に感じさせないトレーニングをしておく必要がある。

◎パワーポイントを用いた導入・活用練習 (3年生 PROGRAM 5 「call A B:AをBと呼ぶ」)

T: Look at this picture. Who is he?  
 S: Jaian. (Goda Takeshi)  
 T: Yes, his name is Goda Takeshi. But we call him Jaian.



簡単な英語を使ったやり取りで導入していく。

T: Well... Look at this picture. Who is she?  
 S: Aragaki Yui. (Gakk)  
 T: Yes, her name is Aragaki Yui. But we call her Gakky.



同じやり取りで本日のポイントを意識させる。

T: Well... Look at this picture. Who is he?  
 S: Ichiro. (Suzuki Ichiro)  
 T: Yes, his name is Suzuki Ichiro. But what do you call  
 S: We call him Ichiro.



生徒に本日のポイントを言わせるようなやり取りに持っていく。

T: Do you know him?  
 S: Yes, I do.  
 T: What do you call him?  
 S: We call him ~.



クラスメートや先生等, 身近な人の写真なども使ってパターン練習をし, “口慣らし”をさせる。

〈ペアワークシート〉  
 ※相手とジャンケンをして勝ったら質問できる。3人に質問したら終了。

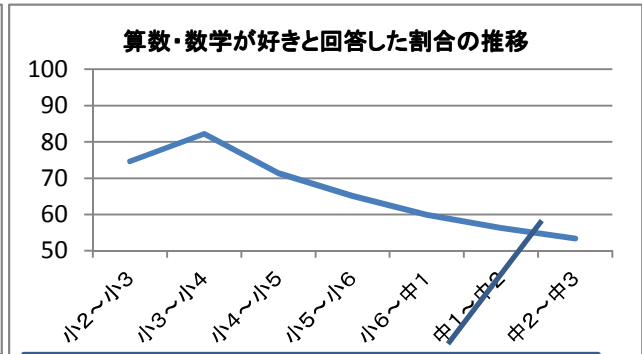
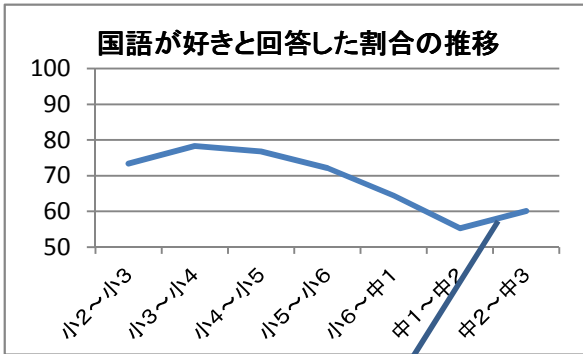
NAME	~を	...と

S1: Do you have a (brother, sister, dog, cat...)  
 S2: Yes, I do.  
 S1: What do you call him (her, it)?  
 S2: I call him (her, it) ...

※手元で操作するだけなので, 生徒の様子を確認しながら進められる。  
 ※生徒の興味関心をひくような資料を使って, 視覚的にも印象に残る説明ができる。  
 ※アトランダムに絵や単語を表示できる(マクロを組む)ので, フラッシュ教材として活用できる。  
 (教育研究所のフラッシュ教材を活用できます。)

# 学習状況調査結果

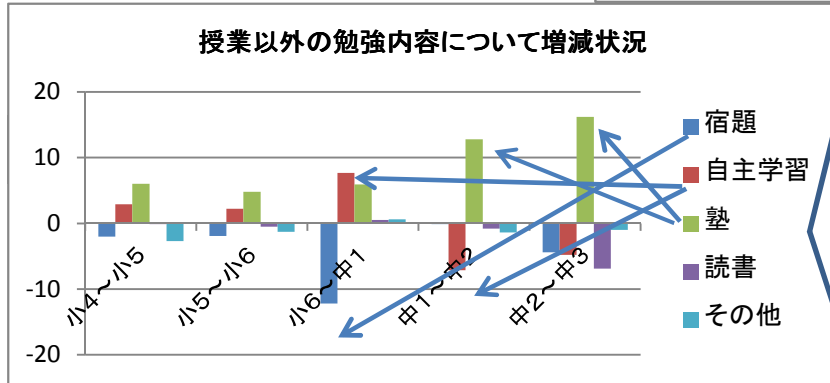
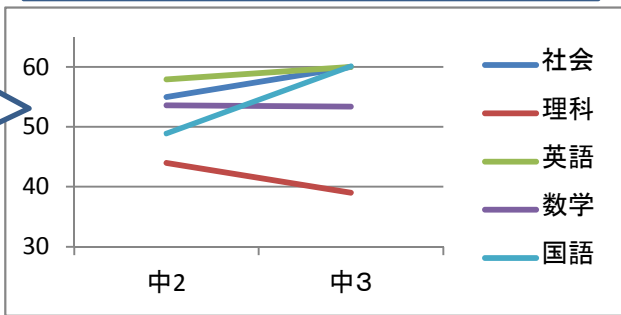
学習が好きは学ぶ意欲のパロメータ、これは学習時間と内容の理解と関係する



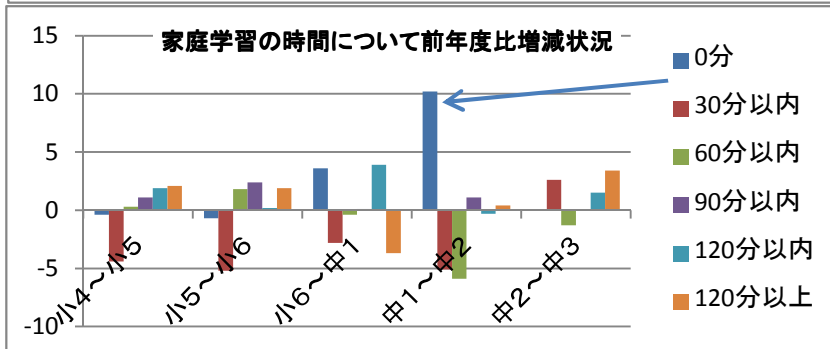
好きと回答する子は年々低下し、中2で最低になり、中2から中3で再び上昇する。

好きと回答する子は年々低下し、中2で最低になり、中2から中3はほぼ横ばいとなる。

中2から中3にかけて学習が好きになる傾向が、理科以外の教科に見られる。理科に関しては、学習内容が難しくなること、数学との関係が深まるなど、別調査においても、減少する傾向があります。受験期にさしかかる子どもが、勉強が好きに転じることは、学習内容だけではなく、学習時間との関連も考えられます。



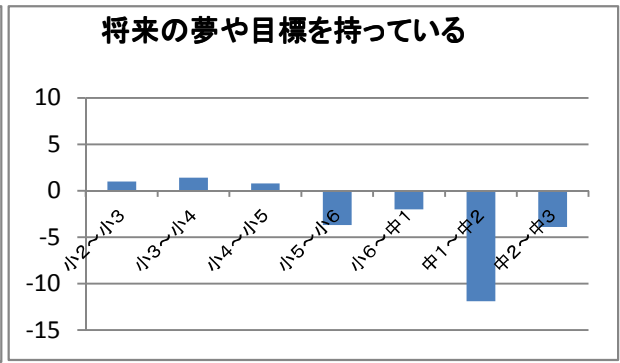
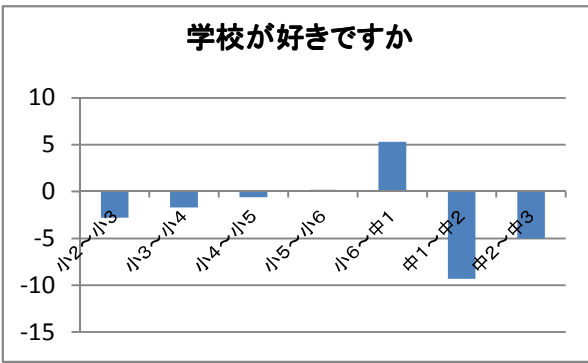
小6で家庭学習において「宿題を行う」が大幅に減少し、自主学習が増加する。中学校に向けて、自主的な学習を促す指導傾向が伺えます。しかし、中学校に進学後には、自主学習・宿題共に低下し、勉強をしない生徒と塾通いが急増します。この時に、小学校時代60分程度の学習を行っていた生徒の10%程度が0分の群に入ることがわかりました。柏市内全体では、中学校2・3年の時点において、家庭学習が0分と回答する生徒が約20%存在し、義務教育の9年間で最大になっています。



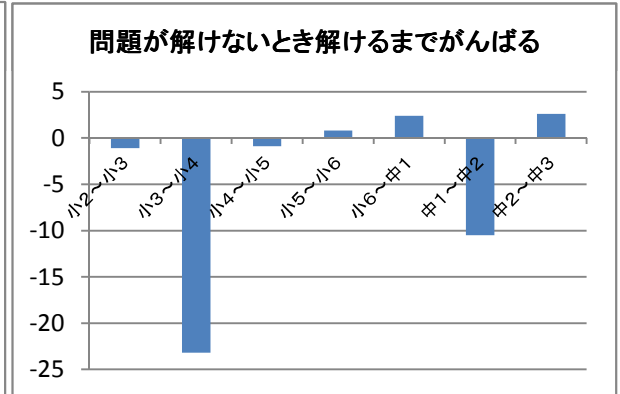
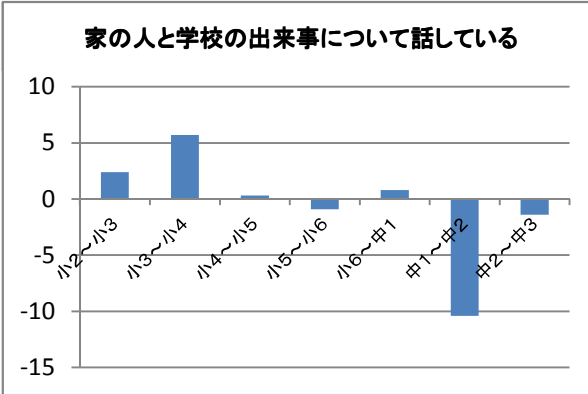
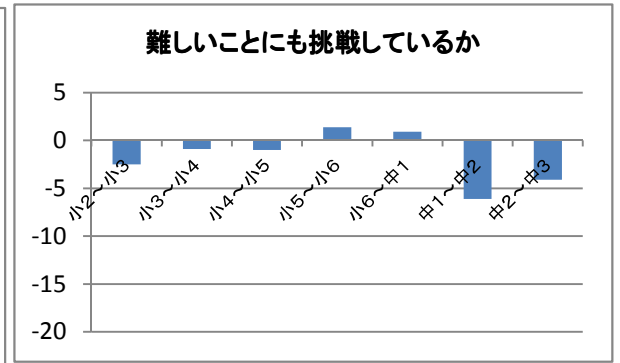
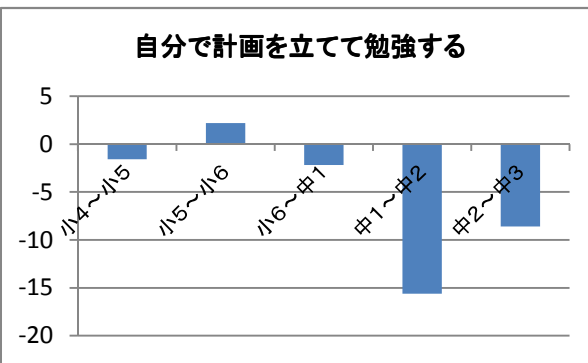
## 小中で情報を共有・連携し、家庭学習0分の解消を！

教科の学習を「好き」と回答する子は、その学習に対して意欲を持っていると考えられます。柏市の全ての教科・学年において半数以上の子どもたちが好きと回答をしています。各学校における先生方の指導の成果です。生涯学び続ける基礎を養う点から、さらに「好き」という児童生徒を増やすことが大切です。そのためには、家庭学習を含めた勉強時間の確保が必要です。中学校区で地域の実態に合わせた、適切な家庭学習について検討し、家庭学習0分を解消していきましょう。

## 子どもの変化に合わせた、小学校から中学校への緩やかな接続が必要



子どもたちの意識の変化を把握するため、同一児童生徒の前年度の回答状況との増減率をグラフ化しました。小6から中1にかけては、「学校が好き」「挑戦している」等の項目は増加しますが、その後、他の項目も含めて中1から中2にかけて、大幅な減少が見られます。ここに、子どもたちの意識の大きな変化が見られます。中学1年時の指導や生徒との関わりが大きな鍵になっています。

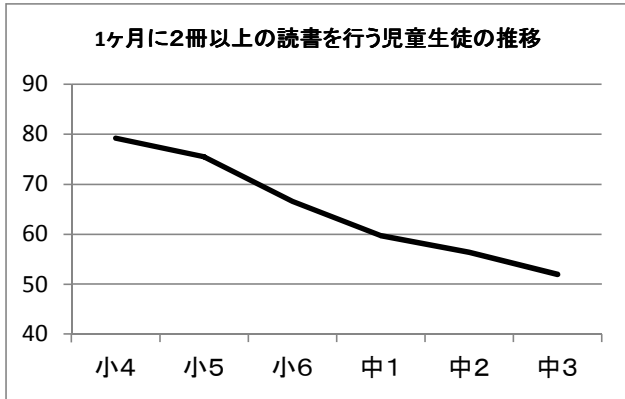
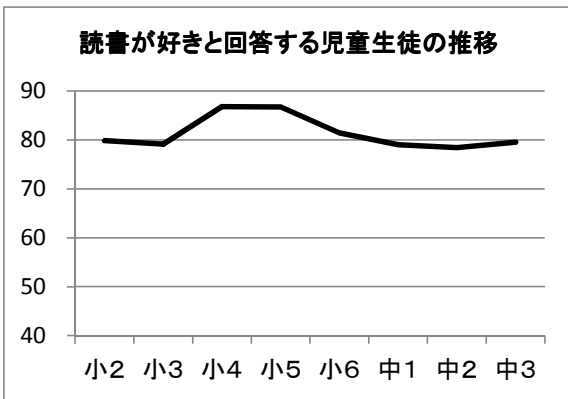


### 小中連携・小小連携で自尊感情を育もう！

「中1ギャップ」という言葉は、小学校卒業から中学校初期段階に発生する、様々な生活上の変化を指しているようなイメージがあります。しかし、子どもたちの心理的・生理的発達が以前より早期化していることが、各種調査から明らかになっております。また、東京都品川区や広島県呉市の調査では、小5になった途端に自尊感情の低下が急速に進むことが確認されており、本市の調査にもその傾向が見られます。子どもたちの思春期特有の現象が前倒しされていることから、小学校高学年から中学校2年の終期ぐらいまでの期間にわたって、大人の階段を登る子どもたちの姿を受け止める必要があります。

このような状況から、柏市では小中連携教育の一層の充実を図っておりますので、本調査結果についても小中、小小連携の中での分析をお願いします。小6から中1へのスムーズな移行という観点だけでなく、最近の脳科学の知見や発達理論を踏まえ、9年間を見通したカリキュラムの視点を中学校区で共有しながら子どもたちを育むことが重要です。

## 柏市の児童生徒に読書活動は定着しつつある



本を読むことが好き (%)

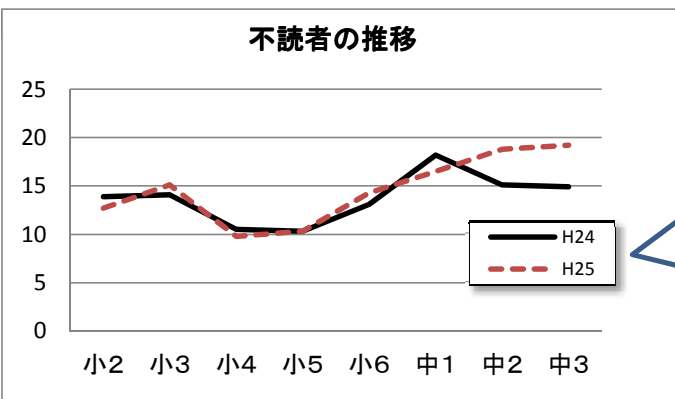
小2	79.8
小3	79.1
小4	86.8
小5	86.7
小6	81.4
中1	79.0
中2	78.4
中3	79.5
平均	81.3

全ての学年で約80%近い子どもたちは、読書が好きです。

1ヶ月2冊以上読書する (%)

小4	79.2
小5	75.5
小6	66.6
中1	59.7
中2	56.4
中3	52.0
平均	64.9

中学校3年生の半数は、1ヶ月に2冊以上の読書を行っています。



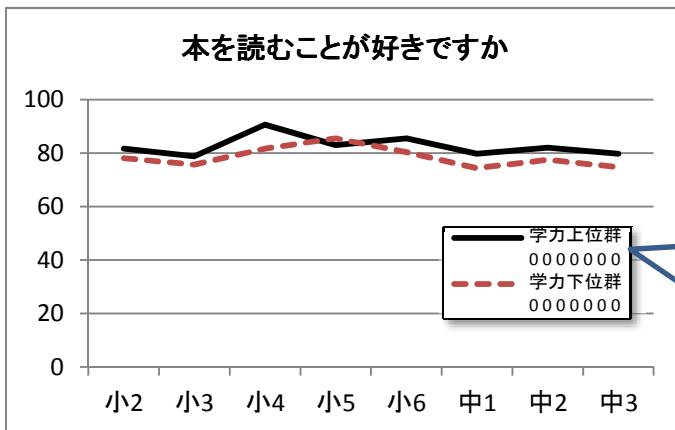
1ヶ月に1冊も本を読まない児童・生徒は、各学年で10～20%程度いることとなります。全国平均、小学校4.5%、中学校16%と比較すると、小学校としては高い傾向にあります。

### 読書好きを伸ばし 不読者を無くそう！

柏市の児童・生徒に読書活動は、定着しつつあるといえます。また、月に2冊以上読む児童・生徒は、年々減少するものの、中学3年の春の時点でも50%以上の生徒が月に2冊以上の読書を行う習慣化がされてきている。学校図書館協議会の調査では一ヶ月4.2冊(2012)という報告もあり、一層の読書習慣の定着が必要です。

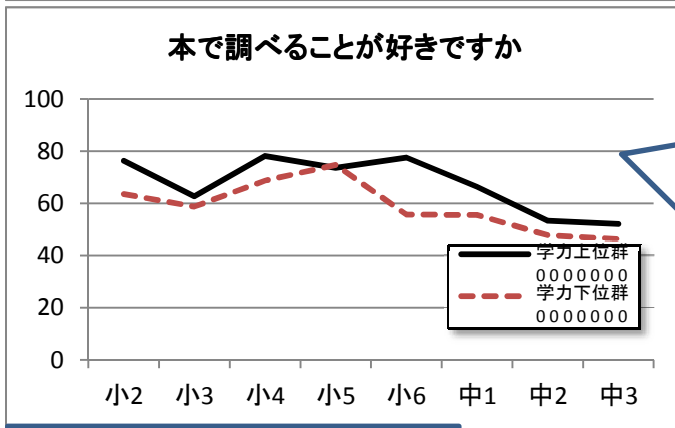
一方、不読者も10%～20%程度存在します。低学年の不読者は、高学年になっても不読のままになってしまう傾向があります。人数にすると各学校とも学年に数名の範囲です。朝読書等の全校読書活動の中で、個別指導を行い解消していきたいところです。また、小学校4年生までに本に親しむような、個に応じたきめ細やかな手立てを講じることで、高学年以降の不読者を減らすことにつながると考えられます。

## 学校図書館の活用は、児童・生徒の学力向上に結びつく



学力状況調査の結果をもとに、学力上位群と学力下位群に分け、読書活動との関連を考察しました。

本を読むことに対する興味関心は80%前後で、学年が上がってもあまり変化はありません。上位群、下位群の差も認められません。

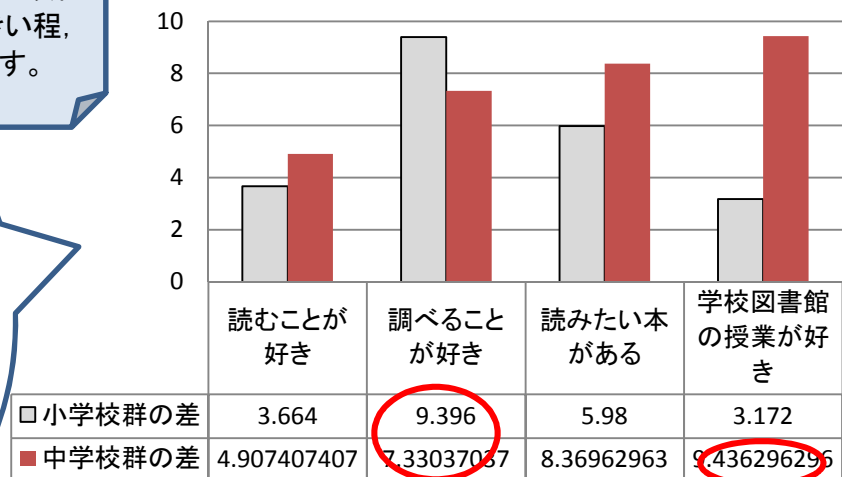


学力状況と調べ学習に対する興味関心に関係があることがわかります。本で調べることが、学力の向上につながっていることが読み取れます。特に小学校6年生以降で、調べ学習を積極的に取り入れていく必要があります。

次に、平均正答率上位群と下位群の回答状況で、差が大きい項目に着目しました。差が大きい程、学力との関連が予想されます。

小中学校共に調べる活動において顕著な差が見られます。中学校では学校図書館を活用した授業を行うことにより、学力向上の効果が期待できます。

図書館の活用(平均値の差)

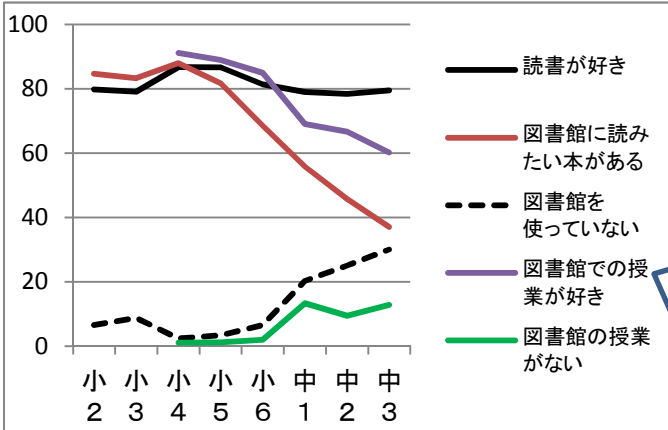


### たくさん読んで たくさん調べて 学力アップ!

柏市内の児童・生徒は読書が好きです。このことが、柏市の児童・生徒の学びの基礎力を支えています。2学期の学習計画に、学校図書館活用を1つ決めて、学年全体で取り組んでみるとよいでしょう。

学校図書館は中学生にとって、読書の場合から調べ学習の場に意識が変わっています。各教科で積極的に学校図書館を活用し、主体的な学習態度を育成し、生涯にわたって図書館を活用していく基礎づくりにつながるよう、実践の工夫改善を図ってください。

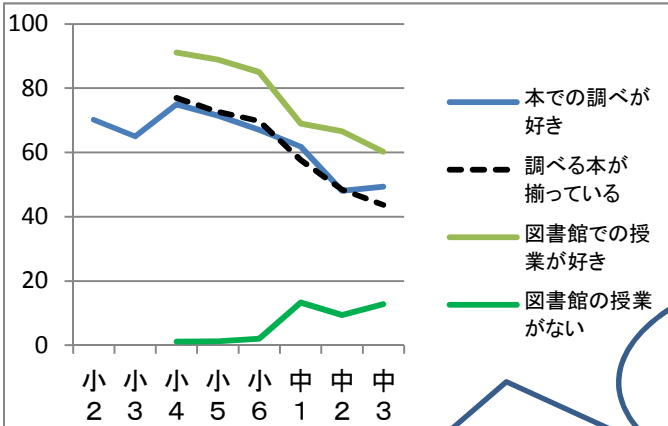
これからの学校図書館の役割 高学年以上は学習情報センターとして



子どもの側にとって、学校図書館の活用方法について考察しました。

月に2冊以上の本を読んでいる子どもは50%以上いますが、小学校6年生から中学校3年生にかけて「学校図書館に読みたい本がある」という数値が下降しています。

学年が上がるにつれ、子どもの読書傾向が多様化し、学校図書館だけではニーズに応じきれなくなります。高学年以上は、書店等で読みたい本を購入している傾向が見られます。



小学校では、読書活動での学校図書館活用が積極的に行われています。中学校における読書活動の活性化に向けた活用が期待されます。

本で調べることが好きと回答する子どもと、調べる本が揃っていると回答する子の数値が、調べ学習が本格化する小学校高学年から同率で減少しています。今後、調べ学習で活用できるよう、蔵書の充実を図ることが課題です。単元の学習内容に合わせた本のリストを作成したり、調べ学習で活用できるパスファインダーの充実を図ったり、学習情報センターとしての活用が促進できるよう、柏市としても整備を図って参ります。

「読書センター」から「学習情報センター」へ

柏市では、多様な学びの場として学校図書館活用を推進しているため、読書活動に関する児童・生徒の関心が高いことがわかります。学校図書館の役割として、読書の場と総合的な学びの場としての2面があります。調査結果から学年が上がるにつれ、学校図書館は読書以外の目的を持って利用する場に変化していく必要性が見られます。

そこで、司書教諭や学校図書館指導員を活用し、学校図書館の魅力をさらに高めていくことが望まれます。「新刊本の紹介」に加え、知的好奇心を刺激する「調べたいことがわかる本」や、学習単元に沿った配本を行い、学校図書館の「学習情報センター」としての機能を高めていくことが求められています。教育委員会では、昨年度からコンピュータの入れ替えに伴い、学校図書館に無線LANを設置し、配備したノートPCを利用して学校図書館でのインターネット検索が容易にできるよう、環境整備を行っています。小学校高学年からは、「学習情報センター」の機能を生かした活用ができるよう、年間指導計画の見直しや蔵書状況の確認をお願いします。



柏市教育委員会では、調べ学習を充実させるために、「学校図書館指導員」と「IT教育支援アドバイザー」の共同作業で「図書パスファインダー」を作成しています。

小学校3年から中学校3年までの国語、社会、理科の調べ学習で役立つ「書籍のリスト」「インターネット検索キーワード」などを、授業で活用できるようプリント形式にして用意しております。学校のコンピュータのメニューからリンクされていますので、オンラインでの活用、プリントアウトしての活用を通して、調べ学習の充実を図ってください。授業中にYahoo等の検索エンジンを自由に使えるような授業は、改善を図っていきましょう。



### 図書パスファインダー

図書パスファインダーとは、調べ学習の検索にかかっている時間を短縮でき、資料にじっくりと向き合う時間が確保できるよ！

「図書パスファインダー」って何？

学年	教科	リスト
小学3	国語	<a href="#">生き物のとくちょうを説明しよう</a>
	社会	<a href="#">日本の自然と文化</a>
	社会	<a href="#">日本の歴史</a>
	理科	<a href="#">身のまわりの科学</a>
	理科	<a href="#">身のまわりの自然</a>
	理科	<a href="#">身のまわりの環境</a>
小学4	国語	<a href="#">生き物のとくちょうを説明しよう</a>
	社会	<a href="#">日本の自然と文化</a>
	社会	<a href="#">日本の歴史</a>
	理科	<a href="#">身のまわりの科学</a>
	理科	<a href="#">身のまわりの自然</a>
	理科	<a href="#">身のまわりの環境</a>

調べ学習の検索にかかっている時間が短縮できて、資料にじっくりと向き合う時間が確保できるよ！

#### 小学校3年 国語 【生き物のとくちょうを説明しよう】

キーワード

動物 虫 ... 鳥 E 虫 ... 虫 ...

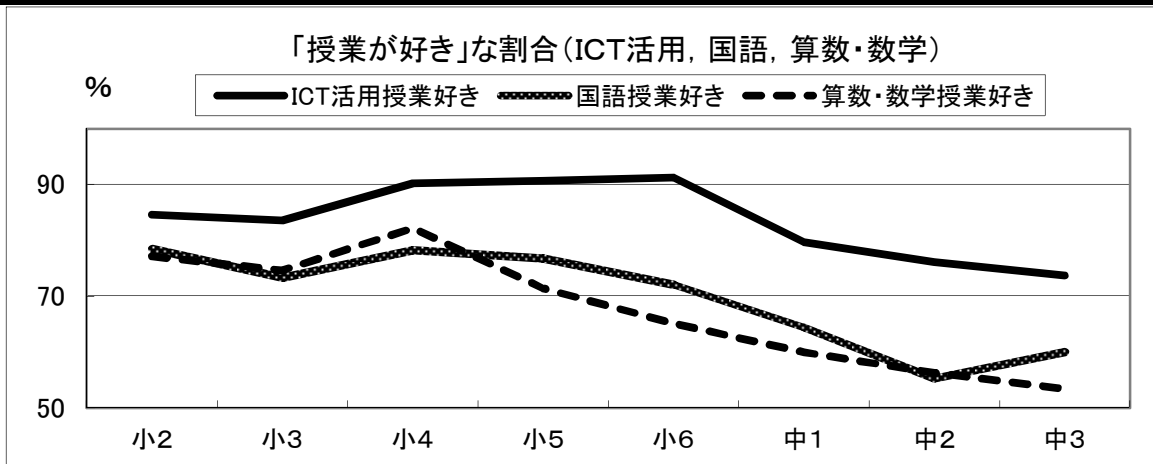
本でしらべるには

書名	出版社	分冊
生き物のとくちょうを説明しよう	福音社	1冊
動物のついで話	福音社	1冊
生き物のとくちょう	福音社	1冊
生き物のとくちょうを説明しよう	福音社	1冊
生き物のとくちょうを説明しよう	福音社	1冊

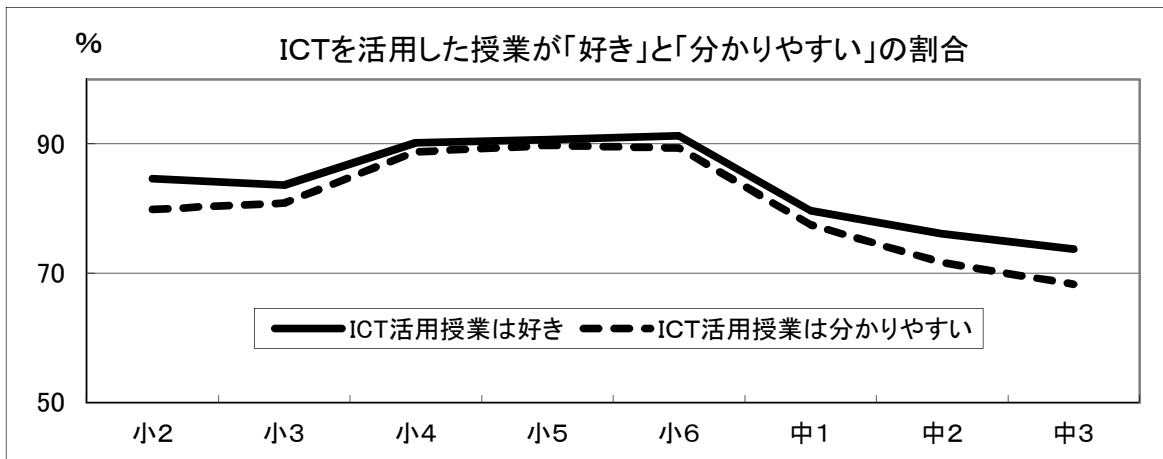
インターネットで調べるには

検索の仕方	出典	アクセス口
Yahoo!検索	Yahoo!検索	2012.12.6
動物の	NIKKEI School	2012.12.6

## ICT活用で学力は向上する

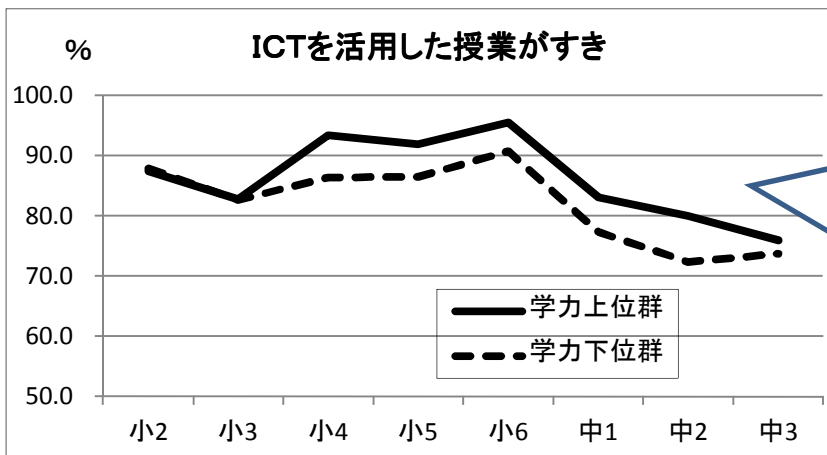


「国語」と「算数・数学」の授業と、「教師や友達がICTを活用した授業」が好きな割合を比較すると、ICTを活用した授業が好きな割合は、全学年で最も高くなっています。いずれも学年が上がるにつれて低下する傾向は見られるものの、国語や算数・数学と比較して高い数値を維持しており、小学校高学年や中学校においては、その差が大きくなっています。教科学習の中でICTを活用することで、児童生徒の興味・関心を高めることが期待できます。



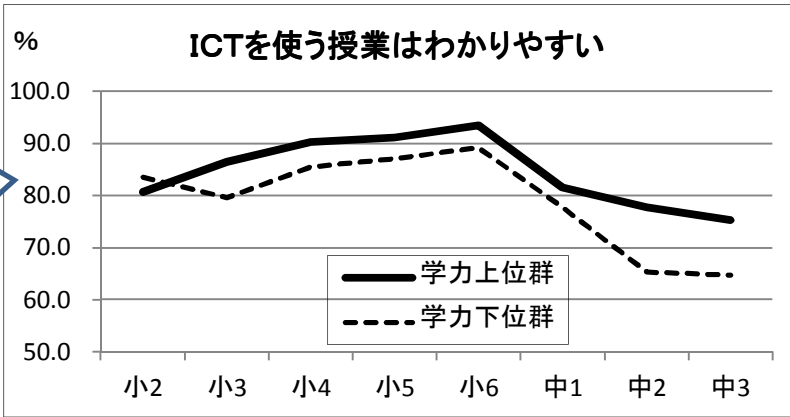
前述の「ICTを活用した授業が好き」と「ICTを活用した授業は分かりやすい」を比較すると、その割合は全学年でほぼ一致しています。このことから、児童生徒は、教師や友達が授業でICTを活用することで、授業が分かりやすくなるため、好感を持っているものと考えられます。ICTを使うことで分かりやすい授業が実現できれば、学力向上につながります。

### 学力上位群と学力下位群に分けた生活・学習意識調査との関連



「ICTを活用した授業が好き」な児童生徒群は、学力が高くなっています。ICTへの関心は学力と関係があることが分かります。

「ICTを使う授業が分かりやすい」と回答している児童生徒群は、学力が高くなっています。特に中学校では、その差が大きくなるのが分かります。



文部科学省委託事業「教科指導におけるICT活用と学力・学習状況の関係に関する調査研究」によると、ICTの活用頻度が高いほど、国語、算数の平均正答率が高くなるという報告がされています。また、より日常的に「ほぼ毎日」ICTを活用しているケースでの平均正答率が特に高くなっています。

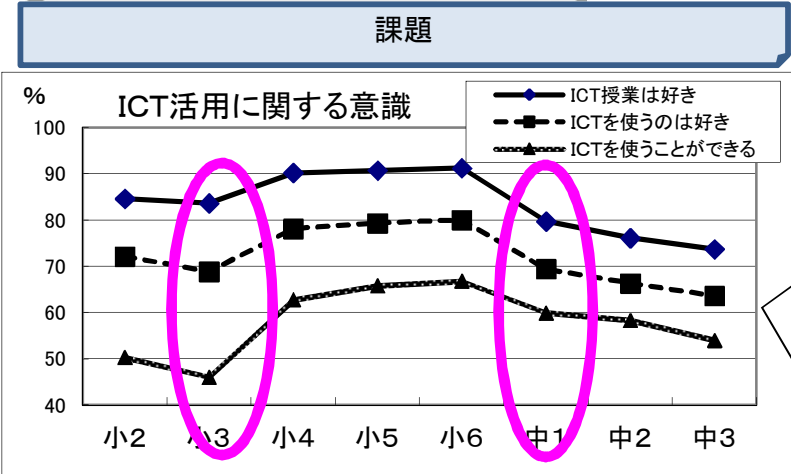
柏市では、普通教室において、天吊り(壁掛け)プロジェクタやコンピュータ、実物投影機の無線化などICT環境の整備を進めています。各教科において、学力向上を図る日常的なICTの活用をお願いします。

使用する教材では、実物投影機による教科書、実物、子どものノート等の投影と、コンピュータによるデジタルコンテンツの活用が効果的です。デジタルコンテンツについては、小学校に算数と社会の教科書準拠デジタル教科書の導入を進めていますので、日常的な活用をお願いします。その他の教科や中学校においては、利用できるデジタルコンテンツを校種ごと、教科ごとに「学習メニュー」に整理してあります。また、教育研究所作成のフラッシュ型教材もありますので活用してください。

ICTを活用した実践事例については、各校から収集した事例と授業実践改善検討委員会報告、1年経験者研修実践報国を合わせて265事例を公開しています。教育研究所ホームページからリンクされていますので、参考にしてください。



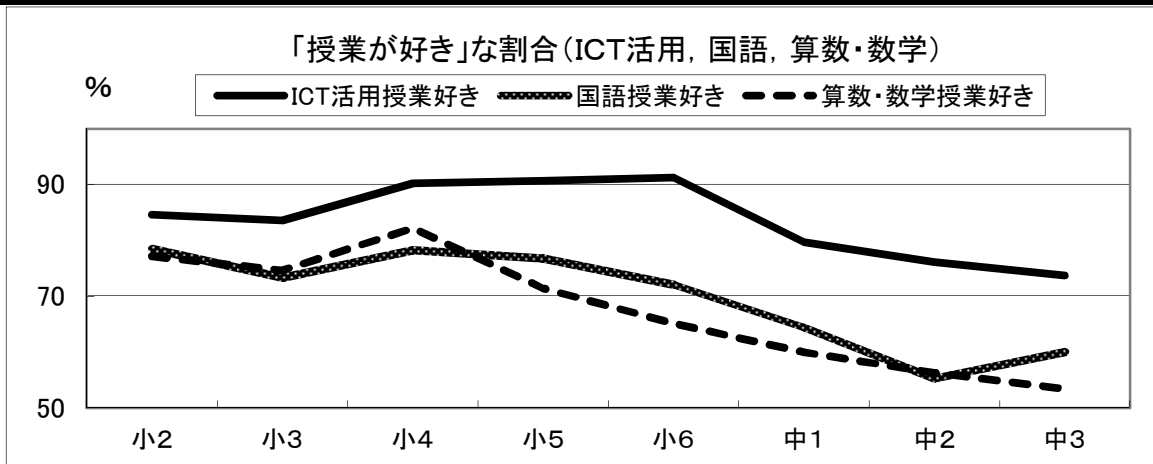
学習メニューとフラッシュ型コンテンツは、各校のトップ画面に設定してあります。



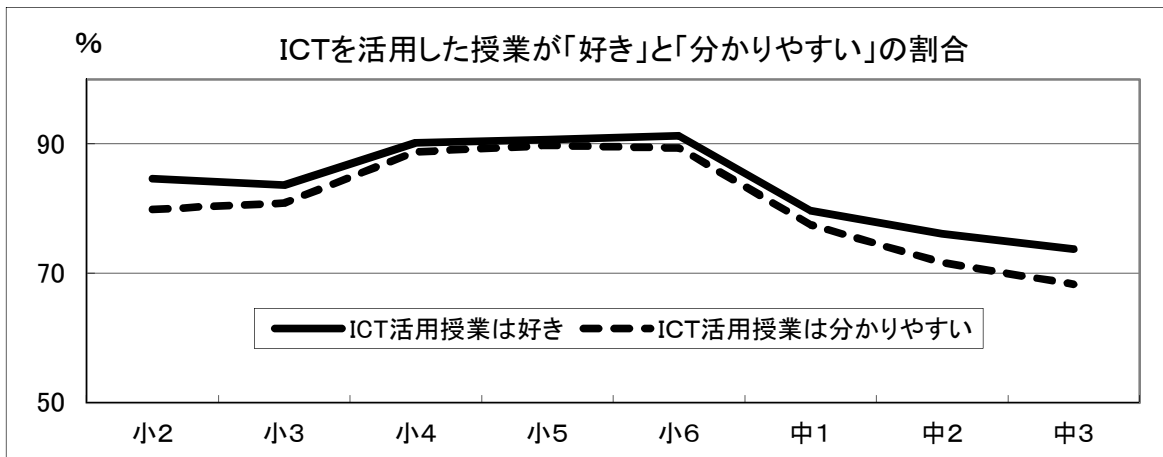
小学校では、3年生で低下傾向がみられます。ITアドバイザー授業支援要請が2年生は少ないことから、2年生時でのICT活用機会の減少が原因として考えられます。カリキュラムに位置づける等の工夫が必要です。

また、中学校では、急減に減少しています。普通教室のプロジェクタ常設やパソコン無線化等による環境整備を進めていますので、ICTを日常的な活用した、授業改善をお願いします。

## ICT活用で学力は向上する

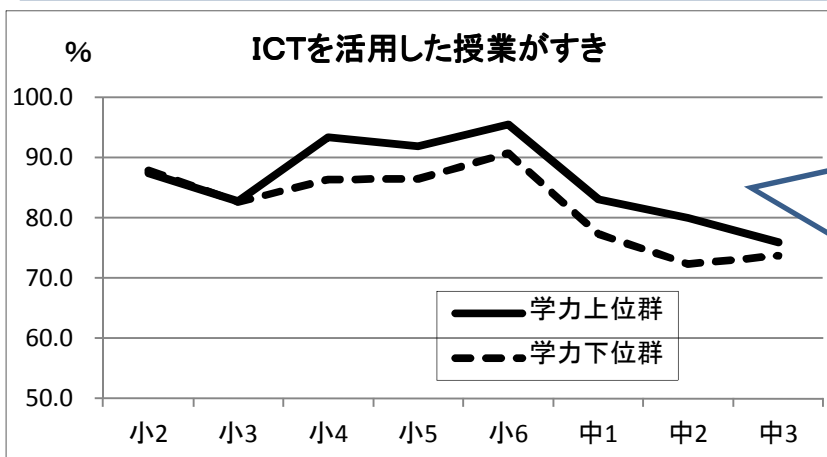


「国語」と「算数・数学」の授業と、「教師や友達がICTを活用した授業」が好きな割合を比較すると、ICTを活用した授業が好きな割合は、全学年で最も高くなっています。いずれも学年が上がるにつれて低下する傾向は見られるものの、国語や算数・数学と比較して高い数値を維持しており、小学校高学年や中学校においては、その差が大きくなっています。教科学習の中でICTを活用することで、児童生徒の興味・関心を高めることが期待できます。



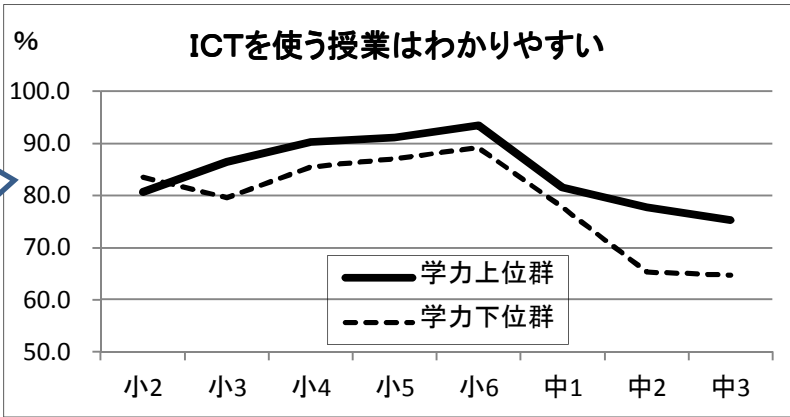
前述の「ICTを活用した授業が好き」と「ICTを活用した授業は分かりやすい」を比較すると、その割合は全学年でほぼ一致しています。このことから、児童生徒は、教師や友達が授業でICTを活用することで、授業が分かりやすくなるため、好感を持っているものと考えられます。ICTを使うことで分かりやすい授業が実現できれば、学力向上につながります。

### 学力上位群と学力下位群に分けた生活・学習意識調査との関連



「ICTを活用した授業が好き」な児童生徒群は、学力が高くなっています。ICTへの関心は学力と関係があることが分かります。

「ICTを使う授業が分かりやすい」と回答している児童生徒群は、学力が高くなっています。特に中学校では、その差が大きくなるのが分かります。



文部科学省委託事業「教科指導におけるICT活用と学力・学習状況の関係に関する調査研究」によると、ICTの活用頻度が高いほど、国語、算数の平均正答率が高くなるという報告がされています。また、より日常的に「ほぼ毎日」ICTを活用しているケースでの平均正答率が特に高くなっています。

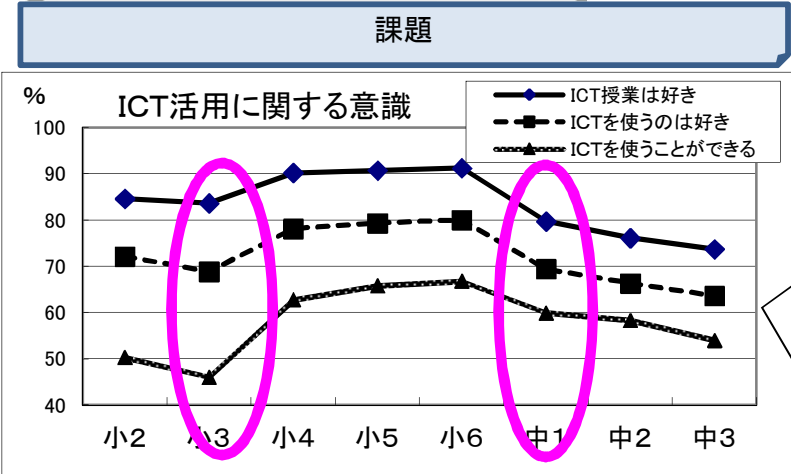
柏市では、普通教室において、天吊り(壁掛け)プロジェクタやコンピュータ、実物投影機の無線化などICT環境の整備を進めています。各教科において、学力向上を図る日常的なICTの活用をお願いします。

使用する教材では、実物投影機による教科書、実物、子どものノート等の投影と、コンピュータによるデジタルコンテンツの活用が効果的です。デジタルコンテンツについては、小学校に算数と社会の教科書準拠デジタル教科書の導入を進めていますので、日常的な活用をお願いします。その他の教科や中学校においては、利用できるデジタルコンテンツを校種ごと、教科ごとに「学習メニュー」に整理してあります。また、教育研究所作成のフラッシュ型教材もありますので活用してください。

ICTを活用した実践事例については、各校から収集した事例と授業実践改善検討委員会報告、1年経験者研修実践報国を合わせて265事例を公開しています。教育研究所ホームページからリンクされていますので、参考にしてください。



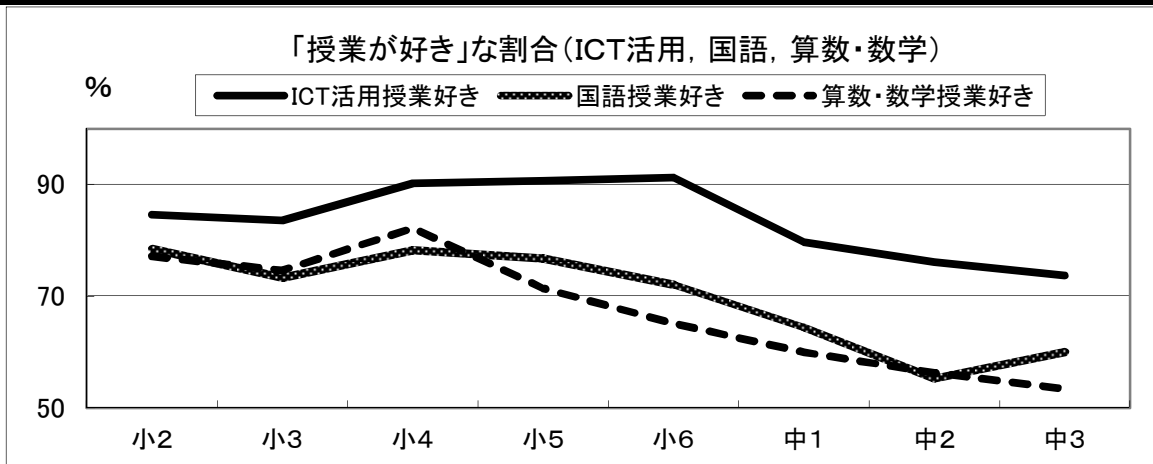
学習メニューとフラッシュ型コンテンツは、各校のトップ画面に設定してあります。



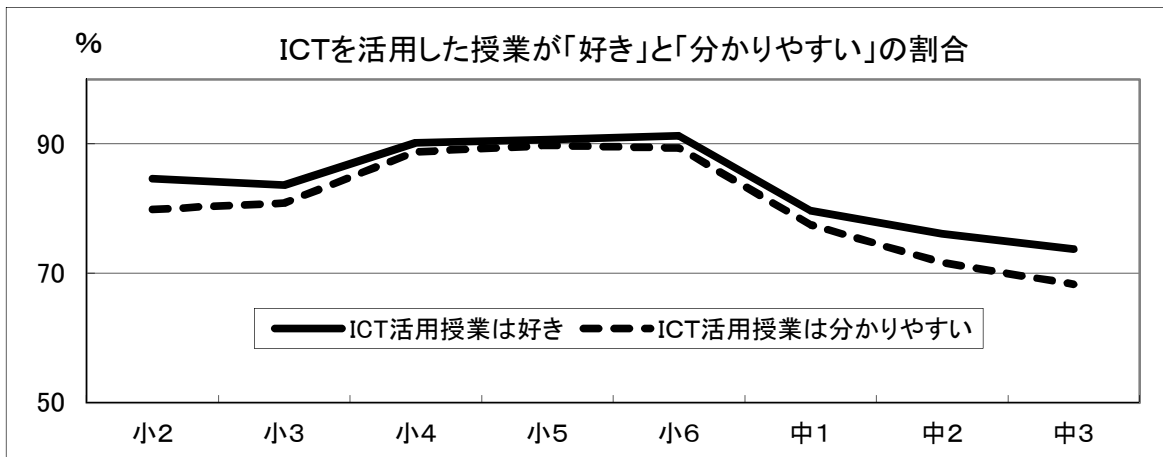
小学校では、3年生で低下傾向がみられます。ITアドバイザー授業支援要請が2年生は少ないことから、2年生時でのICT活用機会の減少が原因として考えられます。カリキュラムに位置づける等の工夫が必要です。

また、中学校では、急減に減少しています。普通教室のプロジェクタ常設やパソコン無線化等による環境整備を進めていますので、ICTを日常的な活用した、授業改善をお願いします。

## ICT活用で学力は向上する

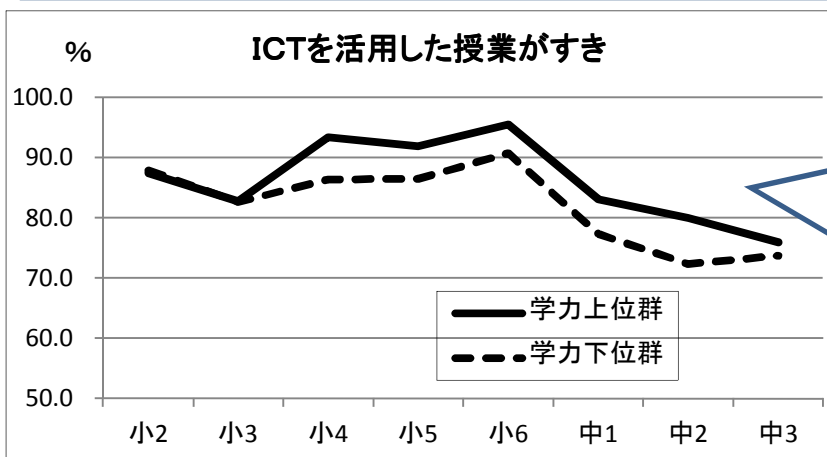


「国語」と「算数・数学」の授業と、「教師や友達がICTを活用した授業」が好きな割合を比較すると、ICTを活用した授業が好きな割合は、全学年で最も高くなっています。いずれも学年が上がるにつれて低下する傾向は見られるものの、国語や算数・数学と比較して高い数値を維持しており、小学校高学年や中学校においては、その差が大きくなっています。教科学習の中でICTを活用することで、児童生徒の興味・関心を高めることが期待できます。



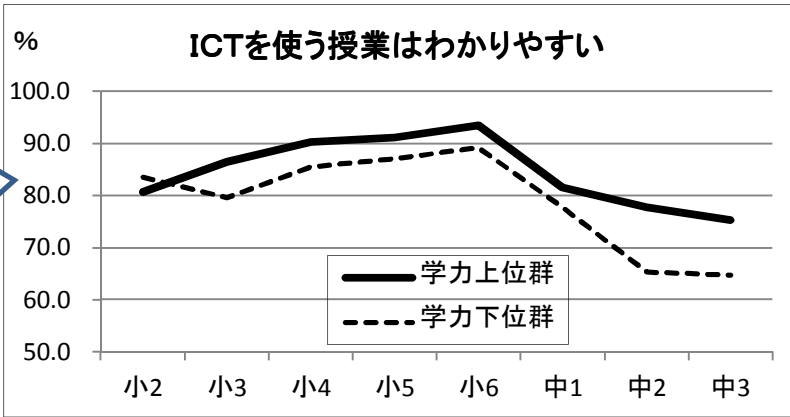
前述の「ICTを活用した授業が好き」と「ICTを活用した授業は分かりやすい」を比較すると、その割合は全学年でほぼ一致しています。このことから、児童生徒は、教師や友達が授業でICTを活用することで、授業が分かりやすくなるため、好感を持っているものと考えられます。ICTを使うことで分かりやすい授業が実現できれば、学力向上につながります。

### 学力上位群と学力下位群に分けた生活・学習意識調査との関連



「ICTを活用した授業が好き」な児童生徒群は、学力が高くなっています。ICTへの関心は学力と関係があることが分かります。

「ICTを使う授業が分かりやすい」と回答している児童生徒群は、学力が高くなっています。特に中学校では、その差が大きくなるのが分かります。



文部科学省委託事業「教科指導におけるICT活用と学力・学習状況の関係に関する調査研究」によると、ICTの活用頻度が高いほど、国語、算数の平均正答率が高くなるという報告がされています。また、より日常的に「ほぼ毎日」ICTを活用しているケースでの平均正答率が特に高くなっています。

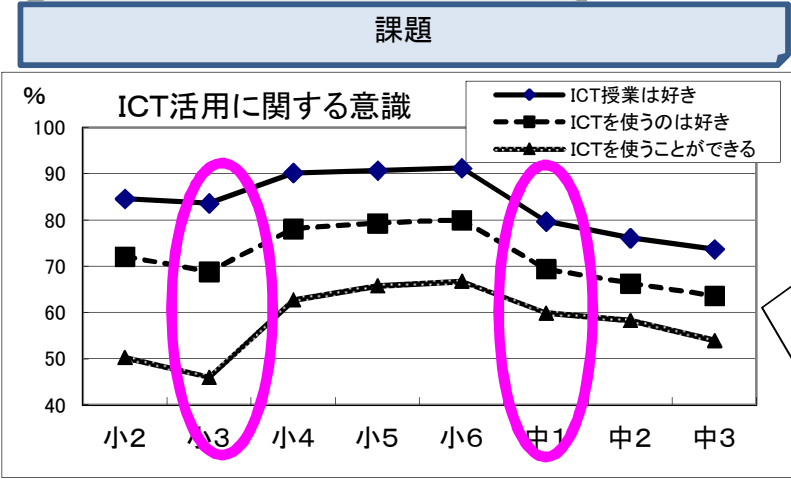
柏市では、普通教室において、天吊り(壁掛け)プロジェクタやコンピュータ、実物投影機の無線化などICT環境の整備を進めています。各教科において、学力向上を図る日常的なICTの活用をお願いします。

使用する教材では、実物投影機による教科書、実物、子どものノート等の投影と、コンピュータによるデジタルコンテンツの活用が効果的です。デジタルコンテンツについては、小学校に算数と社会の教科書準拠デジタル教科書の導入を進めていますので、日常的な活用をお願いします。その他の教科や中学校においては、利用できるデジタルコンテンツを校種ごと、教科ごとに「学習メニュー」に整理してあります。また、教育研究所作成のフラッシュ型教材もありますので活用してください。

ICTを活用した実践事例については、各校から収集した事例と授業実践改善検討委員会報告、1年経験者研修実践報国を合わせて265事例を公開しています。教育研究所ホームページからリンクされていますので、参考にしてください。



学習メニューとフラッシュ型コンテンツは、各校のトップ画面に設定してあります。



小学校では、3年生で低下傾向がみられます。ITアドバイザー授業支援要請が2年生は少ないことから、2年生時でのICT活用機会の減少が原因として考えられます。カリキュラムに位置づける等の工夫が必要です。

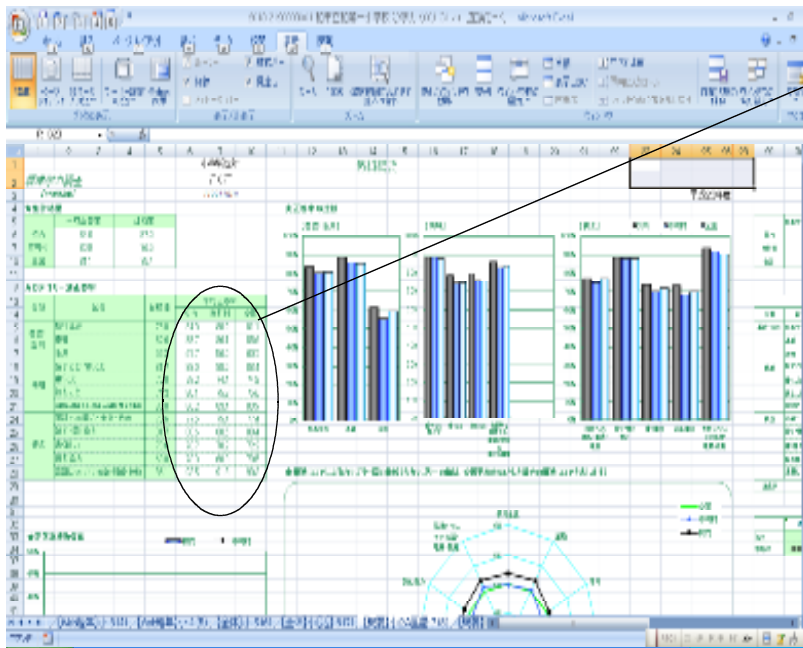
また、中学校では、急減に減少しています。普通教室のプロジェクタ常設やパソコン無線化等による環境整備を進めていますので、ICTを日常的な活用した、授業改善をお願いします。

## レーダーチャート分析シートの利用方法

このシートは、当該学年の結果を柏市全体・1年前の結果・昨年度の学年の結果、と簡単に比較できるように作成したものです。

- シートは学年ごと、教科ごとに用意してあります。
- 各学年の柏市平均正答率は既に入力済みです。
- シート上の指示に従って以下のように数値を入力してください。
- 入力するためのデータは、次のファイル名のファイルを開いて、各教科ごとに下画面のシートから転記してください。

ファイル名=\*\*\*\*\* 柏市立学校名①学力(00)C1.xls



ここのデータを転記する。

昨年度のデータについても、H24年度フォルダー内の同名ファイルより転記する。

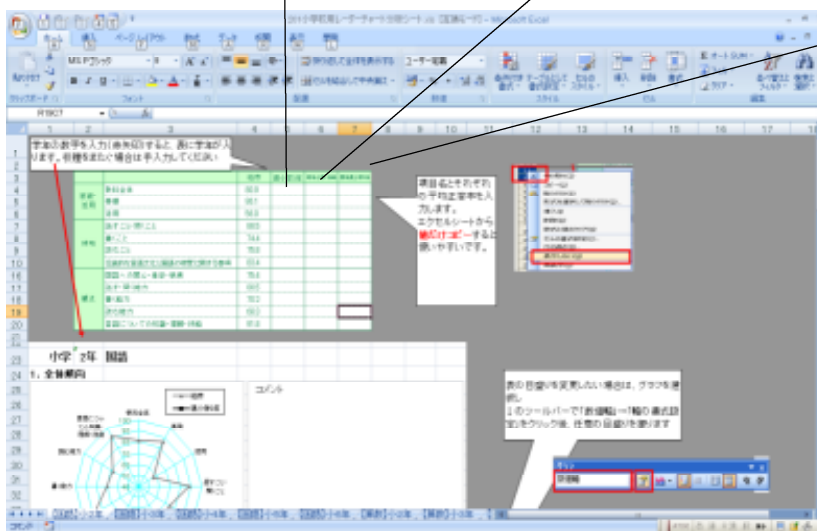
コピーする際に、4行ずつコピー貼り付けをしてください。

エクセルシートに非表示の行があるので、「基礎活用 領域 観点」と分けてコピーしてください。

今年の平均正答率を転記

昨年（1年前の当該学年）の平均正答率を転記

昨年度同学年の平均正答率を転記



上記操作により、柏市との比較、去年の自分たちの結果と比較、去年の学年との比較ができます。学年の特徴を把握して、指導に生かしてください。

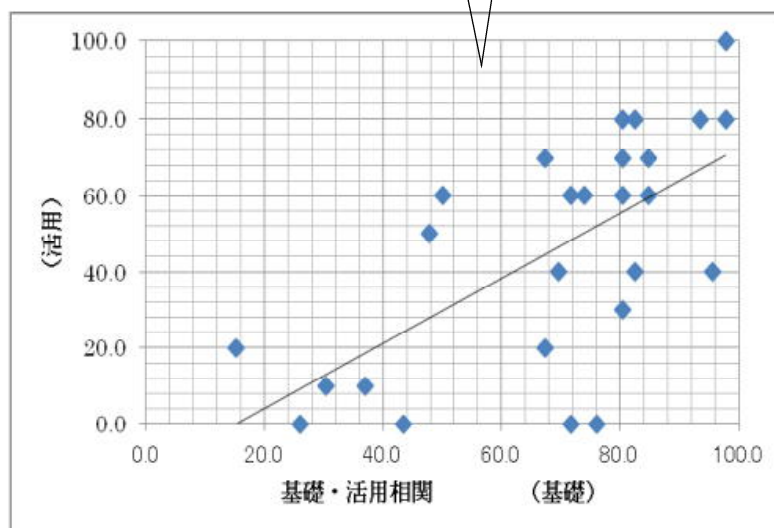
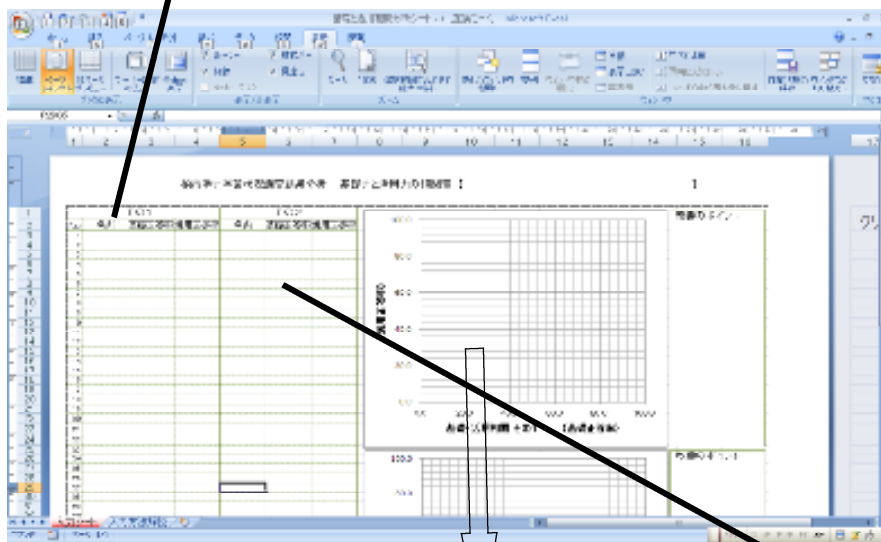


## 基礎と活用相関分析シートの利用方法

各学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、一人一人の子どもたちの分布状況を明らかにし、学級の特徴や一人一人の子どもたちの状況を可視化するものです。

- 「\*\*\*\*柏市立学校名第\*学年①学力(\*\*).xls」のファイルから、各学級ごとの、基礎と活用の平均正答率を転記（コピーペースト）して活用してください。
- 「入力方法解説」のシートに説明がありますので、参照してください。
- 入力シートはシートのコピー等で増やして活用してください。
- 東京書籍から提供されているデータは、列や行を隠してあるところがあります。面倒でも、一列ずつコピー貼り付けをお願いします。
- 貼りに付ける際に、値のみ貼り付けを選択していただくと最適です。
- その1とその2は便宜的につけたものです。国語と算数・去年と今年、など読み替えて利用してください。

子どもの名前を転記した際には、扱いに十分留意してください。



基礎正答率と活用正答率を入力（転記）すると、自動的に左記のようなグラフが作成されます。

学級全体の状況が把握できる同時に、一人一人の子どもたちの状況を把握できます。

分布状況を生かした、適切な改善策を各担当の先生で考えることができます。

平成 25 年度

柏市学力・学習状況調査結果報告書

「次の手を見いだすために・・・」

編集 柏市教育委員会学校教育部

指導課・教育研究所

発行 柏市教育委員会

2013 年 7 月